

西洋教育思想史 I

1005

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
廣岡 義之

〔到達目標〕

西洋教育思想の歴史を、その時々の人間観、世界観との関連で理解する。

〔授業の概要〕

『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』を教科書として使用し、西洋教育思想を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目的にする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。（90分）特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。（90分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 古代ギリシア・ローマの教育思想
古代ギリシア・ローマの教育思想を、同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 2 回 中世の教育思想
中世の教育思想を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 3 回 ルネサンス期の教育思想
ルネサンス期の教育思想を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 4 回 宗教改革の教育思想
宗教改革の教育思想を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 5 回 17世紀の教育思想（コメニウス）
17世紀の教育思想（コメニウス）を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 6 回 18世紀の教育思想（ロック、ルソー）
18世紀の教育思想（ロック、ルソー）を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 7 回 ペスタロッチ等の教育思想
ペスタロッチ等の教育思想を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 8 回 革命期の教育制度と教育の歴史
革命期の教育制度と教育の歴史を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 9 回 19世紀の教育制度と教育の歴史（フレーベル、ヘルバルト）
19世紀の教育制度と教育の歴史（フレーベル、ヘルバルト）を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 10 回 20世紀の新教育運動（田園教育舎系の教育者、シュタイナー）

20世紀の新教育運動（田園教育舎系の教育者、シュタイナー）を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。

- 第 11 回 アメリカの教育思想家たち
アメリカの教育思想家たちを同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 12 回 世界の教育制度の改革と動向
世界の教育制度の改革と動向を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 13 回 現代教育の課題と展望
現代教育の課題と展望を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 14 回 現代の学校教育制度①
現代の学校教育制度を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。
- 第 15 回 現代の学校教育制度②
現代の学校教育制度を同時代の人間観、世界観との関連で理解する。

〔成績評価〕

講義中の発表・態度50%、レポート50%。

〔教科書〕

『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』広岡義之著（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

学校カウンセリング I

1013

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
林 知代

〔到達目標〕

- ・カウンセリングに関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、教師に必要なカウンセリングの理論と実践における認識・理解を深める。
- ・生徒指導や教育相談におけるカウンセリングの実践のあり方を理解し、効果的なカウンセリングの方法を身につける。
- ・児童生徒は一日の多くの時間を学校で過ごしている。家庭で穏やかに過ごしている子どもが、学校では不適応を起こすことも多々ある。個々の子どもと家庭、学校の環境の中で生じている親・同胞・教師との相互性を背景に、どう捉え関わっていくかを把握する。
- ・実際の学校におけるカウンセリング実践という視点に立って教育活動を見つめ直す。

〔授業の概要〕

本授業では、個の持つ特性と学校という集団の力動に焦点を当てながら、事例を通して心理臨床的視点から実践的に問題を抱えている子どもたちへの関わりを考える。自己発達を基軸にした視点から学校における支援の在り方を探究する。①教師に必要なカウンセリングの理論と実際、②カウンセリング機能と教師役割の実際、③コーディネーションとコンサルテーション、④チーム援助の実際、⑤生徒指導や教育相談におけるカウンセリングの実際、などを柱に学校におけるカウンセリングの実際を学習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習として、次回の授業項目について学校の役割や教師の役割について考えディスカッションに備える。

復習としては、授業で学んだことをレポート形式で提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講に当たって
発表・討論授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
- 第 2 回 カウンセリング機能と教師役割
学校における心理的視点からの子ども理解と援助学校におけるの実際を討議する。
- 第 3 回 教師に必要なカウンセリングの理論 1
精神分析的心理療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 4 回 教師に必要なカウンセリングの理論 2
来談者中心療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 5 回 教師に必要なカウンセリングの理論 3
行動療法・認知行動療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 6 回 教師に必要なカウンセリングの理論 4
校内でのグループアプローチの事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 7 回 子どもの捉え方
乳幼児研究に基づく最新の発達研究に基づいて、子どものニーズを相互的関わり合いの視点から見る。
- 第 8 回 カウンセリング機能と教師役割の実際
チーム援助におけるコーディネーションの実際について発表・討論する。
- 第 9 回 カウンセリング機能と教師役割の実際 2
チーム援助におけるコンサルテーションの理論と理解について発表・討論する。
- 第 10 回 教員と保護者の連携
チーム援助におけるの教員と保護者の連携について発表・討論する。
- 第 11 回 教員とカウンセラーの連携
チーム援助における教師とカウンセラーの連携の実際について発表・討論する。

第 12 回 事例検討①

生徒指導におけるカウンセリング的視点の重要性について発表・討論する。

第 13 回 事例検討②

学習指導におけるカウンセリング的視点の重要性を発表・討論する。

第 14 回 事例検討③

進路指導におけるカウンセリング視点の重要性についての発表・討論する。

第 15 回 まとめ

全体を振り返り、疑問点や深めたい点について発表・討論する。

〔成績評価〕

ポートフォリオ・授業への積極的な参加（40%） 最終レポート（60%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

情報システム論 I

1016

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
中村 宏敏

〔到達目標〕

従来様々な場所にあるシステムを考える
既存システムにとらわれず、自由な発想で様々なシステムを考える。

〔授業の概要〕

パソコンや携帯などのネットワークシステムの現状把握と共に、現代社会における情報システムの方向性を理解し、活用出来る人を育成することを本授業の目的とする各自が考えたシステムをグループで発表し討議をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業中に出てくる専門用語については、次回授業までに必ず各自で調べる必要がある。またシステムの構築の場合次回授業までに素案を作成する必要がある（概算180分程度）

〔授業計画〕

第 1 回 現代社会とネットワーク

一昔前のWindows95やXPのころと現在を比べながらネットワークの理解を深める

第 2 回 情報とシステム

ビッグデータなど最近の情報のあり方やそれらを駆使したシステムについて考える

第 3 回 仮想システムの構築

入試システムを考える。効率の良いデータ収集、データ活用を考える

- 第 4 回 仮想システムの構築
入試システムを考える続き。考えたシステムが実用可能かどうかを話し合いながら進める
- 第 5 回 仮想システムの構築
顧客管理システムを考える。仮想の会社を設定し、顧客管理はどうあるべきかを考える
- 第 6 回 仮想システムの構築
エントリーシステムを考える。競技会や大会などのエントリーシステムを考える。
- 第 7 回 現代社会における情報の氾濫について
様々な情報があるが、自分が必要とする情報にどうやって検索をするのか
- 第 8 回 ネットワークとは
コンピュータネットワークの基本を学習する
- 第 9 回 小規模ネットワークの構築
会社などでの情報的なネットワークを設計し、構築をする。
- 第 10 回 小規模ネットワークの構築とセキュリティ
ウィルス・ワームの危険性を認識し、ネットワークセキュリティの必要性和運営を考える
- 第 11 回 携帯電話テザリングによるインターネット接続
ネットワーク外からのインターネットへの接続について考える。フリーWi-Fiの危険性についても学習する
- 第 12 回 音声認識システムについて
顔認証や、指紋認証、静脈認証、音声認識について広く学習しセキュリティについても考える
- 第 13 回 タッチパネルについてその技術と活用
タッチパネルの原理について考える
- 第 14 回 Webカメラとその活用
犯罪捜査などでもよく見かけるWebカメラについて、その設置方法とセキュリティーについて考える
- 第 15 回 学習の総まとめ
この学期の総集編、わからなかったことやこれからのシステムについて討議

〔成績評価〕

各単元に授業理解度を確認し、学期末には試験をとりおこないます。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する
最新の状況を踏まえながら資料を提示する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する
コンピュータ各社の最新製品情報（セキュリティシステムを含む）

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

講義終了後

臨床心理学特論

1995

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

2単位 前期

林 知代

〔到達目標〕

臨床心理学における、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助、臨床心理学研究法の4つの領域について、それらの意義や課題等について考えていきます。主体的に自らの学びのテーマを深めることを目標としています。

〔授業の概要〕

臨床心理学に関する文献を用いて、講義、発表、ディスカッションを行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

発表のための準備を予習とします。授業で配布する資料は次の回の授業までに熟読し疑問点を各自調べておくことを求めます。

復習はレポートで提出してもらいます。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって
自己紹介、授業の目的と進め方、成績の評価法を示します。
- 第 2 回 臨床心理学の歴史と現状①②
臨床心理学の歴史と現状を概説し、ディスカッションします。
- 第 3 回 臨床心理学の歴史と意義
臨床心理学の歴史と現状を概説し、ディスカッションします。
- 第 4 回 臨床心理学の変遷と現状
臨床心理学の理論と時代的変遷について概説し、ディスカッションします。
- 第 5 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション①
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 6 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション②
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 7 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション③
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 8 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション④
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 9 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション⑤

臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。

- 第 10 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション⑥
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 11 回 臨床心理学における研究の意義
臨床心理学における研究の目的や意義について概説します。
- 第 12 回 臨床心理学における研究テーマ①
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます
- 第 13 回 臨床心理学における研究テーマ②
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。
- 第 14 回 臨床心理学における研究テーマ③
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます
- 第 15 回 まとめ
授業の振り返りをします。

〔成績評価〕

ディスカッションの姿勢と内容(30%)
ポートフォリオと期末レポート(70%)

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

特別研究 I 【教育学演習】

2003
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 前期
三羽 光彦

〔到達目標〕

個別に修士論文指導を行います。

〔授業の概要〕

修士論文のテーマに即して具体的に指導を行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各自主体的に修論作成に臨んでください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1.修論指導①
第 2 回 2.修論指導②
第 3 回 3.修論指導③
第 4 回 4.修論指導④
第 5 回 5.修論指導⑤

- 第 6 回 6.修論指導⑥
第 7 回 7.修論指導⑦
第 8 回 8.修論指導⑧
第 9 回 9.修論指導⑨
第 10 回 10.修論指導⑩
第 11 回 11.修論指導⑪
第 12 回 12.修論指導⑫
第 13 回 13.修論指導⑬
第 14 回 14.修論指導⑭
第 15 回 15.修論指導⑮

〔成績評価〕

修論完成度合いによって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

参考文献は適宜提示します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

心理的アセスメントに関する理論と実践

2016
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
林 知代

〔到達目標〕

1. 心理的アセスメントの意義について概説することができる。
2. 心理的アセスメントに関する理論と方法について理解し実践することができる。
3. 心理に関する相談、助言、指導等について理解し実践することができる。

〔授業の概要〕

心理的アセスメントの意義および基礎理論を学ぶとともに、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、各検査の正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法について学習します。心理療法における相談、助言、指導等への応用について学習します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

取り上げる心理検査について、事前に手引き、解説書等を読んで、検査の実施方法や内容を学習しておくようにします。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって
授業の進め方、評価方法や参考文献などオリエンテーションします。
- 第 2 回 心理的アセスメント
心理的アセスメントとその意義について説明します。
- 第 3 回 心理的アセスメントにおける心理検査

心理的アセスメントにおける心理検査の役割について説明します。

- 第 4 回 心理検査の基礎理論
心理検査の妥当性と信頼性について説明します。
- 第 5 回 心理検査の実施から報告書作成まで
プライバシー保護及び報告書の作成の留意点
- 第 6 回 発達検査法
発達検査の実施を通して理解を深めます。
- 第 7 回 性格検査法1 (質問紙法)
検査の実施法の理解と実施をします。
- 第 8 回 性格検査法2 (投映法)
検査の実施法の理解と実施をおこないます。
- 第 9 回 性格検査法3 (投映法)
実施法と解釈法等を学びます。
- 第 10 回 性格検査法4 (投映法)
実施法と解釈法を学びます。
- 第 11 回 知能検査法1
知能検査の実施法を学びます。
- 第 12 回 知能検査法2
知能検査法の解釈法
- 第 13 回 事例報告1
事例を仮定し報告をしてもらいます。
- 第 14 回 事例報告2
事例を仮定し報告をしてもらいます。
- 第 15 回 まとめ
最終レポートを提出し授業を振り返ります。

〔成績評価〕

期末試験 (60%)

ポートフォリオ・課題の提出 (40%)

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

必要に応じて、適時お知らせします。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

健康スポーツ教育学研究

2022
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
中塘 二三生

〔到達目標〕

健康とスポーツ教育特に健康に関する研究法を習得する。

〔授業の概要〕

健康教育学研究に関する論文の作成法、調査・測定法の条件と誤差に加えて1)健康に関する研究では健康の意味(定義)、身体組成なかでも体脂肪率とその測定法と評価、肥満と健康、水分補給、2)栄養調査の面では栄養素、栄養摂取量、食品機能、保健機能食品などの概説を通して、研究法について理解してください。授業の最後には、「本日の授

業概要のなかから、あなたが今後研究を行うとすればどのような研究を行いますか」についてのミニプレゼンも予定しています。

〔授業時間外・準備学習(予習復習)〕

健康とスポーツ教育学研究に関する報道・文献・論文に関心を持ち、重要と思われる資料をファイルするように努めてください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業内容、成績などについてガイダンス
- 第 2 回 論文の作成法
健康スポーツ教育学研究に関する論文の作成法
- 第 3 回 論文の作成法
健康スポーツ教育学研究に関する調査・測定法の条件と誤差
- 第 4 回 現代社会の特徴
超高齢社会と健康寿命
- 第 5 回 高齢者の特徴
転倒の要因とロコモ・サルコペニア
- 第 6 回 身体組成とは何か
身体組成の内容
- 第 7 回 健康と肥満
健康と肥満の関連
- 第 8 回 肥満と肥満度の判定と評価
肥満と肥満度の判定の具体的な評価法
- 第 9 回 水分補給の重要性
健康と水分補給
- 第 10 回 健康と摂食行動
健康と摂食行動の関連と調節
- 第 11 回 健康と栄養障害
健康と栄養障害および痩の関連
- 第 12 回 健康と栄養素
健康と栄養素の接触と関連
- 第 13 回 食品の機能
健康と食品機能の関連
- 第 14 回 健康と食事摂取基準
健康と食事摂取基準の関連とサプリメントについて
- 第 15 回 まとめ
授業のまとめを行う

〔成績評価〕

健康やスポーツ教育に関する研究意欲、積極的な論議等から総合的に評価します。

〔教科書〕

教科書や参考文献・資料等は、特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

〔参考文献〕

参考文献・資料等は、特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

講義終了後

教育社会学 I

3001
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

教育社会学の対象と方法を理解することを目標にする。

教育社会学における基本的概念を理解することを目標とする。

〔授業の概要〕

教育は、人間の発達に関係し、その社会生活を規定する。

本講義においては、教育の営みの基本的枠組み・制度・機能・構造について、さらに教育社会学の基本的概念について説明する。

また近年の教育問題について焦点をあてて、教育社会学の視点から講義をする。

質問を随時受け付けて、それらの質問を踏まえて議論等をおこなう。

また積極的に維持分の意見を発表してもらいます。

学者者同士の議論 院生と教員との議論もおこないます。

レポートも課します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学校教育に関する諸問題について新聞・雑誌・ネットから情報を得ておくこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育社会学とは何か
教育社会学の視座・学問内容について学ぶ。
- 第 2 回 教育社会学の対象と方法
教育社会学の対象と方法および教育社会学の基本概念を理解する。
- 第 3 回 教育社会学の研究
教育社会学の変遷 教育社会学上の理論的・方法的枠組みについて学ぶ。
- 第 4 回 自我の形成と社会化
自我とは何か 社会化とは何か 社会化へのアプローチ 社会的自我の形成と

役割取得などを理解する。
第 5 回 現代社会における自我形成
役割葛藤と役割距離化 ミードの社会的自我理論

役割取得と自我形成の概念について理解する。
第 6 回 家族文化と社会化
現代社会における家族関係の変化と多様化について学ぶ。

第 7 回 家族とアイデンティティ
社会における家族関係の形成とアイデンティティについて理解する。

第 8 回 近代社会と幼児の教育
幼児期と基礎的社会化 子供の社会化と重要な他者 ルソーおよびフレーベルの教

育観と就学前教育について学ぶ。
第 9 回 学校教育への参加
学校体験の意味 理想的な学校教育への参加ライフコースと学校参加について理解する。

第 10 回 教師・生徒・カリキュラム
教授＝学習過程の成立を理解する。

一斉授業 等級 学級について学ぶ。
第 11 回 学級の空間
学級の成立と学級空間 学校の空間的配置

教室空間の創出 学校建築と学習スタイルを理解する。

第 12 回 隠れたカリキュラム
隠れたカリキュラムとは何か 学習形態と隠れたカリキュラムについて学ぶ。

第 13 回 現代社会における中等教育（1）
社会における中等教育 分岐点としての中等教育 中等教育の起源について学ぶ。

第 14 回 現代社会における中等教育（2）
統合から分化へ 教育活動としての進路指導を学ぶ。

第 15 回 選別としての中等教育
分化・選別としての中等教育 日本における中等教育の選別システム・機能について理解する。

〔成績評価〕

レポート 100%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

生徒指導・進路指導特論 I

4003
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

生徒指導・進路指導特論 I においては以下のことを到達目標とします。

生徒指導に関する意義・原理と課題・基礎的な概念を理解する。

生徒理解の方法を理解し、修得することを目標とする。

さらに具体的な指導場面に即した適切な生徒指導の方法と事例を理解し、

修得することによって指導を実践できるような資質能力を身につけることを目標とする。

〔テーマ〕

生徒指導の意義、原理と課題、目標、領域、組織、方法、および生徒指導上の諸問題について

の具体的な事例について学ぶ。

〔授業の概要〕

● 授業の概要 (目的)

生徒指導・進路指導特論 I においては、生徒指導について講義をします。

〔テーマ〕

生徒指導の意義、原理と課題、目標、領域、組織、方法、および生徒指導上の諸問題についての具体的な事例について学ぶ。

〔授業の概要〕

生徒指導の本質と原理、および領域に言及する。また、生徒指導の進め方および方法について概説する。

生徒指導の方法については、集団指導と個別指導の双方からの視点から説明する。

生徒指導上の諸問題については、生徒の問題行動や教育病理現象をとりあげ、新聞記事などを教材にして、生徒指導の原理と理論を踏まえた実際的な指導のあり方を論究する。

生徒指導のための体制については、学校、地域、家庭との連携を重点的に論述する。

キーワード

①生きる力 ②自己指導力 ③生徒理解と自己理解 ④集団指導と個別指導

講義時には質問や討論をおこなって学習者同士の話し合い、院生と教員の議論によってアクティヴラーニングをおこなう、修得した知識と技能の確認と活用をおこなうようにする。

〔授業時間外・準備学習 (予習復習)〕

教育の現場での諸問題に関心を払い、それらの知識を新聞・雑誌・ネットで得ておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回 生徒指導の教育的意義
－生徒指導の教育上の意義・本質を理解する－

生徒指導とは何か
生徒指導の目標について
生徒指導の意義と本質について

第 2 回 生徒指導と領域
－教科指導および教科外の指導領域との関連を理解する－

生徒指導と教科指導の関係について
生徒指導と道徳教育の関係について
生徒指導と進路指導の関係について
生徒指導と教育相談の関係について
生徒指導と特別活動について

第 3 回 生徒指導の課題
－生徒指導上の課題 (個人生活・学校適応・学習・人間関係等) について理解をする－

生徒指導上の形態
治療的生徒指導
積極的生徒指導
開発的生徒指導

第 4 回 生徒指導上の原理
－生徒指導上の実践原理 (人間尊重の原理・個別性の原理・発達支援の原理) について理解をする－

生徒指導の実践原理

第 5 回 生徒指導の理論 (1)
 ー基礎的な発達理論と教育相談の理論を理解するー

生徒指導の理論の重要性について

発達理論と教育相談
 生徒指導と教育相談

第 6 回 生徒指導の理論 (2)
 ー発達段階と発達課題について理解を深めるー

生徒指導における発達段階の理解の意義

エリクソンの発達段階

第 7 回 生徒理解の意義と目的
 ー生徒理解の意義と目的について学ぶー

生徒理解の意義と目的

生徒と教師のコミュニケーション

第 8 回 生徒理解の進め方
 ー生徒理解の進め方 (個別指導と集団指導) について学ぶー

生徒理解の方法
 蓋然的理解と個別理解
 共感的理解と客観的理解
 観察法 面接法 テスト法 作品法

第 9 回 生徒理解の方法
 ー生徒理解の方法 (検査・カウンセリング) について学ぶー

治療的支援をさせる教育相談
 教育相談で利用されるの心理検査と心理療法
 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング

第 10 回 学級経営の進め方
 ー学級集団と学級経営について理解を深めるー

生徒指導の視点からの学級経営の意味
 学級経営の意義
 学級集団の役割と機能
 学級集団の特質
 学級経営の方法

第 11 回 法的問題・危機管理
 ー法的問題 (懲戒・校則・体罰)・危機管理について理解するー

生徒指導の危機管理
 安全の保障と学習権

問題行動や事故への予知・予測
 問題行動や事故への未然防止
 問題行動や事故への対応
 問題行動や事故への再発防止

第 12 回 生徒指導と教科指導
 ー生徒指導と教科指導の関係の実践例について学ぶー

生徒指導と教科指導の統合について

第 13 回 生徒指導と病理現象
 ー学校現場における病理現象 (不登校・いじめ・暴力行為・ネット問題・虐待・引きこもり等) への指導及び外部との連携を理解するー

不登校・いじめ・暴力行為・中途退学等の実態
 中1プロブレム
 高1プロブレム

第 14 回 生徒指導と教師の資質と研修
 ー生徒指導に必要とされる教師の資質と研修を理解するー

生徒指導に必要とされる教師の資質

生徒指導の実践力を育成するための研修

第 15 回 生徒指導の体制と家庭・地域との連携
 ー家庭・地域との連携について理解するー

生徒指導の運営組織
 教師間の共通理解の重要性
 生徒指導の全体計画と年間計画
 異校種間の連携体制
 専門機関との連携

〔成績評価〕
 成績評価

定期試験 (筆記試験) は実施しない。(レポートを実施する。)
 レポートで課題を出します。
 評価の割合 100%

レポートの採点の観点は、正確性 客観性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。

出席状況・出席重視・出席回数を成績に加味しない。

〔教科書〕
 授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

生徒指導提要 (2010年 文部科学省 教育図書)

中学校学習要領 (平成20年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領 (平成21年3月告示 文部科学省)

その他 文部科学省答申

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

教育心理学 I

4004
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
三浦 正樹

〔到達目標〕

最新の教育心理学の動向、内容、理論の理解。

〔授業の概要〕

OECDのPISA調査で、科学的リテラシー、読解力、数学的リテラシーの全てで日本の順位が低下し問題になったことがあった。このような「学力低下」問題が数年前から叫ばれており、我が国でも小学生と中学生を対象に全国学力調査が行われてきている。また2007年度から従来の特殊教育が特別支援教育に移行し、LD、ADHD、高機能自閉症などいわゆる発達障害の児童・生徒が通常学級で学ぶようになった。教育をとりまく環境が大きく変化する中、教育心理学はさらなる実践との関わりが求められている。本講義では教育心理学の果たす役割について最新の知見をまとめるとともに、院生諸君にも論文を読み発表してもらい、議論しながら授業を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容の予習、発表資料の準備（90分）

授業内容の復習（90分）

〔授業計画〕

- 第1回 教育心理学とは
教育心理学の歴史と方法、教育心理学の内容、学校心理学
- 第2回 発達領域①
乳幼児期の社会情動的発達研究の動向と今後の展望
- 第3回 発達領域②
児童期・青年期、思春期・青年期を中心とした研究の動向

第4回 発達領域③

成人期・老年期における発達研究の動向

第5回 人格領域

人格心理学領域における研究動向と展望

第6回 社会領域

学校教育における社会心理学的視点、動機づけ、対人関係、適応

第7回 教授・学習領域

教科密着型研究、学習方略、学習観、知識の適用、文章理解

第8回 測定・評価領域

測定・評価における研究動向、統計的データ解析法

第9回 臨床領域

教育心理学的視点による学校臨床

第10回 障害領域

障害に関する教育心理学的研究の動向と課題

第11回 学校心理領域

学習援助に関する研究の動向と課題

第12回 院生による発表①

第13回 院生による発表②

第14回 院生による発表③

第15回 まとめ

前期の授業をふり返り、改めて教育心理学の役割について考える

〔成績評価〕

授業中の発表、発表資料、討論内容（50%）

期末試験（50%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

教育心理学研究・教育心理学年報

教育心理学会発表論文集

教育心理学ハンドブック、日本教育心理学会編、有斐閣

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日 12:30~13:30

③教員個人研究室

④miura@ashiya-u.ac.jp

⑤授業終了後、講義室でも対応します。

国際文化論

4006

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
中田 康行

〔到達目標〕

特に欧米文化を中心に、個別文化の諸特徴を理解しながら国際間の文化的関わりや、そこから派生する文化的、経済的、民族的諸問題を歴史的背景を踏まえて把握する。

〔授業の概要〕

欧米の国々に焦点を当て、歴史、文化、地名などにふれながら、その文化的特徴を考察し、国際文化研究を観点にして政治、経済、宗教、高等教育などの重要な論点を取り上げ考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

様々な情報に注意し関心ある国々について、自ら探求して欲しい。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要の説明
授業目標や概要、成績・評価の説明
- 第 2 回 現代ヨーロッパの確立と文化史的・歴史的背景
紀元前の古典時代ギリシア・ローマの歴史、文献を参考にして文化、社会などのテーマを考察する。
- 第 3 回 ローマ帝国の後世への文化的影響
とりわけ建築、美術、教育などの面を取り上げ考察する。
- 第 4 回 キリスト教の伝播と拡散（地理・民族）
キリスト教はキリストの死後約1000年かかってヨーロッパ全土に伝播しキリスト教世界が誕生したが、それまでの修道院教育についても触れる。
- 第 5 回 キリスト教の歴史的発展と国際文化的役割
中世を通じて概ね修道院と大学で（とりわけキリスト教の）教育が行われた。15.16世紀の修道院解体に至る中世後期が宗教、世俗、教育の観点からどのような時代であったかを考察する。
- 第 6 回 世界宗教サミットとグローバル化
宗教議者の代表が毎年宗教サミットを開催している。そこでは世界の貧困、民族差別、教育体制の構築など緊急の問題が論される。
- 第 7 回 ゲルマン系vsラテン系（融合と対立）
古典時代以後、ラテン系文化は理想とされ、中世を通して受け継がれてきたが、中世前期に成立したゲルマン諸国家にいかに関わりが継がれたのか、また受け継がれなかったのかを考察する。
- 第 8 回 中世暗黒時代の意味
ルネッサンス初期のイタリアの知識人はゲルマン文化の(建築、絵画、彫刻など)稚拙さや醜悪さの一面を捉えて「暗黒時代」と称したが、その意味を考察する。
- 第 9 回 中世暗黒時代と大教会建築（大聖堂）

中世後半の12世紀初頭からヨーロッパに大学や(現在の姿の)石造の大聖堂建設が始まるが、その影響を考える。

- 第 10 回 大聖堂建造と建築様式の変遷
11世紀末から建造が始まる大聖堂の建築様式は大きく3つの様式（ノルマン、ロマネスク、ゴシック）に分類されるが、理論的に力学的にその発展を考える。
- 第 11 回 大学の起源と発展
ヨーロッパの大学は11世紀のイタリアに始まるが、中世を通じて各地に広まった。中世の大学は概ねキリスト教神学が中心であった。
- 第 12 回 中世ヨーロッパの大学教育（と現代）
中世以降の発展を考え、現代の大学教育と異なるといかに異なるかを考察する。
- 第 13 回 アメリカ（建国、民族、地名）
アメリカは合衆国という大きな一つのまとまりではあるが、多くの民族の集合体でもある。地名からも様々な歴史的事情がうかがえる。
- 第 14 回 アメリカ（現状と国際的状況）
国際間の商取引は基本的にはドル仕立てで行われることやインターネットで配信される情報はたいていが英語である。このようなグローバル化は何をもたらす今後何をもちょうかを検討する。
- 第 15 回 アメリカ合衆国における“Rehispanicization”
アメリカはhispanic(スペイン語を話す中南米からの移民)問題を抱えている。この問題には教育も大きくかかわっていることを授業総括として理解する。

〔成績評価〕

レポート2回(40%、60%)

〔教科書〕

ハンドアウト・資料配布

〔参考文献〕

授業時に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。

アドレス nakata@ashiya-u.ac.jp

国際文化研究

4010

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
中田 康行

〔到達目標〕

特に欧米文化を中心に、個別文化の諸特徴を理解しながら国際間の文化的関わりや、そこから派生する文化的、経済的、民族的諸問題を歴史的背景を踏まえて把握する。

〔授業の概要〕

欧米の国々に焦点を当て、歴史、文化、地名などにふれながら、その文化的特徴を考察し、国際文化研究を観点にして政治、経済、宗教、高等教育などの重要な論点を取り上げ考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

様々な情報に注意し関心ある国々について、自ら探求して欲しい。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要の説明
授業目標や概要、成績・評価の説明
- 第 2 回 現代ヨーロッパの確立と文化史的・歴史的背景
紀元前の古典時代ギリシア・ローマの歴史、文献を参考にして文化、社会などのテーマを考察する。
- 第 3 回 ローマ帝国の後世への文化的影響
とりわけ建築、美術、教育などの面を取り上げ考察する。
- 第 4 回 キリスト教の伝播と拡散（地理・民族）
キリスト教はキリストの死後約1000年かかってヨーロッパ全土に伝播しキリスト教世界が誕生したが、それまでの修道院教育についても触れる。
- 第 5 回 キリスト教の歴史的発展と国際文化的役割
中世を通じて概ね修道院と大学で（'）とりわけキリスト教の教育が行われた。15.16世紀の修道院解体に至る中世後期が宗教、世俗、教育の観点からどのような時代であったかを考察する。
- 第 6 回 世界宗教サミットとグローバル化
宗教議者の代表が毎年宗教サミットを開催している。そこでは世界の貧困、民族差別、教育体制の構築など緊急の問題が論される。
- 第 7 回 ゲルマン系vsラテン系（融合と対立）
古典時代以後、ラテン系文化は理想とされ、中世を通して受け継がれてきたが、中世前期に成立したゲルマン諸国家にいかに関受け継がれたのか、また受け継がれなかったのかを考察する。
- 第 8 回 中世暗黒時代の意味
ルネッサンス初期のイタリアの知識人はゲルマン文化の(建築、絵画、彫刻など)稚拙さや醜悪さの一面を捉えて「暗黒時代」と称したが、その意味を考察する。
- 第 9 回 中世暗黒時代と大教会建築（大聖堂）
中世後半の12世紀初頭からヨーロッパに大学や(現在の姿の)石造の大聖堂建設が始まるが、その影響を考える。
- 第 10 回 大聖堂建造と建築様式の変遷
11世紀末から建造が始まる大聖堂の建築様式は大きく3つの様式（ノルマン、ロマネスク、ゴシック）に分類されるが、理論的に力学的にその発展を考える。
- 第 11 回 大学の起源と発展
ヨーロッパの大学は11世紀のイタリアに始まるが、中世を通じて各地に広まった。中世の大学は概ねキリスト教神学が中心であった。

- 第 12 回 中世ヨーロッパの大学教育（と現代）
中世以降の発展を考え、現代の大学教育といかに異なるかを考察する。
- 第 13 回 アメリカ（建国、民族、地名）
アメリカは合衆国という大きな一つのまとまりではあるが、多くの民族の集合体でもある。地名からも様々な歴史的事情がうかがえる。
- 第 14 回 アメリカ（現状と国際的状況）
国際間の商取引は基本的にはドル仕立てで行われることやインターネットで配信される情報はたいていが英語である。このようなグローバル化は何をもたらし今後何をもたらすかを検討する。
- 第 15 回 アメリカ合衆国における“Rehispanicization”
アメリカはhispanic(スペイン語を話す中南米からの移民)問題を抱えている。この問題には教育も大きくかかわっていることを授業総括として理解する。

〔成績評価〕

レポート2回(40%、60%)

〔教科書〕

ハンドアウト・資料配布

〔参考文献〕

授業時に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。

アドレス nakata@ashiya-u.ac.jp

機械工学特論

4012

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

2単位 前期

実務経験有

福田 芳行

〔到達目標〕

機械の設計・製作から運用までの全ての内容を対象とする機械工学の概要を知ることを通して、産業の発展やものづくりを支える機械工学の役割に目を向ける。

〔授業の概要〕

対象となる学問範囲が広い機械工学の全体像の理解を目的として、機械や機械の構成要素の設計・製作に必要な基礎的な学問的知識を解説する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

身の回りにある「動く製品や仕組み」について、どのような構造や原理に基づいて作動しているかということに関して、日頃から気にかけておく。構造や原理が不明な場合は、その製品の仕組みや外観を写真に保存しておくことが望ましい。

〔授業計画〕

- 第 1 回 機械とは何か、機械工学とは何か

- 機械の定義、機械工学の学問体系について講義する。
- 第 2 回 いろいろな機械材料①
様々な機械に使われる材料の中の「鉄鋼材料」について、種類、成分、機械的性質、用途の概要を解説する。
- 第 3 回 いろいろな機械材料②
様々な機械に使われる材料の中の「非鉄金属材料」について、種類、成分、機械的性質、用途の概要を解説する。
- 第 4 回 材料力学①
機械材料に求められる「機械的性質」の概要を解説する。
- 第 5 回 材料力学②
機械材料に求められる機械的性質の中の「引っ張り強度」、「圧縮強度」の概要を解説する。
- 第 6 回 材料力学③
機械材料に求められる機械的性質の中の「曲げ強度」の概要を解説する。
- 第 7 回 材料力学④
機械材料に求められる機械的性質の中の「ねじり強度」の概要を解説する。
- 第 8 回 機構学①
機械に用いられる様々な動作機構の中の「リンク機構」の概要を解説する。
- 第 9 回 機構学②
機械に用いられる様々な動作機構の中の「巻きかけ伝動機構」の概要を解説する。
- 第 10 回 機構学③
機械に用いられる様々な動作機構の中の歯車伝動機構に使われる「歯車」の概要を解説する。
- 第 11 回 機構学④
機械に用いられる様々な動作機構の中の「歯車伝動機構」の概要を解説する。
- 第 12 回 機械力学①
機械に用いられる回転機構における重要な物理量である「回転体の慣性モーメント」の概要を解説する。
- 第 13 回 機械力学②
機械に用いられる回転機構における重要な物理原理である「回転体の運動方程式」の概要を解説する。
- 第 14 回 エネルギー①
機械が動くために必要な「エネルギー」について、定義、種類、単位等の基本的事項を解説する。
- 第 15 回 エネルギー②
機械が動くために必要な「エネルギー」について、基本的な数量計算の方法を解説する。

〔成績評価〕

授業中に提示する課題の完成度、及び期末試験にて評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

・JSMEテキストシリーズ 機械工学総論、日本機械学会編、日本機械学会発行

〔履修条件〕

〔備考〕

〔実務経験の活用〕

民間企業において、設計部門（FF自動車用変速機的设计、開発業務）に従事した経験から、必要に応じて実物を使った演示実験を交えながら、回転機械の力学的及びエネルギー的解説を進める。

〔オフィスアワー〕

毎週1回、曜日と時間を決めて設定し、相談・質問等に対応する。

特別研究Ⅰ【教育心理学演習】

7105

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 前期

三浦 正樹

〔到達目標〕

修士論文の作成。論文は『心理学研究』『教育心理学研究』『発達心理学研究』などの専門誌に掲載されるようなレベルを目指す。

〔授業の概要〕

高齢化社会による生涯学習の要請、グローバル化、AIの進化など、近年の教育環境および社会環境の変化に伴い教育心理学という学問の進展も著しい。従来の実験を重視した量的研究も情報処理技術の進歩に伴い発展しているが、質的研究・臨床研究などより実践的な研究が増え、また内容の面においても学校心理学・特別支援教育などの分野が盛んになってきている。本演習ではこうした学問としての教育心理学の修士論文を書くための指導を行う。

前期では量的研究方法の最新動向についてまとめる。並行して文献を読んでいく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

論文テーマに関連する文献研究。

〔授業計画〕

- 第 1 回 観察法 1
- 第 2 回 観察法 2
- 第 3 回 実験法 1
- 第 4 回 実験法 2
- 第 5 回 調査法 1
- 第 6 回 調査法 2
- 第 7 回 調査法 3
- 第 8 回 検査・診断法 1
- 第 9 回 検査・診断法 2
- 第 10 回 ケーススタディ 1
- 第 11 回 ケーススタディ 2
- 第 12 回 統計法 1
- 第 13 回 統計法 2
- 第 14 回 統計法 3
- 第 15 回 まとめ

〔成績評価〕

授業中の発表、発表資料、討論内容による。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

各自のテーマに応じて適宜指示する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日 12:30~13:30

③教員個人研究室

④miura@ashiya-u.ac.jp

⑤授業終了後、講義室でも対応します。

特別研究Ⅰ【心理臨床演習】

7108

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 前期

林 知代

〔到達目標〕

学界と社会の要請に積極的に応える。

優れた研究成果の創出と発表に尽力する。

国内外の学会やシンポジウムに積極的に参加する。

研究成果の社会的還元に努める。

〔授業の概要〕

1年目前期では論文のテーマを絞り込んでいきます。その後文献レビューレポート作成します。1年目後期では、実証的な方法で収集されたデータの分析作成が目標となります。

2年目前期では、論文への展開と研究遂行の実践となります。2年目後期では、研究の集大成となる修士論文の完成となります。

立案・データ分析に関するマンツーマン指導など、段階に応じた講義・指導方法をとります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

個々の研究テーマに沿った課題を出します。

〔授業計画〕

第 1 回 開講にあたって

大学院において、研究論文完成のためにどのような準備必要か検討、決定する。

第 2 回 研究計画書の作成と発表 1

現在の研究計画について発表し助言を受ける。

第 3 回 研究計画書の作成と発表 2

現在の研究計画について発表し助言を受ける。

第 4 回 論文のテーマ 3

現在の研究計画について発表してもらいテーマを絞っていきます。

第 5 回 先行研究の検索方法

先行研究の意義と検索方法について理解する。

第 6 回 先行研究の検索

各自の研究計画書に対応した先行研究の検索を行い、整理する。

第 7 回 文献レビューレポート 1

各自のテーマに沿って文献検索と文献レビューレポート進めます。

第 8 回 文献レビューレポート 2

各自のテーマに沿って文献検索と文献レビューレポート進めます。

第 9 回 文献レビューレポート 3

各自のテーマに沿って文献検索と文献レビューレポート進めます。

第 10 回 文献レビューレポート 4

各自のテーマに沿って文献検索と文献レビューレポート進めます。

第 11 回 文献レビューレポート 5

各自のテーマに沿って文献検索と文献レビューレポート進めます。

第 12 回 先行研究の発表 1

検索、取得した先行研究を整理、検討したうえで、発表し、助言・指導を受ける。

第 13 回 先行研究の発表 2

検索、取得した先行研究を整理、検討したうえで、発表し、助言・指導を受ける。

第 14 回 先行研究の発表 3

検索、取得した先行研究を整理、検討したうえで、発表し、助言・指導を受ける。

第 15 回 論文構想振り返り

各自論文構想の作業を振り返り、夏休み中の作業を確認する。

〔成績評価〕

通常の論文への取り組み姿勢と論文の内容で評価します。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

特別研究Ⅱ【教育学演習】

7152

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 前期

三羽 光彦

〔到達目標〕

個別に修士論文指導を行います。

〔授業の概要〕

修士論文のテーマに即して具体的に指導を行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各自主体的に修論作成に臨んでください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1.修論指導①
- 第 2 回 2.修論指導②
- 第 3 回 3.修論指導③
- 第 4 回 4.修論指導④
- 第 5 回 5.修論指導⑤
- 第 6 回 6.修論指導⑥
- 第 7 回 7.修論指導⑦
- 第 8 回 8.修論指導⑧
- 第 9 回 9.修論指導⑨
- 第 10 回 10.修論指導⑩
- 第 11 回 11.修論指導⑪
- 第 12 回 12.修論指導⑫
- 第 13 回 13.修論指導⑬
- 第 14 回 14.修論指導⑭
- 第 15 回 15.修論指導⑮

〔成績評価〕

修論完成度合いによって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

参考文献は適宜提示します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

特別研究Ⅱ【教育心理学演習】

7155
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 前期
三浦 正樹

〔到達目標〕

高齢化社会による生涯学習の要請、グローバル化、AIの進化など、近年の教育環境および社会環境の変化に伴い教育心理学という学問の進展も著しい。従来の実験を重視した量的研究も情報処理技術の進歩に伴い発展しているが、質的研究・臨床研究などより実践的な研究が増え、また内容の面においても学校心理学・特別支援教育などの分野が盛んになってきている。本演習ではこうした学問としての教育心理学の修士論文を書くための指導を行う。論文は『心理学研究』『教育心理学研究』『発達心理学研究』などの専門誌に掲載されるようなレベルを目指す。

〔授業の概要〕

専門雑誌、学会発表を中心に文献にあたり、各自の研究テーマを絞る。実験あるいは調査の仮説・計画を立て、簡単な予備実験（調査）をなるべく早い時期に行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

研究テーマに沿った文献のまとめ。実験計画を立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 1

- 第 2 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 2
- 第 3 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 3
- 第 4 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 4
- 第 5 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 5
- 第 6 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 6
- 第 7 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 7
- 第 8 回 テーマに沿った文献研究・まとめ・発表 8
- 第 9 回 実験計画の作成 1
- 第 10 回 実験計画の作成 2
- 第 11 回 実験計画の作成 3
- 第 12 回 予備実験（調査） 1
- 第 13 回 予備実験（調査） 2
- 第 14 回 予備実験（調査） 3
- 第 15 回 まとめ

〔成績評価〕

授業中の発表、発表資料、討論内容による。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

各自のテーマに応じて適宜指示する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

- ①前期・後期
- ②木曜日 12:30~13:30
- ③教員個人研究室
- ④miura@ashiya-u.ac.jp
- ⑤授業終了後、講義室でも対応します。

特別研究Ⅱ【心理臨床演習】

7158
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 前期
林 知代

〔到達目標〕

学界と社会の要請に積極的に応える。
優れた研究成果の創出と発表に尽力する。
国内外の学会やシンポジウムに積極的に参加する。
研究成果の社会的還元に努める。

〔授業の概要〕

1年目前期では論文のテーマを絞り込んでいきます。その後文献レビューレポート作成します。1年目後期では、実証的な方法で収集されたデータの分析作成が目標となります。2年目前期では、論文への展開と研究遂行の実践となります。2年目後期では、研究の集大成となる修士論文の完成となります。

立案・データ分析に関するマンツーマン指導など、段階に応じた講義・指導方法をとります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

個々の研究テーマに沿った課題を出します。

〔授業計画〕

- 第 1 回 年間計画の確認
年間計画と現在までの進捗状況の確認
- 第 2 回 論文テーマの確認
問題意識、モチベーションと論文テーマの確認
- 第 3 回 調査・研究の実施 1
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 4 回 調査・研究の実施 2
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 5 回 調査・研究の実施 3
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 6 回 調査・研究の実施 3
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 7 回 調査・研究の実施 4
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 8 回 調査・研究の実施 5
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 9 回 調査・研究の実施 6
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 10 回 調査・研究の実施 7
調査・研究の実施と文献の読み込み
- 第 11 回 調査・実践研究の発表 1
調査・実践研究の結果を発表しコメントによる修正をします。
- 第 12 回 調査・実践研究の発表 2
調査・実践研究の結果を発表しコメントによる修正をします。
- 第 13 回 調査・実践研究の発表 3
調査・実践研究の結果を発表しコメントによる修正をします。
- 第 14 回 調査・実践研究の発表 4
調査・実践研究の結果を発表とコメントによる修正をします。
- 第 15 回 振り返り
論文構想の作業を振り返り、夏休み中の作業を確認する。

〔成績評価〕

通常の論文への取り組み姿勢と論文の内容で評価します。

〔教科書〕

特になし 導要解説 ○○編（平成○年○月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

特別研究 I 【環境生物学】

7211

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 前期

渡 康彦

〔到達目標〕

研究の基本となる文献を読む力を身につける。

〔授業の概要〕

生物はいろんな環境要因にたいする適応様式を獲得しながら進化してきた。体内時計もそのひとつで、生物が生存するために重要な役割を担っている。本研究において、昆虫を材料にその歩行活動や羽化などをいろんな条件で調べることによって、体内時計の性質を理解し自然環境に体内時計がどのように役立っているかを考察し、修士論文を完成させる。

学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

関連する文献を読む（120分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
研究の方法を学ぶ。
- 第 2 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 3 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 4 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 5 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 6 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 7 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 8 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 9 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 10 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 11 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 12 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 13 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 14 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。
- 第 15 回 文献講読
修士論文のテーマに関する関連する文献を読む。

〔成績評価〕

随時レポートを提出してもらい、総合的に評価する。

授業への取り組み（50%）、レポート（50%）。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

特別研究Ⅱ【環境生物学】

7261
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 前期
渡 康彦

〔到達目標〕

実験データの解析をする力を身につける。

〔授業の概要〕

生物はいろんな環境要因にたいする適応様式を獲得しながら進化してきた。体内時計もそのひとつで、生物が生存するために重要な役割を担っている。本研究において、昆虫を材料にその歩行活動や羽化などをいろんな条件で調べることによって、体内時計の性質を理解し自然環境に体内時計がどのように役立っているかを考察し、修士論文を完成させる。

学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

関連する文献を読む（120分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 2 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 3 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 4 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 5 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 6 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 7 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。

- 第 8 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 9 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 10 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 11 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 12 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 13 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 14 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。
- 第 15 回 修士論文に向けて
修士論文のための実験とデータ解析、論文作成のための指導。

〔成績評価〕

随時レポートを提出してもらい、総合的に評価する。
授業への取り組み（50%）、レポート（50%）。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

生徒指導・進路指導特論Ⅱ

4003
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

生徒指導・進路指導特論Ⅱ においては以下のことを到達目標とします。

進路指導に関する基礎的な理論と方法を理解することを目標とする。

とくに教育現場の状況を踏まえた実践的な課題や指導場面

に即した適切な進路指導の在り方を

学ぶことを目標とする。

【授業の概要】

生徒指導・進路指導特論 II においては、進路指導について講義を行います。

現在の進路指導を取り巻く課題としては、早期離転職、フリーター、ニートなどの増加の問題を抱えています。

これらの課題の解決に進路指導が果たす役割は大きいといえます。

進路指導のあり方が問われています。

従来は生徒指導の一領域とみなされてきましたが、新教育課程の趣旨を踏まえて、進路指導は重視されています。

本講義では、とくに、高等学校における勤労体験および啓発的経験などの体験活動に注目し、その教育的意義について教育学的視点からアプローチして考えます。

講義中に質問を受けて、それらの質問に基づいて学習者と教員が討論します。

また自分の経験をもとに意見を述べてもらいます。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

進路・就職・進学の問題に関心を払い新聞・雑誌・ネットなどで

これらの記事を読んで知識や情報を前もって得ておくこと。

また自分の経験から進路に関する指導に関して関心を深めておくこと。

【授業計画】

第 1 回 講義の目的・意義

講義の概略 進め方などを説明する。

第 2 回 進路指導の意義

進路指導の教育的意義と目標について学ぶ。

進路指導の理念 進路指導の変遷 進路指導からキャリア教育へ

第 3 回 進路指導の課題

進路指導の教育的課題について学ぶ。

進路指導と社会的職業的自立について理解する。

第 4 回 進路指導の原理

進路指導の教育上の原理を学ぶ。

自己理解 職業理解 進路（職業）情報

就職指導と進学指導などについて理解する。

第 5 回 進路指導と職業

職業の本質と意義を理解する。

職業の意味 職業の本質 職業の三要素について学ぶ。

第 6 回 進路指導の理論 I

進路指導における理論の意義と重要性について理解する。

適性の概念及び特性因子理論を理解する。

適性の概念（古典的適性概念 適応的適性概念 価値的適性概念）

フランク・パーソンズ及びウイリアムソンの理論お学ぶ。

第 7 回 進路指導の理論 II

職業的発達理論と進路指導の理論について学ぶ。

進路指導の指導法について学び修得する。

職業的発達を理解する・

特性因子理論から職業的発達理論への変遷を理解する。

職業的発達理論の進路指導上の意義を理解する。

キャリアとは何かを理解する。

第 8 回 自己理解および生徒理解の方法 I

自己理解の重要性を理解する。

自己の発見と発達について理解する。

自己（自我）と職業的発達の関係について理解する。

進路指導に際しての自己理解および生徒理解の方法について学ぶ。

第 9 回 自己理解および生徒理解の方法 II

エリクソンの発達段階と自我同一性確立を学ぶ。

自我同一性確立と職業的発達について理解する。

第 10 回 職業の理解

進路指導における職業理解の意義について学ぶ。

職業の世界の変化について学ぶ。

とくに新しい職業と衰退していく職業について理解する。

第 11 回 進路指導と経験

進路指導における経験の重要性を理解する。

経験（体験）の意義 啓発的経験 勤労体験などについて学ぶ。

第 12 回 職業観の形成 I
現代の青少年の職業観の変化について学ぶ。

職業観・就労観について学ぶ。

青少年の就労意識 フリータの特徴 転職 早期離職について理解する。

第 13 回 職業観の形成 II
進路指導における職業観形成の指導方法を修得する。

職業観の発達の变化 就労観職業観の国際比較について理解する。

第 14 回 進路指導の実践
進路指導実践の学校体制を学ぶ。

学校教育における進路指導の位置づけ
進路指導活動の効果を高める学校体制づくり
進路指導に関する教職員の共通理解
進路指導の実践的展開
学校教育活動全体を通じての進路指導教育
進路指導におけるガイダンス機能の充実

第 15 回 まとめ
講義全体の要点とまとめ

〔成績評価〕

定期試験 定期試験（筆記試験）は実施しない。（レポートを実施する。）

レポートによる評価

レポートの採点の観点は 正確性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。

出席回数や出席状況は成績に加味しない。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方（答申）
（平成 23 年 1 月）

その他 文部科学省答申

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

教育社会学 II

3001
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

学校教育における諸問題を理解することを目標とする。

学校教育の社会的機能を理解することを目標とする。

中等教育・高等教育について教育社会学の視点から理解することを目標とする。

現代社会における教育問題を理解することを目標とする。。

〔授業の概要〕

教育における諸問題、とくに教育病理現象、教育におけるジェンダーの問題、学校の社会的機能

能、高等教育、教育と社会階層、情報社会における教育問題、とくに教育病理現象について重

点的に教育社会学の視点から講義をする。

学習者同士の討論をおこなう。

また学習者と教員との討論をおこなう。

学習者からの質問を受けてそれを題材にして議論をおこなう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

教育現場の諸問題についての予備知識を新聞・雑誌・ネットから得ておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回 教育の病理現象
教育病理とは何か こどもの発達と教育病理について学ぶ。

教育病理学について理解する。

第 2 回 教育の病理とは何か
いじめの実態 引きこもり 不登校 暴力行為などの若者の問題行動を学ぶ。

- 学級崩壊の背景について理解する。
- 第 3 回 教育におけるジェンダーの問題
ジェンダーの意味について理解する。
- 現代社会とジェンダー 男女共同参画社会などについて学ぶ。
- 伝統的性別役割 教育における隠れた性差について理解する。
- 第 4 回 パーソナリティの形成とジェンダー
文化とパーソナリティ形成 制度とパーソナリティ形成について理解する。
- ジェンダー化の過程とステレオ・タイプについて学ぶ。
- 第 5 回 学校の社会的機能
社会的機能としての学校について学ぶ。
- 学歴社会の形成 高等教育の量的拡大と社会の変化について理解する。
- 第 6 回 学校の選別機能
選別機能としての学校を学ぶ。
- 高等教育への入学者の推移について理解する。
- 近代化と競争試験の制度化 日本における試験制度について理解する。
- 第 7 回 学校と学歴社会
学歴の問題 日本の近代化と学歴社会について理解する。
- 高等教育への進学率の上昇とそれに伴う課題について学ぶ。
- 第 8 回 高等教育の制度・機能・組織
高等教育における制度・機能・組織の多様化の問題について理解する。
- ユニバーサル段階としての高等教育と大衆化について学ぶ。
- 第 9 回 教育と社会階層
学校から社会への移行 現代社会における社会階層の問題について理解する。
- 身分と階層 学歴と階層の関係を学ぶ。
- 第 10 回 教育と社会構造
学歴と労働市場 学校教育と職業階層について理解する。
- 第 11 回 学歴と社会移動
学歴と社会移動 社会移動の状況 学歴と階層をめぐる課題について学ぶ。
- 第 12 回 情報社会における教育問題

情報社会における教育の諸問題 情報社会の概念 メディア社会論的による教育へのアプローチについて学ぶ。

- 第 13 回 生涯学習社会の展望
生涯学習社会とは何か 生涯学習の定義 リカレント教育としての生涯学習について理解する。
- 第 14 回 生涯学習社会における教育問題
生涯学習社会の現状 生涯学習の概念 生涯学習と成人教育

日本型の生涯学習について理解する。

- 第 15 回 現代における教育的課題
講義の全体的な要点とまとめ

教育現象の教育社会学的把握について学ぶ。

学校教育と教育病理現象 高等教育の多様化
生涯学習の状況 メディアに関する問題について学ぶ。

〔成績評価〕

レポート 100%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

特別研究 I 【環境生物学】

7211
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
渡 康彦

〔到達目標〕

実験データをまとめる力を身につける。

〔授業の概要〕

生物はいろんな環境要因にたいする適応様式を獲得しながら進化してきた。体内時計もそのひとつで、生物が生存するために重要な役割を担っている。本研究において、昆虫を材料にその歩行活動や羽化などをいろんな条件で調べることによって、体内時計の性質を理解し自然環境に体内時計がどのように役立っているかを考察し、修士論文を完成させる。

学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

関連する文献を読む（120分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 2 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 3 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 4 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 5 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 6 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 7 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 8 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 9 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 10 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 11 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 12 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 13 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 14 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。
- 第 15 回 修士論文のための実験
修士論文テーマに関する実験を行い、得られたデータの解析をおこなう。

〔成績評価〕

実験への取り組み（30%）、発表内容（40%）、レポート（30%）で評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

特別研究Ⅱ【環境生物学】

7261

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 後期

渡 康彦

〔到達目標〕

修士論文を書く。

〔授業の概要〕

生物はいろんな環境要因にたいする適応様式を獲得しながら進化してきた。体内時計もそのひとつで、生物が生存するために重要な役割を担っている。本研究において、昆虫を材料にその歩行活動や羽化などをいろんな条件で調べることによって、体内時計の性質を理解し自然環境に体内時計がどのように役立っているかを考察し、修士論文を完成させる。

学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

関連する文献を読む（120分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 2 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 3 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 4 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 5 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 6 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 7 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 8 回 修士論文作成
中間発表に向けてデータをまとめる。

- 第 9 回 修士論文作成
中間発表に向けてデータをまとめる。
- 第 10 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 11 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 12 回 修士論文作成
足りないデータ補完のための実験と修士論文作成指導。
- 第 13 回 修士論文作成
修士論文を完成させる。
- 第 14 回 修士論文作成
修士論文を完成させる。
- 第 15 回 修士論文作成
修士論文を完成させる。

〔成績評価〕

随時レポートを提出してもらい、総合的に評価する。
授業への取り組み (50%)、レポート (50%)。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

環境生物学研究

4014

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
渡 康彦

〔到達目標〕

体内時計の性質を説明できる。
生物の環境への時間的適応と人のより良い生活を関係づける。

〔授業の概要〕

生物は時間環境にも適応しなければならない。環境は時々刻々と変化するからだ。昼行性、夜行性、薄明薄暮活動性など種によって活動時間帯は異なる。その活動をコントロールしているのが体内時計である。体内時計は活動以外にも様々な体の調節機構に関与している。この体内時計の性質について考えていく。またヒトにとっての体内時計に関しても扱う。最近増えている睡眠障害や不登校などは体内時計が環境へ同調できないことが原因であることが多いと考えられているからだ。
学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前の英文資料を訳す (120 分) 授業後のレポート作成 (120分)

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめに
授業内容についての説明。
- 第 2 回 体内時計の性質①
周期は約24時間であることについて。
- 第 3 回 体内時計の性質②
温度補償性について。
- 第 4 回 体内時計の性質③
体内時計の環境への同調について。
- 第 5 回 体内時計の光受容器①
昆虫の光受容器について。
- 第 6 回 体内時計の光受容器②
昆虫以外の光受容器について。
- 第 7 回 体内時計のありか①
昆虫の体内時計のありかについて。
- 第 8 回 体内時計のありか②
昆虫以外の体内時計のありかについて。
- 第 9 回 体内時計遺伝子①
昆虫の時計遺伝子の24時間を刻む仕組みについて。
- 第 10 回 体内時計遺伝子②
昆虫以外の時計遺伝子の24時間を刻む仕組みについて。
- 第 11 回 ヒトの体内時計
体内時計によってコントロールされていることについて。
- 第 12 回 睡眠の重要性
睡眠への体内時計の関りと睡眠の質 (レム睡眠、ノンレム睡眠) について。
- 第 13 回 睡眠障害
睡眠相後退症候群などの睡眠障害と体内時計について。
- 第 14 回 子どもの睡眠と体内時計
「早寝早起き朝ごはん」が子どもにとって重要なわけについて。
- 第 15 回 光周性と光周時計
季節を読む光周性とその根底にある光周時計について。

〔成績評価〕

随時レポートを提出してもらい、総合的に評価する。
授業への取り組み (50%)、レポート (50%)。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

特別研究Ⅰ【教育心理学演習】

7105

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
三浦 正樹

【到達目標】

修士論文の作成。論文は『心理学研究』『教育心理学研究』『発達心理学研究』などの専門誌に掲載されるようなレベルを目指す。

【授業の概要】

高齢化社会による生涯学習の要請、グローバル化、AIの進化など、近年の教育環境および社会環境の変化に伴い教育心理学という学問の進展も著しい。従来の実験を重視した量的研究も情報処理技術の進歩に伴い発展しているが、質的研究・臨床研究などより実践的な研究が増え、また内容の面においても学校心理学・特別支援教育などの分野が盛んになってきている。本演習ではこうした学問としての教育心理学の修士論文を書くための指導を行う。

後期は質的研究法の最新動向についてまとめる。並行して論文を読んでいく。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

研究テーマに関連した文献をまとめる

【授業計画】

- 第1回 フィールドワーク
- 第2回 参与観察
- 第3回 会話分析
- 第4回 談話分析
- 第5回 インタビュー
- 第6回 ナラティブ分析
- 第7回 ライフストーリー
- 第8回 実践的観察
- 第9回 臨床的観察
- 第10回 テキスト分析
- 第11回 物語論
- 第12回 省察研究
- 第13回 質的データのまとめ方1
- 第14回 質的データのまとめ方2
- 第15回 まとめ

【成績評価】

授業中の発表、発表資料、討論内容による。

【教科書】

特になし

【参考文献】

各自のテーマに応じて適宜指示する

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

- ①前期・後期
- ②木曜日 12:30~13:30
- ③教員個人研究室
- ④miura@ashiya-u.ac.jp
- ⑤授業終了後、講義室でも対応します。

特別研究Ⅱ【教育心理学演習】

7155

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
三浦 正樹

【到達目標】

高齢化社会による生涯学習の要請、グローバル化、AIの進化など、近年の教育環境および社会環境の変化に伴い教育心理学という学問の進展も著しい。従来の実験を重視した量的研究も情報処理技術の進歩に伴い発展しているが、質的研究・臨床研究などより実践的な研究が増え、また内容の面においても学校心理学・特別支援教育などの分野が盛んになってきている。本演習ではこうした学問としての教育心理学の修士論文を書くための指導を行う。論文は『心理学研究』『教育心理学研究』『発達心理学研究』などの専門誌に掲載されるようなレベルを目指す。

【授業の概要】

前期に引き続き、関連文献を調べまとめる。夏休み前に第1実験あるいは調査を行い分析する。第1実験を受けて第2実験（本実験）の計画をたて、実験を行い分析し論文としてまとめる。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

文献のまとめ
予備実験の分析
本実験の計画、実施、分析、考察
発表用資料作成

【授業計画】

- 第1回 予備実験の分析、検討1
- 第2回 予備実験の分析、検討2
- 第3回 予備実験の分析、検討3
- 第4回 本実験の計画、実施1
- 第5回 本実験の計画、実施2
- 第6回 本実験の計画、実施3
- 第7回 本実験の計画、実施4
- 第8回 結果の分析1
- 第9回 結果の分析2
- 第10回 結果の分析3
- 第11回 考察1
- 第12回 考察2
- 第13回 発表用資料作成1
- 第14回 発表用資料作成2
- 第15回 まとめ

【成績評価】

授業中の発表、発表資料、討論内容による。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

各自のテーマに応じて適宜指示する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日 12:30~13:30

③教員個人研究室

④miura@ashiya-u.ac.jp

⑤授業終了後、講義室でも対応します。

発達心理学 I

4004

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

2単位 後期

三浦 正樹

〔到達目標〕

最新の発達心理学研究の動向、内容、理論の理解。

〔授業の概要〕

発達とは人の一生における心身の変化のことであるが、一口に変化と言ってもさまざまな側面の変化がある。身体面での変化をはじめとして、運動能力、知的能力、感情、情緒、意欲、動機づけ、パーソナリティ、言語、社会性、自己意識など、変化の側面は多岐にわたっている。しかし留意しなければならないのは、実際の発達の中ではそれらの側面が独立してあるわけではないということである。それらの側面は生涯発達の中で複合的に絡み合っている。本講義では発達を複合的なものととらえ、その心理学的理解を試みる。また、いわゆる定型発達を中心としつつも非定型発達についてもふれる。院生諸君に論文をまとめて発表してもらい、討論形式での授業も予定している。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容の予習、発表資料の準備（90分）

授業内容の復習（90分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達とは
発達の理論、発達に影響するもの、子どもをとりまく環境の変化
- 第 2 回 胎児期・乳児期の発達
卵体期と胎芽期、胎児期、出産と母体、乳児期
- 第 3 回 知的機能の発達
認識の始まり、表象的思考、具体的操作期、形式的操作期
- 第 4 回 感情と動機づけの発達
基本的感情の発達と分化、感情と親子のコミュニケーション
- 第 5 回 言語の発達
言語の獲得、発話の発達、言語発達の諸相、書きことばの習得

第 6 回 パーソナリティの発達

パーソナリティとは、パーソナリティの形成

第 7 回 人間関係の発達

人間関係の重要性、家庭内での人間関係、子どもの仲間関係

第 8 回 社会性の発達

道徳性の初期発達、他律的道徳から自律的道徳へ

第 9 回 自己意識の発達

児童期の自己意識の発達、アイデンティティの形成

第 10 回 脳と発達

中枢神経系の発生、学習の発達と初期経験、神経系の発達

第 11 回 発達心理学の研究法

縦断的方法と横断的方法、コホート分析、研究の技法

第 12 回 院生による発表①

第 13 回 院生による発表②

第 14 回 院生による発表③

第 15 回 まとめ

後期の授業をふり返り、改めて発達について考察する

〔成績評価〕

授業中の発表、発表資料、討論内容（50%）

期末試験（50%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

発達の諸理論、平井久・高橋たまき編、芸林書房・発達心理学（上・下）、山内光哉編、ナカニシヤ出版
アイデンティティ生涯発達論の展開、岡本裕子、ミネルヴァ書房
生涯発達心理学のすすめ、子安増生、有斐閣選書

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日 12:30~13:30

③教員個人研究室

④miura@ashiya-u.ac.jp

⑤授業終了後、講義室でも対応します。

特別研究 I 【教育学演習】

2003

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

4単位 後期

三羽 光彦

〔到達目標〕

個別に修士論文指導を行います。

〔授業の概要〕

修士論文のテーマに即して具体的に指導を行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各自主体的に修論作成に臨んでください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1.修論指導①
- 第 2 回 2.修論指導②
- 第 3 回 3.修論指導③
- 第 4 回 4.修論指導④
- 第 5 回 5.修論指導⑤
- 第 6 回 6.修論指導⑥
- 第 7 回 7.修論指導⑦
- 第 8 回 8.修論指導⑧
- 第 9 回 9.修論指導⑨
- 第 10 回 10.修論指導⑩
- 第 11 回 11.修論指導⑪
- 第 12 回 12.修論指導⑫
- 第 13 回 13.修論指導⑬
- 第 14 回 14.修論指導⑭
- 第 15 回 15.修論指導⑮

〔成績評価〕

修論完成度合いによって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

参考文献は適宜提示します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

特別研究Ⅱ【教育学演習】

7152
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
三羽 光彦

〔到達目標〕

個別に修士論文指導を行います。

〔授業の概要〕

修士論文のテーマに即して具体的に指導を行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各自主体的に修論作成に臨んでください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1.修論指導①
- 第 2 回 2.修論指導②
- 第 3 回 3.修論指導③
- 第 4 回 4.修論指導④
- 第 5 回 5.修論指導⑤
- 第 6 回 6.修論指導⑥
- 第 7 回 7.修論指導⑦
- 第 8 回 8.修論指導⑧

第 9 回 9.修論指導⑨

第 10 回 10.修論指導⑩

第 11 回 11.修論指導⑪

第 12 回 12.修論指導⑫

第 13 回 13.修論指導⑬

第 14 回 14.修論指導⑭

第 15 回 15.修論指導⑮

〔成績評価〕

修論完成度合いによって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

参考文献は適宜提示します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

特別研究Ⅰ【心理臨床演習】

7108
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
林 知代

〔到達目標〕

学界と社会の要請に積極的に応える。

優れた研究成果の創出と発表に尽力する。

国内外の学会やシンポジウムに積極的に参加する。

研究成果の社会的還元に努める。

〔授業の概要〕

1年目前期では論文のテーマを絞り込んでいきます。その後文献レビューレポート作成します。1年目後期では、実証的な方法で収集されたデータの分析作成が目標となります。2年目前期では、論文への展開と研究遂行の実践となります。2年目後期では、研究の集大成となる修士論文の完成となります。

立案・データ分析に関するマンツーマン指導など、段階に応じた講義・指導方法をとります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

個々の研究テーマに沿った課題を出します。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究方法と実践
独自性への研究方法について検討する。
- 第 2 回 研究方法の実践 1
実証的研究に着手しすすめていきます。
- 第 3 回 研究方法の実践 2
実証的研究に着手しすすめていきます。
- 第 4 回 研究方法の実践 3
実証的研究に着手しすすめていきます。
- 第 5 回 研究方法の実践 4
実証的研究に着手しすすめていきます。
- 第 6 回 研究方法の実践 5

- 実証的研究に着手しすすめていきます。
- 第 7 回 研究方法の実践 6
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 8 回 研究方法の実践 7
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 9 回 研究方法の実践 8
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 10 回 研究方法の実践 9
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 11 回 研究方法の実践 10
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 12 回 研究方法の実践 11
実証的研究の結果と分析をすすめてきます。
- 第 13 回 実践研究の発表 1
結果と分析を発表し助言と修正をします。
- 第 14 回 実践研究の発表 2
結果と分析を発表し助言と修正をします。
- 第 15 回 実践研究の発表 3
結果と分析を発表し助言と修正をします。

〔成績評価〕

通常の論文への取り組み姿勢と論文の内容で評価します。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

特別研究Ⅱ【心理臨床演習】

7158
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
4単位 後期
林 知代

〔到達目標〕

学界と社会の要請に積極的に応える。

優れた研究成果の創出と発表に尽力する。

国内外の学会やシンポジウムに積極的に参加する。

研究成果の社会的還元を努める。

〔授業の概要〕

1年目前期では論文のテーマを絞り込んでいきます。その後文献レビューレポート作成します。1年目後期では、実証的な方法で収集されたデータの分析作成が目標となります。

2年目前期では、論文への展開と研究遂行の実践となります。2年目後期では、研究の集大成となる修士論文の完成となります。

立案・データ分析に関するマンツーマン指導など、段階に応じた講義・指導方法をとります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

其々の研究の状況に合わせて課題を出します。

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめに
完成までの見通しを立てます。
- 第 2 回 研究計画報告
仕上げたところまでの報告発表をします。
- 第 3 回 考察 1
論文全体の一貫性を見直しながら考察を仕上げる。
- 第 4 回 考察 2
論文全体の一貫性を見直しながら考察を仕上げる。
- 第 5 回 考察 3
論文全体の一貫性を見直しながら考察を仕上げる。
- 第 6 回 考察 4
論文全体の一貫性を見直しながら考察を仕上げる。
- 第 7 回 考察 5 5
論文全体の一貫性を見直しながら考察を仕上げる。
- 第 8 回 終章 6
終章の完成
- 第 9 回 終章 1
終章の完成
- 第 10 回 発表とフィードバック
研究成果発表
- 第 11 回 発表とフィードバック
研究成果発表
- 第 12 回 発表とフィードバック
研究成果発表
- 第 13 回 まとめ・論文完成への展望
修士論文の完成
- 第 14 回 まとめ・論文完成への展望
修士論文の完成
- 第 15 回 振り返り
総合討論・まとめ

〔成績評価〕

発表（50%）授業への参加および貢献度（50%）。通常の論文への取り組み姿勢と論文の内容で評価します。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

心の健康教育に関する理論と実践

2016
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
林 知代

〔到達目標〕

- 1)心の健康教育に関する理論について理解する。
- 2)心の健康教育に関する実践に必要な視点を身に着ける。

〔授業の概要〕

心の健康は、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野など多岐にわたる領域から捉えることができる。この授業では、心の健康教育に関する理論と実践について学ぶ。社会における心理的課題・問題の理解とアプローチを学ぶとともに、広く他領域や他職種の観点から学ぶことで、多角的視座と専門性を深めていく。心の健康を保持しつつめざすべき人間の方向性を探求する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ・それぞれの分野で生じる問題を、その領域の理論や視点を考慮したうえで臨床心理学や心理療法理論がどう考えることができるかを準備する。
- ・復習としては、学んだ理論や知見が単なる知識ではなく、自らの体験と照らしレポートにする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって
授業の進め方や参考文献、評価などオリエンテーションを行う。
- 第 2 回 五分野における心の健康
保健医療分野／・福祉分野／・教育分野／・司法・犯罪分野／・産業・労働分野にかかる現状と課題を学ぶ。
- 第 3 回 保健医療分野と心の健康 1
ペアレンティング心理教育の実践
- 第 4 回 保健医療分野と心の健康 2
リワークデイケアの実践
- 第 5 回 福祉分野と心の健康 1
母親へのストレスマネジメントについて学ぶ
- 第 6 回 福祉分野と心の健康 2
ひきこもり支援について
- 第 7 回 教育分野と心の健康 1
学校における心の健康教育
- 第 8 回 教育分野と心の健康 2
不登校と心の健康教育
- 第 9 回 教育分野と心の健康 3
いじめと心の健康教育
- 第 10 回 司法・犯罪分野等 1
犯罪における心の健康教育
- 第 11 回 司法・犯罪分野 2
性犯罪における未然防止教育
- 第 12 回 司法・犯罪分野 3
性犯罪における再犯防止教育
- 第 13 回 産業・労働分野 1
リワークプログラムの実際

- 第 14 回 産業・労働分野等 2
キャリアプランと心の健康
- 第 15 回 まとめ
講義の振り返りとまとめ

〔成績評価〕

授業へのコミットメント、レポートをもとに、到達目標の基準に沿って、評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

野島一彦・岡村達也監修(2019)：心の健康教育．木立の文庫

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

司法・犯罪分野に関する理論と実

1013
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
林 知代

〔到達目標〕

司法、犯罪分野における諸問題に対して心理的支援について説明できるようになること、および司法関係者や加害者被害者に心理的立場からどのように支援・実践策を構築、提供できるかを知ること。

〔授業の概要〕

司法、犯罪分野に関わる知識や理論を概観し、次に心理師としての関与の方法、支援策について学びます。知識だけでなく、寛い人間理解に基づいた支援について学んでいきます。様々な犯罪例を提示し、加害者、被害者両方の視点から事件の背景も含め助言や処遇プログラムを考えられるようにします。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各授業の冒頭に、自分で予習したテーマについて5分間のプレゼンを行い、復習としてレポートの提出などを行います。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって
講義の目的や意義の説明と、進め方を説明します。
- 第 2 回 犯罪・非行
犯罪・非行について概説します。犯罪・非行の推移、実態及び主な動機・背景などを検討します。
- 第 3 回 犯罪心理学の系譜 1
生物学的原因論について学びます。
- 第 4 回 犯罪心理学の系譜 2
心理学的原因論・家族理論についてまなびます。
- 第 5 回 犯罪心理学の系譜 3
社会学的原因論について学びます。
- 第 6 回 少年事件について 1

少年法の目的、捜査機関である警察・検察、家裁の段階、決定後の処遇機関（保護観察・少年院）など、事件の取扱い、流れについて学びます。

- 第 7 回 少年事件について 2
少年事件の心理的背景について検討し、支援について考えます。
- 第 8 回 犯罪の背景 1
家裁調査官の調査、セントラルエイト、RNRモデル、処遇機関の処遇プログラムなどについて学びます。
- 第 9 回 犯罪の背景 2
家裁調査官の調査、セントラルエイト、RNRモデル、処遇機関の処遇プログラムなどについて学びます。
- 第 10 回 A事例から 1
実際の事件から何故事件を起こしたのかを様々な角度から検討します。
- 第 11 回 A事例から 2
更生に必要な支援策を複合的に検討し検討します。
- 第 12 回 B事例から 1
実際の事件から何故事件を起こしたのかを様々な角度から検討します。
- 第 13 回 B事例から 2
更生に必要な支援策を複合的に検討します。
- 第 14 回 C事例から
事件をこれまで学んだ事をもとにディスカッションします。
- 第 15 回 まとめ
授業を振り返ります。

〔成績評価〕

レポート課題の提出・評価：40%

授業態度・発表：60%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

必要に応じて適宜紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

教育哲学研究

1006

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

2単位 後期

廣岡 義之

〔到達目標〕

『ボルノーの教育学入門』を教科書として使用し、西洋の教育哲学を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目標とする。

〔授業の概要〕

ボルノーの教育思想を軸とした教育哲学の理解を深める。ボルノーの視点から様々な教育哲学者の思想を実存的に切り込んでいく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。（90分）

特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。（90分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義のオリエンテーション
本講義のオリエンテーションを理解する。
- 第 2 回 カントにおける教育目的論
カントにおける教育目的論を理解する。
- 第 3 回 ボルノー・ハイデッガー・ジャン・パウルの教育思想
ボルノー・ハイデッガー・ジャン・パウルの教育思想を理解する。
- 第 4 回 ザルツマン、カント、ヤコービの教育思想
ザルツマン、カント、ヤコービの教育思想を理解する。
- 第 5 回 シュタイナーとボルノーの「畏敬の念」について
シュタイナーとボルノーの「畏敬の念」を理解する。
- 第 6 回 フレーベルの幼児教育思想
フレーベルの幼児教育思想を理解する。
- 第 7 回 ブーバーの教育思想
ブーバーの教育思想を理解する。
- 第 8 回 ボルノーの徳論
ボルノーの徳論を理解する。
- 第 9 回 ニコライ・ハルトマンの「信念」
ニコライ・ハルトマンの「信念」を理解する。
- 第 10 回 ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想
ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想を理解する。
- 第 11 回 ヘルバルトの教育思想
ヘルバルトの教育思想を理解する。
- 第 12 回 ボルノーの実存的教育思想
ボルノーの実存的教育思想を理解する。
- 第 13 回 シュプランガーの教育思想
シュプランガーの教育思想を理解する。
- 第 14 回 ラングフェルドの教育思想

ランゲフェルドの教育思想を理解する。
第 15 回 カント、ヤスパース、ヘルバルト、フィヒテの平和教育論
カント、ヤスパース、ヘルバルト、フィヒテの平和教育論を理解する。

〔成績評価〕

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

〔教科書〕

『ボルノーの教育学入門』広岡義之著、風間書房

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

健康スポーツ教育学研究Ⅱ

2022
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
中塘 二三生

〔到達目標〕

健康とスポーツ教育特にスポーツに関する研究法を習得する。

〔授業の概要〕

スポーツ教育学研究に関する論文の作成法、調査・測定法の条件と誤差に加えて1) 体力の意味、2) エネルギー代謝、3) 筋力や強度、4) トレーニング法などの生理学的なメカニズムを理解し、健康スポーツ教育学研究に関する研究法について理解してください。また、講義内容を理解し、あなたが「今後研究を行うとすれば、どのような研究を行うか」についての検討も予定しています。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

健康とスポーツ教育学研究に関する報道・文献・論文に関心を持ち、重要と思われる資料をファイルするように努めてください。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. ガンダンス
授業内容、成績などについてガイダンス
- 第 2 回 論文の作成法
健康スポーツ教育学研究に関する論文の作成法
- 第 3 回 調査・測定法の条件と誤差
健康スポーツ教育学研究に関する調査・測定法の条件と誤差
- 第 4 回 体力の構成要素と体力測定法
体力の構成要素と体力の具体的な測定法
- 第 5 回 発育発達と体力
青少年期の発育発達と体力の推移
- 第 6 回 加齢と体力
加齢と高齢者の体力の推移
- 第 7 回 スポーツ活動のエネルギー源

- 第 8 回 スポーツ活動中のエネルギー源について
スポーツ活動とエネルギー代謝
スポーツ活動中とエネルギー代謝の変化
- 第 9 回 スポーツ活動中の呼吸・循環
スポーツ活動中の呼吸や循環の具体的な変化
- 第 10 回 筋力発揮と反応時間
スポーツ活動中の筋力発揮と反応時間
- 第 11 回 全身持久性
スポーツ活動と全身持久性の関係
- 第 12 回 運動強度の推定
スポーツ活動中の運動強度の推定
- 第 13 回 静的・動的トレーニングの原則
静的トレーニングと動的トレーニングの原則
- 第 14 回 トレーニング効果の判定
トレーニング効果の具体的な判定法
- 第 15 回 まとめ
ロコモティブシンドロームとサルコペニア、まとめ

〔成績評価〕

健康やスポーツ教育に関する研究意欲、積極的な論議等から総合的に評価します。

〔教科書〕

特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

〔参考文献〕

参考文献・資料等は、特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

講義終了後

英語圏文学と異文化理解

4006
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
中田 康行

〔到達目標〕

英語圏について認識を深化させ、異文化を多様な角度から理解できること。

〔授業の概要〕

グローバル化する世界事情の中で、とりわけ経済、政治など、あらゆる文化の側面で、英語が使われている。英語圏の国々の多様な文化の側面を考察し、様々な地域性の強い異文化を深く理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

平素から海外の事情、出来事などに目配りし、外国の文化現象に関心を抱くこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要の説明

- 90分の前半：授業の概要(内容、テーマ、評価機方法など)
国際評価基準：教養としてのJapanologyと英語の重要性(導入)
- 第 2 回 イギリスによる世界の植民地化開始
1600年、イギリスによる東インド会社(政府機関)の設立)。このことが意味するもの。
- 第 3 回 イギリスの文化史的背景と現代英語
現現代グランドの直系祖先はアングロ=サクソン人であり、イギリス文化のルーツをそこに求めることができる。
- 第 4 回 アメリカの文化史的背景と現代米語
17世紀から始まるアメリカの植民地化に伴い、ヨーロッパの列強が移民政策を始め、多くの言語がその痕跡を現在もとどめてる。
- 第 5 回 英語と米語
イギリス英語とアメリカ英語は発音、語彙、表現の面でかなりの相違があることを確認する。
- 第 6 回 世界の多様な英語(インドの英語、一つの具体例)
世界には主に第二言語、公用語として多様な英語が存在するが、例としてインドの英語を取り上げる。
- 第 7 回 英語に入った日本語の語彙
主に米語だが、かなり多くの日本語の単語が入っている。
- 第 8 回 イングランドとケルト系文化
イギリスは4つの国の連合である。イングランドを除き、他は基本的にはケルト系である。
- 第 9 回 Rehispanicization と California およびアメリカ南部
アメリカ南部の移民問題は、合衆国建国以前からの民族の問題とも関わっており、21世紀特有の問題ではない。
- 第 10 回 Tourism と英語
豪華客船、航空機など移動交通手段の飛躍的進歩により、海外旅行が盛んな時代となった。非英語圏の国々で英語はどの程度通用するのかを考察する。
- 第 11 回 英語圏を含むヨーロッパの大学の起源
11世紀に始まる大学がヨーロッパでいかに増え、どのようなものであったかを理解し、現在の大学との相違点を考える。
- 第 12 回 ヨーロッパの大学の発展と日本の大学
ヨーロッパの大学には古いタイプのカレッジ制を有する大学が結構あるが、日本の大学とは教育内容・制度ともいかに違うかを考察する。
- 第 13 回 キリスト教の発展とヨーロッパの大学
ヨーロッパの大学を語る時にはキリスト教との関係や修道院との関係を考慮しなければならない。
- 第 14 回 古代、中世からの遺産と技術の進歩
ギリシア、ローマを除き、ゲルマン社会に10世紀以前には石造建築は数多く見られなかったが、以後の石造建築の技術の進歩を具体的に考える。
- 第 15 回 過去から現代人は何を学ぶか

人間社会は常に過去の遺産の上に成り立っている。それを意識するか否かは別問題であり、概ね個人個人の教育のレベルや教養と関わるころでもある。それゆえ、過去(歴史や文化史)を知ることの重要性を深く認識しなければならない。

〔成績評価〕

レポート2回(50%、50%)

〔教科書〕

ハンドアウト・資料配布

〔参考文献〕

D.M.Wilson, The Anglo-Saxons (second ed.), Penguin.

(中田) 康行訳『アングロ=サクソン人』(晃洋書房)

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。

アドレス nakata@ashiya-u.ac.jp

教育学研究方法

2023

(院)教育学研究科 > 教育学専攻

2単位 前期

三羽 光彦

〔到達目標〕

本科目は博士前・後期課程・修士課程に必修である。各自の研究の実際に即して、研究の在り方、研究生活、研究方法および研究倫理(個人情報保護、著作権保護を含む)について、大学院担当教員よりオムニバス形式で授業を行う。修士論文作成へ向けて、受講生各自が研究の在り方を考える指針としてほしい。

〔授業の概要〕

受講生はそれぞれの研究領域、研究テーマに引きつけて具体的・实际的に理解し、受講生同士の議論交流も行う。

〔授業時間外・準備学習(予習復習)〕

授業前に資料を読み込む(90分)、授業後にレポート作成(90分)をする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 大学院における研究生活
学部までの勉強と大学院生としての研究の違い。研究のおもしろさと難しさについて考えます。
- 第 2 回 教育学研究と教育実践
教育学の研究は教育実践とどのような関係にあるか、研究と実践の在り方を考えます。
- 第 3 回 教育学と基礎科学
教育学とその基礎にある基礎科学・学問(哲学・心理学・法学など)との関係について考えます。
- 第 4 回 文献リサーチの方法
先行研究の論文や文献をさまざまなサイトでリサーチする方法を学び、あわせて著作権保護についても認識を深めてもらいます。
- 第 5 回 図書館の使い方

大学図書館や公共図書館、さまざまな資料館を最大限活用する方法について学びます。

- 第 6 回 研究の方法 (1)
理論・実験・調査・統計などの研究方法について考えます。
- 第 7 回 研究の方法 (2)
臨床的な研究方法について学び、あわせて個人情報保護についても認識を深めてもらいます。
- 第 8 回 研究の方法 (3)
教科教育方法を事例に研究の在り方について考えます。
- 第 9 回 研究の方法 (4)
教育学や心理学など人文社会科学と自然科学はどう違うのか、共通点と異質な点を考えます。
- 第 10 回 研究倫理について
盗用、剽窃、二重投稿などの問題について認識を深め、適切な引用の仕方などを学びます。
- 第 11 回 学説史を学ぶ (1)
内外の教育学の学説史について考察します。
- 第 12 回 学説史を学ぶ (2)
心理学を対象として内外の学説史を考察します。
- 第 13 回 教育学の古典を読む (1)
教育学関係の古典について、代表的なものを購読し論評し、古典の読み方について考えます。
- 第 14 回 教育学の古典を読む (2)
教育学関係の古典について、代表的なものを購読し論評し、古典の読み方について考えます。
- 第 15 回 まとめ
全体のまとめをします。

〔成績評価〕

レポートによって評価する。

〔教科書〕

特になし。授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日 12時10分から13時30分まで。できればあらかじめアポしてください。

教育行政学 I

2021

(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：教育行政の理論と制度

到達目標：この授業は、①学校教育を中心とする教育行政の基礎的理論と制度の在り方を理解すること、②教育政策や教育法の現在の動向を理解すること、③近年の教育行政学の研究成果や論点を整理すること、④教育と教育行政を

動かす法的メカニズムを学校教育の現場に即して理解すること、以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場で教育行政的知見を活用できるように配慮して授業を行ないます。

〔授業の概要〕

教育、特に公教育である学校教育を考察する場合、法制度を無視することはできません。日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、地方教育行政法、学習指導要領など、法制度的な枠組みを軸に、重要な教育行政の基礎理論や制度の理解、論点の把握が必要となります。この授業では、あらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポートによって、学習者同士が討論し合う形で進めます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、理論や制度の概要と論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておくこと（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとする（100分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育行政の意義と機能
教育行政とは何か、その意義と役割について考察します。
- 第 2 回 教育行政と一般行政
教育行政と一般行政の違い、教育行政の一般行政からの独立について考察します。
- 第 3 回 教育基本法と教育目的
教育基本法における教育の目的「人格の完成」をどう見るかを考察します。
- 第 4 回 日本国憲法と教育条項
日本国憲法26条の教育を受ける権利義務の条項について考察します。
- 第 5 回 学習権保障と義務教育制度
今日の日本の学習権保障の現状と問題点、義務教育制度の課題について考察します。
- 第 6 回 教育の機会均等をめぐって
現代日本における教育の機会均等をめぐる諸問題について考察します。
- 第 7 回 特別支援教育と障がい者の権利
特別支援教育の諸相、在り方を理解しながら、障がい者の権利について考察します。
- 第 8 回 教育行政の原理、教育と教育行政の関係
教育行政の原理的あり方について、特に教育と教育行政の関係について考察します。
- 第 9 回 教育委員会制度の理論と歴史
戦後日本の教育委員会制度の理論と歴史について考察します。
- 第 10 回 教育課程行政と学習指導要領
教育課程行政の在り方と学習指導要領の変遷について考察します。
- 第 11 回 教科書と教科書行政
日本における教科書と教科書行政について歴史的の考察します。

- 第 12 回 教職員の身分と責務
教職員法制の概要と教職員の責務について考察します。
- 第 13 回 学校経営の在り方とチーム学校
学校経営、学校の安全と危機管理、チーム学校の在り方について考察します。
- 第 14 回 学校と地域の連携
学校と地域、学校教育と社会教育の連携について考察します。
- 第 15 回 本授業のまとめ
本授業を全体として復習しまとめます。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価する。

〔教科書〕

井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト 教育と教育行政』勁草書房、2015年。文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できればあらかじめアポを取ってください。

教育行政学Ⅱ

2021

(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：現代の教育問題と教育行政の課題

到達目標：この授業は、①学校教育を中心とする教育行政の理論と制度の理解の上に、現代日本の公教育の状況や課題を整理すること、②教育政策や教育法の現在の動向を教育問題との関連で理解すること、③近年の教育行政学の研究成果や論点を、教育問題との関連で整理すること、④教育と教育行政を動かす社会的メカニズムを学校教育の現場に即して理解すること、以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場の諸問題を教育行政的知見から考察することができるように配慮して授業を行います。う。

〔授業の概要〕

少子化の進展、教員の多忙化、貧困や格差をめぐる問題、障がい者の権利問題、ジェンダー平等の観点からの教育への要請、社会の急速なデジタル化への対応、震災や伝染病などへの対応などなど、今、教育をめぐる問題は山積し、教育行政にその対策が迫られている。本授業（教育行政学

Ⅱ）は、教育諸課題を法的・制度的な枠組みから理論的に理解することを目指しており、教育行政学の発展的な授業です。したがって教育行政学Ⅰの修得を前提として履修することとしています。今日的な重要な教育行政の問題について、あらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポートによって、学習者同士が討論し合う形で進めます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、理論や制度の概要と論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておくこと（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとする（100分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校の危機管理の課題
災害、伝染病と学校の危機管理、教育行政の課題について考察します。
- 第 2 回 貧困、教育格差と教育行政
教育行政の課題として、貧困、教育格差との問題が浮上しています。行政が何をすべきか考察します。
- 第 3 回 学校のデジタル化の課題
学校のデジタル化と教育行政、デジタル教科書、電子黒板の課題について考察します。
- 第 4 回 Society5.0,とAI時代の教育改革
Society5.0,の構想とAI時代の教育改革のいくえについて考察します。
- 第 5 回 教員の多忙化問題
教員の職務の膨張と多忙化問題について考察します。
- 第 6 回 教員の働き方改革
教育界の働き方改革はどうあるべきか考察します。
- 第 7 回 部活指導の在り方をめぐって
学校における今後の部活指導の在り方について考察します。
- 第 8 回 地域社会と学校の関係
地域社会と学校の関係、コミュニティースクールの展望について考察します。
- 第 9 回 高等学校改革の今後
普通科高校の制度類型化など高校の今後の在り方について考察します。
- 第 10 回 さまざまな障害と特別支援教育の在り方
さまざまな障害と特別支援教育の在り方をノーマライゼーションの観点から考察します。
- 第 11 回 幼保一元化と保育所待機児童問題
幼保一元化や保育所待機児童問題の問題など、保育・乳幼児教育の課題を考察します。
- 第 12 回 公教育の無償制と教育財政の課題
貧困と格差が問題となる中、公教育の無償制と教育財政の課題について考察します。
- 第 13 回 過疎化・学校統廃合と教育行政
過疎化・学校統廃合の問題を多角的に考察します。

第 14 回 外国人労働者と多文化教育問題

外国人労働者の教育問題を多文化教育の問題として考察します。

第 15 回 本授業のまとめ

本授業を全体として復習しまとめます。

【成績評価】

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価する。

【教科書】

井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト 教育と教育行政』勁草書房、2015年。文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

【参考文献】

授業中に適宜資料を配布する。

【履修条件】

【備考】

【オフィスアワー】

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できればあらかじめアポを取ってください。

教育学基礎研究 I

2001

(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 前期
三羽 光彦

【到達目標】

テーマ：人類史のなかで教育の基礎概念を学ぶ

到達目標：この授業では、教育にかかわるさまざまな基礎的概念を、広く人類史のなかで再検討することを目的としています。現代の教育状況や教育問題と関連づけながら、人間や社会に関する基本的な考え方を人類の歴史という大きなスケールのなかで整理します。①教育にかかわる人や社会に関する基礎的概念を、人類史のさまざまな局面を背景として、多面的・歴史的に紹介する。②紹介した議論の内容を理解し、他の議論と比較しながらその論点を把握する。④それらの論点を自己の教育観と比べながら考察し、各自論評を行い、受講生が討論し自らの考えを深め合う。以上が本授業の到達目標です。

【授業の概要】

教育という社会現象を考察する場合、人間や社会に関する基礎的概念の理解は避けて通れません。しかし、そうした基礎的概念について、誰もがわかったつもりで、あるいは共通理解があるつもりで議論している場合が多々あります。それが教育についての議論のすれ違いを生んでいることがあります。教育をより根源的に深い地点から理解するため、人類史という広大なスケールのなかで、人と社会に関する基礎的な概念を再検討します。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

あらかじめ提示した講義概要にそって、各概念に関する内容や論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておいてください（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとします（100分）。

【授業計画】

- 第 1 回 人類の誕生と人間の特質
人類の直立二足歩行という特質。ホモ・サピエンスという種の特徴について考察します。
- 第 2 回 生理的早産と発達の可塑性について
生理的早産のメカニズム、出産と育児の特質について考察します。
- 第 3 回 言語の成立と想像力の発達
言語の成立と想像力の発達に関連して、共同体の形成、言語と人間形成について考察します。
- 第 4 回 農耕革命と人間社会
人類史における農業の意義、定住社会と人間形成について考察します。
- 第 5 回 記号から文字へ、文字言語の形成
文字言語の形成、書記体系と官僚制、学校の誕生について考察します。
- 第 6 回 宗教と人間社会
世界宗教の誕生、宗教と教育の関連について考察します。
- 第 7 回 男女の区別と差別
生物的性差と社会的性差、ジェンダーと教育について本源的に考察します。
- 第 8 回 貨幣と帝国の発達
貨幣の本質、さまざまな世界帝国と教育の関係について考察します。
- 第 9 回 家族形態の変容
家族形態の類型、大家族制、家父長制の形成と人間形成、教育について考察します。
- 第 10 回 近代科学の成立と教育
近代科学の成立、科学と帝国の結合、近代大学の形成と発展について考察します。
- 第 11 回 資本主義経済と教育
資本主義の形成と発展、資本と労働のなかの人間形成、貧困と教育について考察します。
- 第 12 回 科学主義と技術の問題
科学信奉と科学主義、技術の発展と資本主義の支配について考察します。
- 第 13 回 近代人の疎外と孤独
家族とコミュニティの崩壊、近代人の孤独、近代の教育問題について考察します。
- 第 14 回 人類史における文明と教育
人類史のなかで文明の発達をどう見るかについて考察します。
- 第 15 回 AI時代の教育
AIとバイオテクノロジーの時代の教育課題について考察します。

〔成績評価〕

試験はレポートにします。最終レポート50点、各小レポート50点、計100点によって成績を評価します。

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布します。

〔参考文献〕

ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳『サピエンス全史 下・下』など。適宜資料を紹介または提示します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時まで、研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教育学基礎研究Ⅱ

2001

(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：教育学説史を通して教育の基礎概念を学ぶ
到達目標：この授業では、教育にかかわるさまざまな基礎的概念を再検討することを目的としています。教育学説を学びながら、現代の教育状況や教育問題と関連づけて、教育と教育学に関する基本的な概念を整理していきます。①教育と教育学にかかわる基礎的概念を、さまざまな論者の考え方を多面的・歴史的に紹介する。②紹介した論者の考え方を理解し、他の論者と比較しながらその論点を把握する。④それらの論点を自己の教育観と比べながら考察し、各自論評を行い、受講生が討論し自らの考えを深め合う。以上が本授業の到達目標です。

〔授業の概要〕

教育という社会現象を考察する場合、教育や教育学に関する基礎的概念の理解は避けて通れません。しかし、そうした基礎的概念について、誰もがわかったつもりで、あるいは共通理解があるつもりで議論している場合が多々あります。それが教育についての議論のすれ違いを生んでいることがあります。教育をより根源的に深い地点から理解するため、教育論の土台にある基礎的な概念を再検討します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、各概念に関する各論者の内容や論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておいてください（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとします（100分）。

〔授業計画〕

第1回 発達と教育

成長・成熟と発達、発達と教育の関係について学説を整理します。

第2回 遺伝と環境

遺伝子科学の現在の水準から、学説史を整理します。

第3回 人間形成と教育

共同体の教育営為から学校の形成へ、史的プロセスを考察します。

第4回 学校の類型

宗教、官僚制と学校、民衆と学校の視点から学校の類型を整理します。

第5回 言語と教育

言語能力と読解力について考察します。

第6回 数と教育

数量認識、数理能力の重要性、文理分けの問題性について考察します。

第7回 リベラルアーツ教育について

自由七科とリベラルアーツ教育について考察します。

第8回 職業教育について

職業教育と普通教育の葛藤と融合について考察します。

第9回 「自由」とは何か

「自由」と道徳、個人の確立について考察します。

第10回 国家道徳と徳育

国家道徳と徳育の問題について考察します。

第11回 幼児教育と家庭教育

幼児の発達と家庭教育について考察します。

第12回 児童期と小学校

児童期の発達と小学校教育の諸問題について考察します。

第13回 義務教育の課題

義務教育の在り方、共通教育と教育の自由などについて考察します。

第14回 等教育の在り方

等教育の一元化と多様化について考察します。

第15回 大学教育の在り方

大学から高等教育へ、研究と教育の統一について考察します。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

〔到達目標〕

環境教育の現状と問題点を把握
環境教育の在り方について自分の考えを構築
学部で習得した知識の発展
上記の内容を目標とする。

〔授業の概要〕

環境教育の理念と実践を学習し、持続可能な社会づくりをめざす環境教育について、参加型学習・問題解決型・体験型の方法とスキルを理解する。
ネイチャーゲームや多様なアクティブラーニングを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕

- 第 1 回 環境教育特論で何を学ぶかについて
環境問題とは何かについての導入
- 第 2 回 過去と現在の比較
地球の過去と現在について学習する
- 第 3 回 循環型社会とは何か学ぶ①
江戸時代の循環型社会について学習する
- 第 4 回 循環型社会とは何か学ぶ②
我々が目指す現在の循環型社会について学習する
- 第 5 回 循環型社会とは何か学ぶ③
江戸時代と現在の比較
- 第 6 回 体験型環境教育について学ぶ①
体験型環境教育について学習する
- 第 7 回 体験型環境教育について学ぶ②
ネイチャーゲーム等多様なアクティブラーニング
について学習する
- 第 8 回 体験型環境教育について学ぶ③
ネイチャーゲーム等多様なアクティブラーニング
について実践
- 第 9 回 体験型環境教育について学ぶ④
自らアクティブラーニングを考える
- 第 10 回 体験型環境教育について学ぶ⑤
自ら考えたアクティブラーニングの実践
- 第 11 回 地域における環境教育
地域における環境教育について学習する
- 第 12 回 家庭における環境教育
家庭における環境教育について学習する
- 第 13 回 学校における環境教育
学校における環境教育について学習する
- 第 14 回 旅行における環境教育
旅行における環境教育について学習する
- 第 15 回 全体のまとめ

〔成績評価〕

レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日4限目または水曜日3限目

人間環境研究

〔到達目標〕

人間と人間を取り巻く環境の言及
今日の複雑化する人間環境を自然的環境・社会的環境・文化的環境の側面
学部で得た基礎知識の発展

〔授業の概要〕

自然的環境と社会的環境の関係について学習し、現在の環境問題に関する認識と法体系を学び、諸問題の原因と今後の課題について発展的な学習をする。
毎時間、内容理解を深めるために課題を用意する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入
人間環境研究で何を学ぶのか。導入
- 第 2 回 人間社会と自然環境の結びつきについて学ぶ
人間社会と自然環境の結びつきについて学習する
- 第 3 回 地球について学ぶ①
原始地球について学習する
- 第 4 回 地球について学ぶ②
原始地球に含まれていた原料物質と微惑星との関係について学習する
- 第 5 回 地球について学ぶ③
原始地球から現在の地球になるまでの過程を時系列的にとらえ学習する
- 第 6 回 現在の環境問題

- 現在、問題となっている諸問題について学習する
- 第 7 回 我が国の法体系
環境問題に関する我が国の法体系を学習する
- 第 8 回 各国の対応
各国の環境問題を学習する
- 第 9 回 比較①
日本と他の国との環境問題の比較学習する
- 第 10 回 比較②
日本と他の国との環境問題に関する法体系を比較学習する
- 第 11 回 地球上に生息する生命体（動物）
地球上に生息する生命体（動物）について学習する
- 第 12 回 地球上に生息する生命体（植物）
地球上に生息する生命体（植物）について学習する
- 第 13 回 映像から考える環境問題 I
映像を用いて環境問題を学習する
- 第 14 回 映像から考える環境問題 II
映像を用いて環境問題を学習する
- 第 15 回 全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕

レポート及び課題等の評価（50%）

試験の総合評価（50%）

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日4限目または水曜日3限目

情報数理研究 I

9016
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
若杉 祥太

〔到達目標〕

基礎的な数理的理論を理解することにより多様な分野の質的・量的研究の一助とする。

〔授業の概要〕

基礎的な数理的理論の理解に資する数値データの情報操作技法を磨き正確かつ効率的に行うための統計処理演習を行う。

学部開講の情報数学 I・II を履修していることが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適時授業中に指示する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. ガイダンス、excel基礎
統計的検定、統計的推定
- 第 2 回 2. 基本統計量
平均値、不偏分散、標準偏差、歪度、尖度、中央値、最頻値等
- 第 3 回 3. 正規母集団
正規性の検定、母数の検定・推定
- 第 4 回 4. 独立した2群の差の検定
F検定、スチューデント/ウェルチのt検定、マン・ホイットニ検定
- 第 5 回 5. 関連のある2群の差の検定
対応のあるt検定、ウィルコクソン符号順位和検定
- 第 6 回 6. 独立した他群の差の検定
バートレット検定、一元分散分析法、クラスカル・ウォリス検定
- 第 7 回 7. 2要因で分類される多群の差の検定—繰り返しなし—
二元配置分散分析法、フリードマン検定
- 第 8 回 8. 2要因で分類される多群の差の検定—繰り返しあり—
二元配置分散分析法、重複測定一分散分析法
- 第 9 回 9. 多重比較
多重比較の可能性、パラ・ノンパラメトリック多重比較検定
- 第 10 回 10. 相関関係
ピアソンの相関係数検定、スピアマンの順位相関係数の検定
- 第 11 回 11. 回帰分析
単回帰分析、重回帰分析、変数選択—重回帰分析、整次多項式回帰分析
- 第 12 回 12. 2×2分割表の検定
X²独立性検定、フィッシャー直接確率計算法、マクニマー法、マンテル・ヘンツェル法
- 第 13 回 13. m×n 分割表の検定
X²独立性検定、マン・ホイットニ検定、クラスカル・ウォリス検定、スピアマンの順位相関係数の検定
- 第 14 回 14. 生存分析
Kaplan-Meier法、ロングランク検定
- 第 15 回 15. 学習の振り返りとまとめ
学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕

演習成果物60%、レポート40%

〔教科書〕

教科書必須：4Stepエクセル統計 第4版、柳井久江、オーエムエス出版 発売星雲社（4000円＋税）※統計ソフト付

〔参考文献〕

なし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

適宜相談の上、対応する。

マルチメディア研究

1016

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
中村 宏敏

〔到達目標〕

情報化時代においてマルチメディアは必要不可欠であり、そのものになる数値、文字、音、静止画像、動画画像のデジタル表現、加工方法や通信を解説し、デジタル技術の理解を深めると共にその応用力向上をめざす。

〔授業の概要〕

授業は講義だけでなく各種ソフトウェアを活用してデモンストレーションや実習も併用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業で使用する素材は各自で授業時間外に準備をする必要があります。各自でデータが整った状態で講義に臨む（事前90分+復習90分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 マルチメディアとは
マルチメディアを使った効率的な授業とは
- 第 2 回 数値のデジタル表現(2進数16進数)
デジタルにおける2進数と16進数表現
- 第 3 回 数値演算
数値処理について
- 第 4 回 文字のデジタル表現(アスキーコード)
ASCIIコードとは
- 第 5 回 漢字コード
漢字コードについて
- 第 6 回 静止画像のデジタル表現
デジタル写真の画素数と印刷での表現・画面での表現
- 第 7 回 画像処理(加工)
デジタル画像処理画像修正
- 第 8 回 画像圧縮とは
データの大きさについてと静止画像、動画について圧縮を体験する
- 第 9 回 音のデジタル表現
音をデジタル化するとはどういうことなのか劣化を含み体験する
- 第 10 回 音の加工
音声データの加工作業
- 第 11 回 動画アニメーション
アニメーションとはアニメーションを作りながら最終的には動画アニメーションを体験する
- 第 12 回 動画アニメーション編集

前回作った静止画アニメーションを動画に加工処理をする。

- 第 13 回 デジタル通信技術
アナログ通信とデジタル通信について考える
- 第 14 回 マルチメディア技術の展望
今後のマルチメディアを考えるバーチャルリアリティを含め広く体系的に学ぶ
- 第 15 回 学習のまとめ
ここで得た知識が、自分の生活の中でどう活用できるか、自分の研究にどう活用できるかをグループディスカッションする。

〔成績評価〕

講義理解度を、1単元毎に確認をし、理解度を測る、また、学期末には試験をおこなう。

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配付する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

講義終了後

国際開発教育研究

9017

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 教育学専攻
2単位 後期
林 徳治

〔到達目標〕

1. 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた我が国でのODAについて説明できる（知識）
2. SDGsにおいて、自己の専門に照らし合わせた開発教育に関心をもつことができる（情意）
3. 教育分野における開発途上国でのJICA事業を学び、現状と課題を討議、発表できる（技能）
4. 異文化・多文化の学習への活用が構想できる（情意）

〔授業の概要〕

様々な地域の開発途上国に対するODAとして、JICA（国際協力機構）による開発教育について考察する。開発途上国の開発目標としての「ミレニアム開発目標（MDGs）」を継承した世界合意の「持続可能な開発目標（SDGs）」の今後の取り組みについて学び討議する。国際協力支援についてはパートナー、研修・訓練は、Knowledge Co-creation Programの考えを基調に進めていく。また本授業では、国際的な観点から情報化に対応したICT活用による開発教育に主眼をおき、国際理解教育や帰国子女教育、留学生受入れについて討議し事故の考えを提案する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

本授業の学習は、グループワークによる協働学習、個別指導に加え、内外の研究者の参加によるテレビ会議やVODやeラーニング、SNSにより進める。

授業資料や参考文献は、eラーニングで提供する。
留学生など日本語が十分でない場合は、英語で講義を行う。
また配布資料についても、英語版を使用するので電子辞書などを携帯のこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 我が国のODAの変遷
ODAの現状を把握し、課題について討議する
- 第 2 回 国際協力の意義
世界における国際協力を通し、我が国での国際協力の現状を学び、課題について討議する
- 第 3 回 国際理解教育の意義
我が国での国際理解教育の現状を学び、課題について討議する
- 第 4 回 開発協力とゴール
開発教育について学び、課題について討議する
- 第 5 回 SDGsの意義
SDGsを学び、課題について討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 6 回 我が国のODAにおける地域別取り組み
地域密接型のODAについて討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 7 回 我が国のODAにおける課題別取り組み
課題別のODAについて討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 8 回 我が国のODAにおける様々な事業の取り組み
ODAの各種プロジェクトについて学び、討議し、課題を討議する
- 第 9 回 JICAにおける教育協力
JICAの取り組みの現状を学び、将来的展望のゴールについて提案する
- 第 10 回 タイの大学でのFDプロジェクト（事例研究）
タイラチャパット大学における教員研修について学び、課題を討議する
- 第 11 回 PNGにおける学校教材開発と評価プロジェクト（事例研究）
PNGの教育事情について学び、課題を討議する
- 第 12 回 パキスタン・Allama Iqbal Open Univ.におけるマルチメディア教材開発と評価プロジェクト（事例研究）
パキスタンの教育事情について学び、課題を討議する
- 第 13 回 フィリピンにおけるCPSCプロジェクトの支援（事例研究）
CPSCプロジェクトとその成果を学び、課題を討議する
- 第 14 回 ホンジュラスにおける看護教員研修の支援（事例研究）
ホンジュラスにおける看護教員研修について学び、課題を討議する
- 第 15 回 今後の開発教育の課題
我が国における国際協力の進め方について提案（プレゼン）する

〔成績評価〕

フィールドワークへの参画、プレゼンテーション50%、提出課題50%

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

メールによる質問などは、常時受け付ける。

ZOOMなどテレビ会議ツールによる質問などは、予約により受け付ける。

職業選択研究 I

1002

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

2単位 前期

湯尾 慎一

〔到達目標〕

教育現場における進路指導を職業選択の立場から考える必要性を明らかにする。適切な進路指導を実施できる指導者・研究者になることを目標とする。

〔授業の概要〕

近年、青少年の職業意識や就業行動において大きな変化が見られ、問題として早期の離職・転職者の増加、進路未決定者の増加、無求職者の増加などがある。これらを背景として青少年の職業選択の問題が指摘され、学校教育における進路指導の重要性が高まっている。本講義においては、学校教育における進路指導の立場から教育的アプローチで、職業選択の問題と進路指導を中心に講義する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

配付資料を熟読すること

〔授業計画〕

- 第 1 回 職業選択と学校進路指導
職業選択と学校の進路指導を職業選択から考察する。
- 第 2 回 社会の変化と進路指導の問題点
社会の変化と職業指導・進路指導・キャリア教育の問題点の考察する。
- 第 3 回 教育課程と進路指導の関連
教育課程の変遷と進路指導を取り巻く状況の関連を考察する。
- 第 4 回 進路指導の諸活動とその問題点（1）
進路指導の諸活動としての自己理解・生徒理解について考察する
- 第 5 回 進路指導の諸活動とその問題点（2）
進路指導の諸活動としての進路情報について考察する
- 第 6 回 進路指導の諸活動とその問題点（3）

進路指導の諸活動としての啓発的経験について考察する

- 第 7 回 進路指導の諸活動とその問題点 (4)
進路指導の諸活動としての進路相談について考察する。
- 第 8 回 進路発達の意義
学校教育における進路発達の意義を考察する。
- 第 9 回 進路指導の理論
進路指導の理論について考察する。
- 第 10 回 進路発達と職業選択
進路発達と職業選択の関係について考察する
- 第 11 回 中学生の進路発達
中学生の進路発達と学校進路指導のあり方を考察する
- 第 12 回 高校生の進路指導
高校生の進路指導と学校進路指導のあり方を考察する
- 第 13 回 進路選択におけるジェンダー問題
進路選択におけるジェンダーの問題を理解する
- 第 14 回 職業選択と進路発達の関係
職業選択と進路発達の関係を考察する
- 第 15 回 青少年の職業選択行動
青少年の職業選択行動について考察する

〔成績評価〕

講義中の発表 50%
レポート 50%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日の講義終了後。

技術科教育課程論 I

1011
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
藤本 光司

〔到達目標〕

中学校・高等学校における技術科（情報科なども含めて）の教育課程について知る。
教育課程を編成する際の諸条件を整理して、各学校での教育課程を編成する際の方策を学ぶ。

〔授業の概要〕

- ・教育課程を編成する際の基礎・基本的知識を学ぶ。
- ・授業の特性から、講義および課題演習を行う。
- ・グループ討議を行い、プレゼンテーション資料を作成し発表を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ・授業前に課題図書の特読（120分）
- ・授業後のレポート作成（120分）
- ・学外調査などを整理する（120分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス
授業に必要な事柄、学習活動に必要な準備を知る。
自己紹介などで交流し、共に学ぶ学生同士の相互理解を図る。
- 第 2 回 教育課程とは
学校における、教育課程の意義と役割を知る。
定義的裏付けを知り、経験に基づき議論する。
- 第 3 回 これまでの学校教育と教育課程
戦前・戦後の学校教育から学校の成り立ちと歴史の変遷について知る。
- 第 4 回 海外の学校教育とその教育課程
欧州・米国を中心に日本との比較を行う。
例えば、ナショナルカリキュラム（英国）の編成との違いを知り議論する。
- 第 5 回 教育課程の原理・原則
文部科学省の役割、教育行政との関係性について知る。さらに、昨今の関連する教育課題を例に挙げ討論する。
- 第 6 回 日本の学校教育
学校教育の変遷と法令整備に関して、時代の流れと整合について知る。
- 第 7 回 教育課程の編成
教育課程の構成要素について知り、学習指導要領との関連を学ぶ。
- 第 8 回 戦後初期の教育課程
戦後初期の「生活単元・問題解決学習」の教育課程のプラスとマイナス点を知り、さらに学習指導要領の登場による教育課程を理解する。
- 第 9 回 わが国の教育課程における科学技術振興
科学技術立国としての日本が、学校の教育課程にどう影響を与えたかを捉える。
- 第 10 回 米国の理数教育現代化運動とわが国への影響
“スパートニクショック”と米国の理数教育の現代化運動を見て、そのわが国の技術科教育の教育課程へどのように影響を与えたかを捉える。
- 第 11 回 学習内容削減と技術科教育課程
学習内容を削減することに対するプラスとマイナス点を考える。
現状の授業時数から、技術科教育における基礎・基本とは何かを議論する。
- 第 12 回 技術科における教育課程編成（1）
1年生（35時間）、2年生（35時間）、3年生（17.5時間）の一般的な事例を知り、3年間の見通しを立て教育課程編成の理論を知る。
- 第 13 回 技術科における教育課程編成（2）
3年間の見通しを立て教育課程を編成する際の注意点と昨今の課題について知る。さらにいくつか

の事例を参考に自分なりに考えた教育課程を提案する。

第14回 技術・家庭科としての教育課程編成
技術・家庭科の家庭分野との教育課程について、カリキュラムマネジメントの側面から現状と課題を考える。

第15回 前期講義のまとめ
前期に学んだことを整理し最終課題としてどのように仕上げるのか質疑応答および最終レポートへの課題を設定する。

【成績評価】

グループ演習への取り組み（30%）、主体的に学ぶ態度（20%）、調査・集計への取り組み（20%）、課題レポートへの取組（30%）を中心に総合的に評価する。

【教科書】

中学校技術・家庭科文科省検定教科書（開隆堂、東京書籍）
中学校技術・家庭科 学習指導要領解説（平成29年版、文部科学省）

『技術科教育概論』（九州大学出版会、2018）

【参考文献】

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（安東茂樹・藤本光司他、開隆堂、2016）

『アクティブ・ラーニングで導く 教学改善のすすめ』（藤本光司、他、ぎょうせい、2020）

『技術科教材論』（安東茂樹・藤本光司他、開隆堂、2021）

【履修条件】

前期・後期も履修することが望ましい

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

水曜日1,2限

金曜日4限

マーケティング研究

2014
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
実務経験有
政岡 勝治

【到達目標】

- ・授業を通じて経営学、マーケティングの知識を獲得する。
- ・テキスト部分の要約・発表を通じて、文書力・プレゼンテーション力向上を目指す。
- ・商社に27年勤務した実体験を加えて授業するので、実践的なビジネス知識獲得が可能。
- ・総合商社の取引、起業、事業経営、新規取引開拓など、幅広い企業活動を学ぶ。

【授業の概要】

- ・経営学、マーケティングを初めて学ぶ人も興味を持てるようにこれらを最初4回講義する。
- ・テキストとして政岡勝治著『総合商社の非総合性研究』（晃洋書房、2006年）を用いる。

・テキストの各章を順番に要約、発表する。発表内容をもとに、質疑応答と議論をする。

・各章に関連した経営学、マーケティングの関連知識は講義をする。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

次回授業に関連したテキストの部分は発表担当でなくても必ず30分程度事前に予習しておくこと。授業後30分程度復習し、そして分からない点などは、次の授業時に質問をすること。

【授業計画】

- 第1回 授業全般の説明と（講義）経営学について①
授業全般の説明と経営学の成り立ち、経済学との違い、経営学の体系、主要な経営管理思想、新たな経営学の展望などについて講義する。
- 第2回 （講義）経営学について②
経営学研究の主要な方法論（定量的方法、定性的方法）と、経営学が立脚する主要概念（マルクス経済学、近代経済学、構造主義、機能主義、解釈主義、パラダイムなど）を講義する。
- 第3回 （講義）マーケティング①
マーケティングの基礎事項である4P、製品差別化・市場細分化、マーケティングミクス、市場調査、顧客満足などについて講義する。
- 第4回 （講義）マーケティング②と課題の発表
・マーケティングの新しい流れである、エリア・マーケティング、Webマーケティング、ブランド戦略などについて講義する。
・課題を発表するので、第10回目の授業での提出とプレゼンテーションを目指す。
- 第5回 総合商社
テキスト『総合商社の非総合性研究』第二章をもとに日本でのみ見られる企業群である総合商社について講義する。以降の授業でテキストの要約発表の順番を決める。以降の授業では、各自発表をもとに質疑応答、討議をする。
- 第6回 外国間取引：発表と質疑応答、討議
テキスト第三章 第一節「外国間取引」の要約発表と質疑応答、討議
- 第7回 輸出取引：発表と質疑応答、討議
テキスト第三章 第二節「輸出取引」の要約発表と質疑応答、討議
- 第8回 輸入：発表と質疑応答、討議
テキスト第三章 第二節「輸入取引」の要約発表と質疑応答、討議
- 第9回 国内取引①：発表と質疑応答、討議
・国内取引に係る予算管理と与信管理について講義
・テキスト第三章 第四節「国内取引①ーポリスチレン樹脂取引」の要約発表
・質疑応答、討議
- 第10回 課題の提出と発表
第4回の授業で発表した3つの課題のうちから1つを選びワープロで提出し、プレゼンテーションする。

- 第 11 回 国内取引②：発表と質疑応答、討議
テキスト第三章 第五節「国内取引②－P箱事業とPパレットのタスクフォース」の要約発表と質疑応答、討議
- 第 12 回 国内取引③：発表と質疑応答、討議
テキスト第三章第六節「国内取引③－建設敷材販促活動」の要約発表と質疑応答、討議
- 第 13 回 事業投資活動：発表・質疑応答、討議
テキスト第三章 第七節「事業投資活動」の要約発表と質疑応答、討議
- 第 14 回 (講義) 総合商社の組織と管理
総合商社の商品事業部制、効率管理、人事管理を説明する。そして総合商社は外部競争の集合体となっていること、連携に頼らない業際活動が主流となっていることを講義する。
- 第 15 回 まとめと総合討議
これまでの授業をまとめ、そして十分討議できなかった部分を総合討議する。

〔成績評価〕

- ・課題レポート 30点
- ・期末試験 50点
- ・授業での質疑・応答、取り組み姿勢 20点

〔教科書〕

政岡勝治『総合商社の非総合性研究』晃洋書房、2006年

〔参考文献〕

関連した論文、図書コピーなどを授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎回授業後に行う

技術科教材研究Ⅱ

5004

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
盛谷 亨

〔到達目標〕

中学校・高等学校における技術科（情報科なども含めて）の教育について知る。

〔授業の概要〕

中学校技術科「情報に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」領域の既存教材を吟味し、例示された教材を実際に製作する過程で、教材開発上の問題点や学習指導上の留意点などを討議、検討する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した予習復習を行うことが可能な環境を用意すること。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

- 第 2 回 「情報に関する技術」領域の教材
- 第 3 回 「エネルギー変換に関する技術」領域の教材
- 第 4 回 教材の題材を選定するための視点
- 第 5 回 市販教材の吟味
- 第 6 回 市販教材の製作
- 第 7 回 市販教材の活用
- 第 8 回 教材の構成と授業の組み立て
- 第 9 回 コンピュータを活用した教材の考案
- 第 10 回 ハードウェアの設計
- 第 11 回 ソフトウェアの設計
- 第 12 回 ハードウェアの製作
- 第 13 回 ソフトウェアの製作
- 第 14 回 学習計画の立案
- 第 15 回 授業の支援と評価の在り方

〔成績評価〕

取り組み課題に対するレポートにて評価する。

〔教科書〕

適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

- ・「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成29年7月」 文部科学省

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

- ① 前 期
- ② 曜 日：月曜日 12:00～13:00
- ③ 場 所：研究室（研究棟 3階）
- ④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
- ⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

技術科と情報教育

5005

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
盛谷 亨

〔到達目標〕

中学校・高等学校における技術科（情報科なども含めて）の教育について知る。

〔授業の概要〕

中学校技術科としての情報教育におけるコンピュータの学習、および中学校現場でのコンピュータとそれに係わる設備の活用について理解を深め、技術科における情報教育が単にアプリケーションソフトウェアの利用法に留まるのではないことを理解し、その指導・学習法は如何にあるべきかを考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーション

ンを活用した予習復習を行うことが可能な環境を用意すること。

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 技術科における情報教育の目的
- 第 3 回 情報教育におけるコンピュータの位置づけ
- 第 4 回 授業におけるコンピュータの役割
- 第 5 回 技術教室とコンピュータ教室
- 第 6 回 コンピュータの利用法についての理解
- 第 7 回 コンピュータの働き
- 第 8 回 マルチメディアとネットワーク
- 第 9 回 情報モラルとセキュリティー
- 第 10 回 学内LANとその活用
- 第 11 回 コンピュータの仕組みについての理解
- 第 12 回 コンピュータの構成要素
- 第 13 回 ハードウェアとソフトウェア
- 第 14 回 コンピュータ言語
- 第 15 回 プログラミングと計測・制御

【成績評価】

課題に対するレポートにて評価する。

【教科書】

適時、資料を配布する。

【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成29年7月」 文部科学省

【履修条件】

教職課程履修者のみ

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

- ① 前 期
- ② 曜 日：月曜日 12:00～13:00
- ③ 場 所：研究室（研究棟3階）
- ④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
- ⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

技術科教育研究

6002
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
安東 茂樹

【到達目標】

技術科教育に関する基礎的な理論について、教育目的論から内容論・方法論・教材論等、その指導方法や評価など、実践例を踏まえて具体的に考究することができる。

- ・技術科教育の基礎的理論について、自らの興味とともに理解する。(知識・技能、関心・意欲・態度)
- ・技術科教育の指導方法や評価について理解し、実践化を目指し考える。(知識・技能、思考・判断)

【授業の概要】

技術科教育研究の在り方に関わって、新学習指導要領の内容を論じるとともに、毎回、各人の思考の深まりを求めて意見交換（ディスカッション）を取り入れる。

※後期開講の「技術科教育研究演習」で具体的な題材開発や技術的能力について取り扱う。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

授業外学習として、技術科教育の研究に関する関係書物を読解することと、毎時間の授業内容をまとめる。

「授業前の関連文献の読解（90分）」「授業後のまとめとしてレポート作成（90分）」

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
技術科教育研究のねらいと計画、及び評価方法等、その概略を確認する。
- 第 2 回 技術科教育の位置づけと現状
「技術科教育をどうとらえているか?」「技術科の教材をどう位置づけるか?」について考察する。
- 第 3 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（1）
技術科教育の歴史と教材のかかわりについて、具体的に考究する。
- 第 4 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（2）
技術科教育における技術と教育について、具体的に考究する。
- 第 5 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（3）
技術科教育の指導計画と教育課程について、具体的に考究する。
- 第 6 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（4）
技術科教育の学習指導について、具体的に考究する。
- 第 7 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（5）
技術科教育の題材選定について、具体的に考究する。
- 第 8 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（6）
技術科教育の教材教具の開発と活用について、具体的に考究する。
- 第 9 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（7）
技術科教育の教材研究の視点について、具体的に考究する。
- 第 10 回 「新技術科教育総論」の内容から学ぶ（8）
技術科教育の学力構造とその評価について、具体的に考究する。
- 第 11 回 新学習指導要領から学習内容（その1）
「材料と加工の技術」について、具体的に考究する。
- 第 12 回 新学習指導要領から学習内容（その2）
「生物育成の技術」について、具体的に考究する。
- 第 13 回 新学習指導要領から学習内容（その3）
「エネルギー変換の技術」について、具体的に考究する。
- 第 14 回 新学習指導要領から学習内容（その4）
「情報の技術」について、具体的に考究する。
- 第 15 回 授業の総括

技術科教育における教材の課題と展望, 技術科教育の内容について考察し, 指導のあり方やその課題と展望について協議する。

【成績評価】

定期試験 (40%), 授業でのレポート (30%), 授業での発表内容 (20%), 学習意欲 (10%)

【教科書】

- ・新技術科教育総論 (平成21年4月 日本産業技術教育学会 技術教育分科会)
- ・中学校学習指導要領 (平成29年告示)解説 技術・家庭編 (平成29年7月 文部科学省)
- ・技術科教育概論 (平成30年4月 日本産業技術教育学会 技術教育分科会)
- ・中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
- ・中学校新学習指導要領の展開 技術家庭科 技術分野 (平成20年11月 明治図書出版)

【参考文献】

授業中に適宜資料を配布する。

【履修条件】

前期・後期も履修することが望ましい

【備考】

【オフィスアワー】

- ①前期・後期 ②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
- ③研究棟 安東研究室 ④s-andoh@ashiya-u.ac.jp ⑤その他 (来室の際、事前にメールでアポイントを取る)

特別研究 I 【事業開発】

7212
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 前期
今岡 重男

【到達目標】

教員の指導のもとでの研究に取組み、専門的なテーマについての知識や成果を論文にまとめるための過程を段階的に習得する。また、各自のテーマに沿って、文献研究た現地調査を实践し、学生がこれを発表し学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する中で経営学の理論と知識を深めます。さらに専門的なテーマについての知識や論文の執筆に向けた過程を確認するために、特別研究 I 前期の終了時点までに「研究計画書等」を作成する。

【授業の概要】

経営学の理論と知識を整理し、総合し、それぞれの分野における研究を強化し、これをふまえて現代的諸問題への接近をはかることを目標とします。

当ゼミナールでは、自主的積極的な学修・研究を基礎に進めていきます。学生諸君が自主的に研究したものを発表し、学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、経営学の理解を深め、専門的力量をたかめることができます。修士課程2年前期に「修士論文」作成に入れるように1年前期・後期で研究方法を学修する。

また当ゼミナールは、集団づくり、仲間づくりの場でもあ

ります。各人の主体的な努力と集団的な討議によって、学生間の結びつきを深めていくことができます。

【授業時間外・準備学習 (予習復習)】

- ①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
- ②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
- ③授業中に推薦する書籍や論文はよく読んでおく。

【授業計画】

- 第 1 回 授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
- 第 2 回 論文とは何かを学ぶ
次の3点を学ぶ。
(1)レポートと論文の違い

(2)オリジナル (独自) な考察

(3)リサーチ・クエスチョン (研究前提となる疑問)
- 第 3 回 「問い」の設定方法を学ぶ
(1)基本的な考え方
・論文ではgoogleですぐに調べられるような問題は扱わない
・複数の答えが可能なリサーチクエスチョン (「問い」)を立て、ある立場を選択する
・自分の力で扱えるテーマであること

(2)リサーチクエスチョンと仮説
・仮説とは、物事を考える際に「最も確からしいと考えられる仮の答え」のこと
・あらゆる論文は、「リサーチクエスチョン」に対して何らかの答えを導く、という形を取る
・仮説の数に合わせて章立てを決める
- 第 4 回 テーマの設定方法を学ぶ
次の3つの方法を学ぶ。
(1)対立法: 関連する資料や文献を読む → 相互に対立する主張を抽出

(2)問答法: 最も優れた (権威ある) 文献一冊を精読
→ 途中で疑問に感じた点をもとに著者の説に反駁を加える

(3)通説批判: 一般に信じられている通念を、社会科学的な調査や理論によって批判反論する
- 第 5 回 資料の収集方法を学ぶ
次の3つの方法を説明する。
(1)基礎知識の確認
(2)先行研究の調査
(3)情報の収集と整理
- 第 6 回 アウトラインの作成方法を学ぶ
以下の点を説明する。
(1)集まった資料を読み込みながら、「アウトライン」を作成する
(2)アウトラインは以下の要素を含む

- ①全体の章立て
②各章、各節のできるだけ細かい要点（箇条書き）
③資料からの引用、引用元の情報
- (3)論文の執筆は、できるかぎり詳しいアウトラインの作成と並行して行う
- 第 7 回 自分の研究テーマと仮説を考える
これまでの授業の中で得た知識を活用して卒業論文の研究テーマと仮説を考えてみる。
- 第 8 回 研究テーマと仮説の各自発表
自分の卒業論文のテーマと仮説を一人ずつ発表する。
- 第 9 回 研究方法論を学ぶ① 量的研究
量的研究とは、主に実験法や調査法を用いて数量的なデータを収集し、統計手法を用いて変数間の関係を明らかにする研究法のことです。
仮説検証を目的として行われることが多いが、量的研究の経営学研究論文を読みながらその長所と短所も考える。
- 第 10 回 研究方法論を学ぶ② 質的研究
質的研究とは、現象のありようを記述するために数値的表現ではなく、言語的表現を使用して、データの収集・分析・結果の提示（記述）を行う研究法のことです。仮説発見を目的として行われることが多いが、質的研究の経営学研究論文を読みながらその長所と短所も考える。
- 第 11 回 研究計画書の書き方を学ぶ
研究計画書の書き方について学ぶ。研究計画書の中身として、①卒業論文のテーマおよび課題、②テーマおよび課題を設定しようとする背景、③課題を明らかにするための調査・分析方法、④予想される参考文献リストについての考え方や書き方を学ぶ。
- 第 12 回 研究計画書の作成①
各受講者は授業の中で研究計画書を書いてみる。研究計画書の内容としては、①卒業論文のテーマおよび課題、②テーマおよび課題を設定しようとする背景、③課題を明らかにするための調査・分析方法、④予想される参考文献リストを最小限必要とする。
卒業論文の骨子や途中経過があることが望ましいが、必要要件とはしない。A4判1～2枚程度を目安に書いてみる。
- 第 13 回 研究計画書の作成②
研究計画書を書いていくうちに出てくる疑問点について、ゼミナールにおいて質疑応答しながら、各自の研究計画書を作り上げる。
- 第 14 回 研究計画書の発表①
各自が作成した研究計画書を順次発表し、ゼミナールで学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、研究計画をブラッシュアップする。
- 第 15 回 研究計画書の発表②

各自が作成した研究計画書を順次発表し、ゼミナールで学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、研究計画をブラッシュアップする。

〔成績評価〕

授業中の発表・質問・ディスカッションを通じて総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし。

〔参考文献〕

授業の中で随時示す。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

今回は遠隔授業を行うので、質問や相談のある人は、電話またはメールで連絡ください。

携帯電話：09083751660

パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

特別研究 I 【教育方法学】

7215

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

4単位 通年

藤本 光司

〔到達目標〕

藤本ゼミナールは、毎年、多様な目的を持った学生が集結します。2年間のゼミ活動を通じて、この一期一会を人生のチャンスととらえて共に成長してほしい。教職をめざす学生は、教育方法学の役割と変遷ならびに基礎理論を理解し、学習者に対して「わかる・楽しい」を提供するための教材作成を行う。他方、一般就職や起業・家業継承を希望する学生は、各自の興味・関心を広げて自身の可能性を対話によって探る時期を前期とする。いずれにても、全員が多く書籍や論文を読破し対話による交流を通じて人間としての幅を広げ成長してほしい。

〔授業の概要〕

今日の教育上の課題と関わらせながら、教育方法の基礎となる理論や、優れた授業実践事例を学ぶとともに、教師に必要とされる授業実践力の基礎を身につける。講義だけでなく一部にグループ演習なども取り入れる。

- ・問題解決学習の今日的な意義と課題（学習指導要領の変遷を含む）

- ・工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価（指導案作成を含む）

- ・協働の学びとは（協働学習、学びの共同体を含む）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ・授業前に課題図書精読（120分）

- ・授業後のレポート作成（120分）

- ・学外調査などを整理する（120分）

〔授業計画〕

第 1 回 前期ゼミナールのガイダンス

- これまでの学びと、これからの学びについて。
意見交換を含む。
- 第 2 回 研究計画の立て方
2年間の研究計画について概要を知る。研究について、担当教員や同じゼミ生で意見交換を行う。
- 第 3 回 学習科学・学習理論の変遷について
教授学習理論の変遷について知る。
構成主義と行動主義を模擬授業で体験し本来の授業の設計方法を考える。
- 第 4 回 学びの本質としてのアクティブラーニング(AL)
ALの授業展開について概要を知る。
各自の興味・関心を整理して、議論しながら研究の進め方を吟味する。
- 第 5 回 子どもにとっての主体的な学びとは？
自主性調査の成果と課題。
既存の論文を読み解きながら、自主性や主体性について考える。
- 第 6 回 対話的な学びとは？
子どもの自主性が高まることにより、一斉学習の授業スタイルがどのように変化するのか？事例で考えながらこれからの教育を議論する。
- 第 7 回 深い学びとは？
深い学びを進めるために、授業設計や教材化に必要な概念を考える。
- 第 8 回 卒業論文と修士論文
院生の論文として必要な論文や研究に関するエビデンスとは？
- 第 9 回 修士論文の執筆に向けての必要事項
データの整理方法。
情報セキュリティ。
- 第 10 回 過去の修士論文より学ぶ
調査研究やフィールドワークについて、これまでの研究方法や内容を知る。
- 第 11 回 研究計画の立案（1）
フィールドワークやPBL活動（学外活動）の重要性を知る。
- 第 12 回 研究計画の立案（2）
アンケート調査の方法を知り、具体的に調査枝を作って検証する。
- 第 13 回 修士論文の設計（1）
序論と終論による論文の全体像を示す。
- 第 14 回 修士論文の設計（2）
、関連する書籍や論文から、どのように引用・参考文献を利用するのか、具体的事例で知る。また、実際に関連する論文を各自紹介する。
- 第 15 回 今後の課題整理と前期まとめ
自分の研究テーマに関するキーワードを整理して、研究の仮説を立てる。

〔成績評価〕

グループ演習への取り組み（30%）、主体的に学ぶ態度（20%）、調査・集計への取り組み（20%）、課題レポートへの取組（30%）を中心に総合的に評価する。

〔教科書〕

『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』（藤本光司、他、ぎょうせい、2020）

教職系の学生

「技術科教材論」（安東茂樹・藤本光司、竹谷書房、2020）

「中学校技術・家庭科文科省検定教科書」（開隆堂、東京書籍）

「中学校技術・家庭科 学習指導要領解説」（平成29年版、文部科学省）

『技術科教育概論』（九州大学出版会、2018）

〔参考文献〕

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（安東茂樹・藤本光司他、開隆堂、2016）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

水曜日 1, 2 限

金曜日 4 限

特別研究 I 【技術科教材開発】

7216

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

4単位 通年

盛谷 亨

〔到達目標〕

中学校技術・家庭科技術分野各領域における既存教材の特徴や有用性を評価・研究し、教材製作・活用上の問題点や学習指導上の留意点を踏まえた独自の教材を考案する。

〔授業の概要〕

各自の研究テーマに沿って開発した成果物を題材とした修士論文を完成させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・学校現場や研究会、学会の学生セッションなどに積極的に参加すること。

〔授業計画〕

1年次

- ・各領域の既存教材を調査する。
- ・先行研究や文献を調査し、その内容について考察する。
- ・研究テーマとする領域を絞り込む。
- ・テーマとする領域の市販教材を製作し、その特徴を考察する。
- ・教科書に沿った視点で具体的な教材化の検討を行う。
- ・教材開発のための資料や材料を収集する。
- ・教材の設計・製作を行う。

〔成績評価〕

・修士論文作成という観点から評価する。

〔教科書〕

適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

- ・参考文献や資料は、研究テーマに応じて適宜紹介する。
- ・「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

- ① 前期
- ② 曜日：月曜日 12:00～13:00
- ③ 場所：研究室（研究棟3階）
- ④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
- ⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

特別研究Ⅱ【事業開発】

7263
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 前期
今岡 重男

〔到達目標〕

教員の指導のもとでの研究に取組み、専門的なテーマについての知識や成果を論文にまとめるための過程を段階的に習得する。また、各自のテーマに沿って、文献研究や現地調査を实践し、論文を書き進める。学生がこの途中経過を発表し学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。この繰り返して修士論文の完成に向けて研究を進める。

〔授業の概要〕

本授業は、研究ステップ（論文構成）に合わせて、研究目的・課題・問題意識・先行研究・仮説・調査対象・分析の枠組・分析結果・考察・結語の順に授業のテーマを設定し、学生は論文を書き進めていく。

学生は、授業の各段階において、ゼミナールで論文の部分的な発表をして、他の学生との意見交換、担当教員の指導を得てブラッシュアップする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
- ②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
- ③授業中に推薦する書籍や論文はよく読んでおく。

〔授業計画〕

- 第1回 授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
- 第2回 研究目的・課題・問題意識の議論
研究目的・課題・問題意識について担当教員から概要を説明し、その後質疑と議論をする。
- 第3回 受講者の研究目的・課題・問題意識の発表
学生がこの発表をし学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。
- 第4回 先行研究・仮説・調査対象の議論
先行研究・仮説・調査対象について担当教員から概要を説明し、その後質疑と議論をする。

- 第5回 受講者の先行研究・仮説・調査対象の発表
学生がこの発表をし学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。
- 第6回 分析の枠組の議論①
分析の枠組について担当教員から概要を説明し、その後質疑と議論をする。
- 第7回 分析の枠組の議論②
分析の枠組について担当教員から説明し、その後質疑と議論をする。
- 第8回 受講者の分析の枠組の発表
学生がこの発表をし学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。
- 第9回 分析結果の議論①
分析結果について担当教員から概要を説明し、その後質疑と議論をする。
- 第10回 分析結果の議論②
分析結果について担当教員から説明し、その後質疑と議論をする。
- 第11回 受講者の分析結果の発表
学生がこの発表をし学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。
- 第12回 考察・結語の議論①
考察・結語について担当教員から概要を説明し、その後質疑と議論をする。
- 第13回 考察・結語の議論②
考察・結語について担当教員から説明し、その後質疑と議論をする。
- 第14回 受講者の考察・結語の発表
学生がこの発表をし学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。
- 第15回 受講者の論文の発表
受講者がこの授業を通じて書くことのできた論文を発表し、学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する。

〔成績評価〕

授業中の発表・質問・ディスカッション・発表を通じて総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし。

〔参考文献〕

授業の中で随時示す。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

今回は遠隔授業を行うので、質問や相談のある人は、電話またはメールで連絡ください。

携帯電話：09083751660

パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

特別研究Ⅱ【教育方法学】

7265

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 通年
藤本 光司

〔到達目標〕

藤本ゼミナールは、毎年、多様な目的を持った学生が集結します。2年間のゼミ活動を通じて、この一期一会を人生のチャンスととらえて共に成長してほしい。教職をめざす学生は、教育方法学の役割と変遷ならびに基礎理論を理解し、学習者に対して「わかる・楽しい」を提供するための教材作成を行う。他方、一般就職や起業・家業継承を希望する学生は、各自の興味・関心を広げて自身の可能性を対話によって探る時期を前期とする。いずれにても、全員が多くの書籍や論文を読破し対話による交流を通じて人間としての幅を広げ成長してほしい。

〔授業の概要〕

今日の教育上の課題と関わらせながら、教育方法の基礎となる理論や、優れた授業実践事例を学ぶとともに、教師に必要とされる授業実践力の基礎を身につける。講義だけでなく一部にグループ演習なども取り入れる。

- ・問題解決学習の今日的な意義と課題（学習指導要領の変遷を含む）
- ・工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価（指導案作成を含む）
- ・協働の学びとは（協働学習、学びの共同体を含む）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ・授業前に課題図書の特読（120分）
- ・授業後のレポート作成（120分）
- ・学外調査などを整理する（120分）

〔授業計画〕

- 第1回 前期ゼミナールのガイダンス
これまでの学びと、これからの学びについて。
意見交換を含む。
- 第2回 研究計画の立て方
2年間の研究計画について概要を知る。研究について、担当教員や同じゼミ生で意見交換を行う。
- 第3回 学習科学・学習理論の変遷について
教授学習理論の変遷について知る。
構成主義と行動主義を模擬授業で体験し本来の授業の設計方法を考える。
- 第4回 学びの本質としてのアクティブラーニング(AL)
ALの授業展開について概要を知る。
各自の興味・関心を整理して、議論しながら研究の進め方を吟味する。
- 第5回 子どもにとっての主体的な学びとは？
自主性調査の成果と課題。
既存の論文を読み解きながら、自主性や主体性について考える。
- 第6回 対話的な学びとは？

子どもの自主性が高まることにより、一斉学習の授業スタイルがどのように変化するのか？事例で考えながらこれからの教育を議論する。

- 第7回 深い学びとは？
深い学びを進めるために、授業設計や教材化に必要な概念を考える。
- 第8回 卒業論文と修士論文
院生の論文として必要な論文や研究に関するエビデンスとは？
- 第9回 修士論文の執筆に向けての必要事項
データの整理方法。
情報セキュリティ。
- 第10回 過去の修士論文より学ぶ
調査研究やフィールドワークについて、これまでの研究方法や内容を知る。
- 第11回 研究計画の立案（1）
フィールドワークやPBL活動（学外活動）の重要性を知る。
- 第12回 研究計画の立案（2）
アンケート調査の方法を知り、具体的に調査枝を作って検証する。
- 第13回 修士論文の設計（1）
序論と終論による論文の全体像を示す。
- 第14回 修士論文の設計（2）
、関連する書籍や論文から、どのように引用・参考文献を利用するのか、具体的事例で知る。また、実際に関連する論文を各自紹介する。
- 第15回 今後の課題整理と前期まとめ
自分の研究テーマに関するキーワードを整理して、研究の仮説を立てる。

〔成績評価〕

グループ演習への取り組み（30%）、主体的に学ぶ態度（20%）、調査・集計への取り組み（20%）、課題レポートへの取組（30%）を中心に総合的に評価する。

〔教科書〕

『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』（藤本光司、他、ぎょうせい、2020）
教職系の学生
「技術科教材論」（安東茂樹・藤本光司、竹谷書房、2020）
「中学校技術・家庭科文科省検定教科書」（開隆堂、東京書籍）
「中学校技術・家庭科 学習指導要領解説」（平成29年版、文部科学省）
『技術科教育概論』（九州大学出版会、2018）

〔参考文献〕

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（安東茂樹・藤本光司他、開隆堂、2016）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

水曜日1、2限
金曜日4限

特別研究Ⅱ【技術科教材研究】

7266
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 通年
盛谷 亨

〔到達目標〕

中学校技術・家庭科技術分野各領域における既存教材の特徴や有用性を評価・研究し、教材製作・活用上の問題点や学習指導上の留意点を踏まえた独自の教材を考案する。

〔授業の概要〕

各自の研究テーマに沿って開発した成果物を題材とした修士論文を完成させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・学校現場や研究会、学会の学生セッションなどに積極的に参加すること。

〔授業計画〕

1年次

- ・各領域の既存教材を調査する。
- ・先行研究や文献を調査し、その内容について考察する。
- ・研究テーマとする領域を絞り込む。
- ・テーマとする領域の市販教材を製作し、その特徴を考察する。
- ・教科書に沿った視点で具体的な教材化の検討を行う。
- ・教材開発のための資料や材料を収集する。
- ・教材の設計・製作を行う。

〔成績評価〕

・修士論文作成という観点から評価する。

〔教科書〕

適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

- ・参考文献や資料は、研究テーマに応じて適宜紹介する。
- ・「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成29年7月」 文部科学省

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

- ① 前期
- ② 曜日：月曜日 12:00～13:00
- ③ 場所：研究室（研究棟3階）
- ④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
- ⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

特別研究Ⅱ【学習科学】

7267
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 通年
若杉 祥太

〔到達目標〕

研究指導の上、論文作成を目指す。

〔授業の概要〕

本専門演習では、近年の教えることから学ぶことへパラダイムシフトに伴い、学際的に教育工学や認知科学、教育方法学の基礎から応用までを学びます（＝学習科学）。それにより、学習者がICT活用などによって主体的・対話的で深い学び（＝豊かな学び）を実現するための方法や環境などの学習デザインや指導方法、教材についての理論研究・開発研究・事象研究・実証(参与)研究を行います。

研究では、量的研究法/質的研究法のいずれも用いる。教育の改善を目的とし、手法は一人ひとり最適な方法を採用行います。そのため、研究に付随して数理統計や分析手法、調査方法、執筆方法、発表方法、研究倫理などについても学ぶことができます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適宜授業中に指示する。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第2回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第3回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第4回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第5回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第6回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第7回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第8回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第9回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第10回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第11回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第12回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第13回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第14回 | 論文作成
研究指導と論文作成 |
| 第15回 | 論文作成 |

研究指導と論文作成

〔成績評価〕

論文作成 100%

〔教科書〕

適宜授業中に指示する。

〔参考文献〕

適宜授業中に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

適宜授業中に指示する。

情報数理研究 I

9016

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
若杉 祥太

〔到達目標〕

基礎的な数理的理論を理解することにより多様な分野の質的・量的研究の一助とする。

〔授業の概要〕

基礎的な数理的理論の理解に資する数値データの情報操作技法を磨き正確かつ効率的に行うための統計処理演習を行う。

学部開講の情報数理学 I・II を履修していることが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適時授業中に指示する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. ガイダンス、excel基礎
統計的検定、統計的推定
- 第 2 回 2. 基本統計量
平均値、不偏分散、標準偏差、歪度、尖度、中央値、最頻値等
- 第 3 回 3. 正規母集団
正規性の検定、母数の検定・推定
- 第 4 回 4. 独立した2群の差の検定
F検定、スチューデント/ウェルチのt検定、マン・ホイットニ検定
- 第 5 回 5. 関連のある2群の差の検定
対応のあるt検定、ウィルコクソン符号順位和検定
- 第 6 回 6. 独立した他群の差の検定
パートレット検定、一元分散分析法、クラスカル・ワーリス検定
- 第 7 回 7. 2要因で分類される多群の差の検定—繰り返しなし—
二元配置分散分析法、フリードマン検定
- 第 8 回 8. 2要因で分類される多群の差の検定—繰り返しあり—
二元配置分散分析法、重複測定一分散分析法
- 第 9 回 9. 多重比較

多重比較の可能性、パラ・ノンパラメトリック多重比較検定

- 第 10 回 10. 相関関係
ピアソンの相関係数検定、スピアマンの順位相関係数の検定
- 第 11 回 11. 回帰分析
単回帰分析、重回帰分析、変数選択—重回帰分析、整次多項式回帰分析
- 第 12 回 12. 2×2分割表の検定
X²独立性検定、フィッシャー直接確率計算法、マクニマー法、マンテル・ヘンツェル法
- 第 13 回 13. m×n分割表の検定
X²独立性検定、マン・ホイットニ検定、クラスカル・ワーリス検定、スピアマンの順位相関係数の検定
- 第 14 回 14. 生存分析
Kaplan-Meier法、ロングランク検定
- 第 15 回 15. 学習の振り返りとまとめ
学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕

演習成果物60%、レポート40%

〔教科書〕

教科書必須：4Stepエクセル統計 第4版、柳井久江、オーエムエス出版 発売星雲社（4000円+税）※統計ソフト付

〔参考文献〕

なし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

適宜相談の上、対応する。

教育メディア研究

9017

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
林 徳治

〔到達目標〕

- 1. 教育メディア活用の意義と役割について説明できる
- 2. 教材開発の構想ができる
- 3. 授業のPDCAサイクルが構想できる

〔授業の概要〕

様々な教育メディアを活用した教授学習過程において、教授者に求められる学習デザイン、教材開発、教育評価などの資質や能力、メディアによる学習者の活動・能力の拡張について、諸外国の先事例や学術的理論を通して学ぶ。さらに各テーマについて他者との討議を主体的に行い、教育メディア活用での課題分析を行い、教育実践上での自己の考えを提案する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

本授業は、集団討議、個別指導に加え、内外の研究者の参加によるテレビ会議やVOD、eラーニング、SNSを利用し

て行う。

授業資料や参考文献は、eラーニングで提供する。
留学生など日本語が十分でない場合は、英語で講義を行う。
また配布資料についても、英語版を使用するので電子辞書などを携帯のこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 教授・学習理論の変遷：分類
世界の動向からみた日本の教授・学習の変遷と課題について
- 第 2 回 2. 教授・学習理論の比較
- 第 3 回 3. 行動主義による教授学習過程の分析
経験主義、認知主義の特徴について
- 第 4 回 4. 構成主義による教授・学習過程の分析
構成主義の特徴
主体的な学びとは
- 第 5 回 5. 教授者主導による学習者の認知を重視した授業設計
効果的な知識理解・技能習得の学習デザインについて
- 第 6 回 6. 学習者主体による学習者の情意を重視した授業設計
ブルームのタクソノミーに基づいた主体性を重視した学習デザインについて
- 第 7 回 7. 学習環境を重視した教育：社会相互作用理論
社会的構成主義に基づいた協働・協創学習について
- 第 8 回 8. 学習環境を重視した教育：行動意図モデル
社会的構成主義における教育メディアを活用した学習環境での授業設計について
- 第 9 回 9. メディアを活用した教材開発と評価 1：分類
メディアの特徴について
- 第 10 回 10. メディアを活用した教材開発と評価 2：分析
各メディアによる特徴を生かした教材開発について
- 第 11 回 11. メディアを活用した授業計画と学習指導案
授業でのカテゴリ分析による評価について
- 第 12 回 12. マイクロティーチングの理論と実践知とメディア
マイクロティーチングとマイクロプレゼンテーションの理論
- 第 13 回 13. メディアを活用したマイクロティーチングのための授業計画作成
授業設計と学習指導案について
- 第 14 回 14. マイクロティーチングの実践と評価
マイクロティーチングの実施による自己・他者評価による授業評価について
- 第 15 回 15. 今後の教育メディアのコンテンツ開発・蓄積・流通：デジタルアーカイブ
デジタルアーカイブについて

〔成績評価〕

教材作成・グループワーク（協調性、主体性）50%、提出課題 50%

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

質問などは、メールで常時受け付ける。

また、ZOOMなどによるテレビ会議ツールによる質問や意見なども予約により受け付ける。

情報倫理研究

9018

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

2単位 前期

林 泰子

〔到達目標〕

- ・「情報」の特性を理解し、説明することができる。
- ・情報倫理に関する法や規制について、基礎的な要点を説明することができる。
- ・情報教育の意義やねらいを説明することができる。
- ・情報社会の問題事象に対し、他者や社会を考慮した考えを提示することができる。

〔授業の概要〕

情報社会において「情報」が起因となっている問題事象を通し、そこに介在している「人」に着目して、情報倫理を法的・技術的観点および道徳的観点から探求する。

講義はアクティブラーニングを多く取り入れ、活発なディスカッションを行っていく。そこから課題に関する広い視点と深い考えを修得していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

- ・準備学習（30分）、授業後の課題レポート作成（60分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
情報倫理に関する導入課題
- 第 2 回 情報の本質
情報の特性、データと情報、情報の価値
- 第 3 回 情報倫理の概念
応用倫理、倫理、モラル、道徳
- 第 4 回 情報社会の多様性
ネット社会、デジタル社会、情報過多
- 第 5 回 ソーシャルネットワーク
SNS、実名と匿名、乖離する人間像
- 第 6 回 情報とコミュニケーション
進化する情報端末機、スマートフォン
- 第 7 回 日常生活の情報化
情報媒体の多様化、フェイクニュース、監視社会
- 第 8 回 知的財産権
著作権、デジタル社会と著作権侵害
- 第 9 回 個人情報
個人情報保護、プライバシー、マイナンバー制度
- 第 10 回 情報倫理の重要性
情報倫理教育、情報モラル教育、人権教育

- 第 11 回 情報倫理と道徳性 I
道徳的判断力、道徳性認知発達段階理論
- 第 12 回 情報倫理と道徳性 II
情報倫理の問題事象を道徳的観点から分析
- 第 13 回 情報社会で求められる倫理 I
論理的な解決手法を用いた課題解決
- 第 14 回 情報社会で求められる倫理 II
課題解決の糸口と提言
- 第 15 回 学習の振り返りとまとめ
これまでの講義の振り返り、受講者の学習ポートフォリオの総括

〔成績評価〕

課題提出物 60%
課題レポート 40%

〔教科書〕

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説（平成30年7月、文部科学省）

〔参考文献〕

情報倫理学入門、越智貢編、ナカニシヤ出版（2600円＋税）

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

本科目では情報社会の問題事象を取り上げ、受講者のディスカッションによる多様な視点からの意見を考察する。日常からニュースや記事などで見聞きする、情報に関する様々な問題事象に関心を持つように心がけ、資料として書きとめておくこと。

〔オフィスアワー〕

- ①前期・後期
- ②木曜日：11:00～12:00
- ③研究室
- ④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
- ⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
それ以降は、メールで受け付けます。

技術科と情報教育演習

5005
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
盛谷 亨

〔到達目標〕

中学校・高等学校における技術科（情報科なども含めて）の教育について知る。

〔授業の概要〕

技術科と情報教育（講義）をふまえ、技術科における情報教育が単にアプリケーションソフトウェアの利用法に留まるのではなく、技術科本来のものづくりと如何に結びつけていくのか、「プログラムと計測・制御」に係わる内容を

テーマに、中学校技術科で利用できるコンピュータ言語の吟味とその言語を習得するためのプログラミング、活用法についての演習を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した予習復習を行うことが可能な環境を用意すること。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 情報教育におけるものづくり
- 第 3 回 コンピュータ言語の吟味
- 第 4 回 コンピュータ言語の選択
- 第 5 回 プログラミング環境の構築
- 第 6 回 基本プログラム作成演習 1（設計）
- 第 7 回 基本プログラム作成演習 2（コーディング）
- 第 8 回 基本プログラム作成演習 3（デバッグ）
- 第 9 回 制御対象とインタフェースの検討
- 第 10 回 制御対象物の製作 1
- 第 11 回 制御対象物の製作 2
- 第 12 回 制御プログラム作成演習 1
- 第 13 回 制御プログラム作成演習 2
- 第 14 回 制御プログラム作成演習 3
- 第 15 回 まとめ

〔成績評価〕

取り組み課題に対するレポートにて評価する。

〔教科書〕

適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

- ・「中学校学習指導要領 平成20年3月告示」 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成29年7月」 文部科学省

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

- ①後 期
- ②曜 日：月曜日 12:00～13:00
- ③場 所：研究室（研究棟 3階）
- ④連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
- ⑤その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

技術科教育研究演習

6002
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
安東 茂樹

〔到達目標〕

・技術科教育の指導について、具体的な教材（題材）を取り上げ、その指導計画並びに学習過程を分析的にまとめ、教材開発上、必要不可欠な観点や要素等について指摘する

ことができる。(知識・技能, 関心・態度・表現)
・授業実践による, 目標や内容と学習効果との関連について検討することができる。(思考・判断・表現)

【授業の概要】

毎授業, 論文等の資料を配布し, その内容を分析的に読み込み, 各人の考えや意見等についてディスカッションする。実際にものづくりの実習を体験し, 指導に活かす方法等について協議する。授業内容の確認と, 実習題材の内容について考察を加え課題についてレポートにまとめる。

【授業時間外・準備学習(予習復習)】

授業外学習として, 関連文献の読解と, 実際の教育現場を訪問し技術科教育の実践についてレポートにまとめる。できるだけ, 教育現場に出向き教育実践等を体験する。

「授業前の文検等の調査と読解(90分)」 「授業後の実践調査とそのレポート作成(90分)」

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
「技術科教育の昨今の状況」について協議し, 授業のねらいや授業の進め方を理解する。
- 第2回 教材の検討(1)
「興味・関心を高める題材の開発」について考察し協議する。
- 第3回 教材の検討(2)
「家庭科との連携を考えた題材」について考察し協議する。
- 第4回 教材の検討(3)
「家庭で役立つ題材」について考察し, 実際に「紙飛行機製作」を行う。
- 第5回 教材の検討(4)
「家庭で役立つ題材」について考察し, 実際に「スチレンペーパーとバルサ材で飛行機の製作を行う。(※材料費とカッターナイフ, 瞬間接着剤, ヤスリなど準備する)
- 第6回 教材の検討(5)
「生活を豊かにする題材」について考察し, 実際にスチレンペーパーとバルサ材で「飛行機」の製作を行う。
- 第7回 教材の検討(6)
「中学生の生活技術の分析」について考察する。
- 第8回 教材の検討(7)
「技術的能力と学校適応・基礎学力の関係」について考察する。
- 第9回 教材の検討(8)
「技術的問題解決場面における自己評価能力の構造と発達」について考察する。
- 第10回 教材の検討(9)
「授業過程における技術的能力の変化」について考察する。
- 第11回 教材の検討(10)
「震災時における有用な技術の分析」について考察する。
- 第12回 教材の検討(11)
「技術科教育における技能習得の分析」について考察する。

第13回 教材の検討(12)

「技術科教育における感情の分析」について考察する。

第14回 評価の検討

評価(チェックリストの作成) 実習題材のあり方について考察する。

第15回 授業のまとめ

ディスカッション, 総括的な振り返り, 技術科教育研究演習の授業について, 学習成果をまとめて発表する。

【成績評価】

意見発表や実習作品の内容及びレポート試験で評価する。レポート試験(50%), 授業の発表内容(30%), 授業での実習作品(20%)

【教科書】

- ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編(平成30年3月 開隆堂)
- ・新技術科教育総論(平成21年4月 日本産業技術教育学会 技術教育分科会)
- ・技術科教育概論(平成30年4月 日本産業技術教育学会 技術教育分科会)
- ・中学校学習指導要領(平成29年7月告示 文部科学省)
- ・新学習指導要領対応技術・家庭 新しい題材・指導事例集 技術分野(平成20年8月 開隆堂出版)

【参考文献】

授業中に適宜, 資料を配布する。

【履修条件】

前期・後期も履修することが望ましい

【備考】

【オフィスアワー】

- ①前期・後期 ②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室 ④s-andoh@ashiya-u.ac.jp ⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取る)

国際経営研究

1015

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
実務経験有
政岡 勝治

【到達目標】

本授業では, 次のような学習結果を期待する。①経営学と国際経営に係る理論を理解する。②総合商社での勤務を加えるので実践的な理解を深める。③英語文献も活用するので, 幅広い知識の獲得を目指す。

【授業の概要】

- ・経営学, 国際経営論を初めて学ぶ人も興味を持てるよう基本事項から授業を進める。
- ・テキストの各章を順番に要約, 発表する。発表内容をもとに, 質疑応答と議論をする。
- ・第1回目講義で課題を示すので第8回目授業でレポート提出と発表をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

次回授業に関連したテキストの部分の部分を毎回の授業で示すので30分程度事前に予習をしておくこと。授業後30分程度復習し、そして分からない点などは、次の授業時に質問をすること。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業全般の説明、国際経営と国内経営の相違
授業全般の説明。発表課題の提示するので第8回目の講義でレポート提出し、プレゼンテーションする。
- 第 2 回 経営学と国際経営論
経営学の成り立ち、主な経営学分野、主要な概念、国際経営論の学問的意義を歴史的観点を加え講義する。
- 第 3 回 国際経営の法制度・文化
国際経営での貿易取引、ライセンス契約、対外直接投資に関する法的問題、進出国の文化が国際ビジネスに影響を及ぼすことを講義する。
- 第 4 回 国際経営の理論
国際ビジネスを理解するうえで基礎的理論となる生産優位性、プロダクト・ライフサイクル理論、内部化理論などを講義する。
- 第 5 回 国際マーケティング
国際マーケティングの意味、これまでの研究の歩み、国際マーケティング概念とマネジメント・プロセスなどを講義する。
- 第 6 回 海外生産
海外生産を促す経営資源の優位性、立地要因、日本多国籍企業の海外生産の展開、日本企業の経営資源の国際移転を講義する。
- 第 7 回 国際人的資源管理
国際人的資源管理の定義、国際人的資源管理の枠組みと実証研究、欧米多国籍企業と日本企業の国際人的資源管理の課題を講義する。
- 第 8 回 発表課題 国際経営と現地化
興味のある企業を選択し国際化の状況・問題点などレポートを提出し、授業中にプレゼンテーションし、質疑・応答を行う。
- 第 9 回 国際財務管理
為替レートの意味とこれまでの動向、円高への輸出企業の対処、財務国際化と企業変革、資金調達国際化と資本コストなどを講義する。
- 第 10 回 国際経営組織
経営組織論の歴史的意義、企業成長により変化する組織形態、地域統括会社・地域事業統括会社など国際経営に特化した組織形態を講義する。
- 第 11 回 国際戦略提携
国際戦略提携の定義、近年拡大する国際戦略経営の背景、ドス＝ハメルの理論、内部化理論など国際戦略提携の諸理論などを講義する。
- 第 12 回 日本と異文化（討議）
総合商社での海外勤務経験をもとに日本とは異なる異文化での体験を紹介する。これに対し、受講

者もこれまでの体験をもとに異文化への適応を討議する。

- 第 13 回 異文化経営
異文化経営の定義、異文化経営と多様性、異文化経営論の古典的理論、異文化インターフェース管理、文化的多様性、異文化シナジーを講義する。
- 第 14 回 国際経営の今後
グローバリゼーションの進展、それに反するリージョナリゼーションの動向、欧米型、日本型の経営タイプの相違と日本型経営の課題を講義する。
- 第 15 回 講義のまとめと討議
これまでの講義内容の主要点をレビューする。前回述べた日本型経営の課題を踏まえ、日本企業にとり国際化を進展させるための方法を討議する。

〔成績評価〕

・課題レポート 30点 ・期末試験 50点 ・授業での質疑・応答、取り組み姿勢 20点

〔教科書〕

・吉原英樹編『国際経営への招待』有斐閣ブックス、2002年
・小田部正明・k.ヘルセン『国際マーケティング』硯学舎、2010年

〔参考文献〕

・ジェフェリー・ジョーンズ『国際ビジネスの進化』有斐閣、1998年
・毎回の授業に関連のある専門誌論文、新聞記事などを配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎回授業後に実施する

特別研究 I 【事業開発】

7212
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 後期
今岡 重男

〔到達目標〕

教員の指導のもとでの研究に取り組み、専門的なテーマについての知識や成果を論文にまとめるための過程を段階的に習得する。また、各自のテーマに沿って、文献研究や現地調査を実践し、学生がこれを発表し学生同士が意見を出し合い議論を重ね、教員が指導する中で経営学の理論と知識を深める。さらに専門的なテーマについての知識や論文の執筆に向けた過程を確認するために、特別研究 I 前期の終了時点までに「研究計画書等」を作成する。

〔授業の概要〕

経営学の一研究領域である経営戦略論研究は、「なぜ、ある企業は他の企業より優れた業績をあげることができるのか」という研究課題に取り込む研究分野であり、この課題に取り組む研究を大別すると、2つの流れに分類することができる(Barney=Clark,2007 ; Grant,2002 ; 中橋,2008)。第1の流れは市場ポジショニング理論と呼ばれている。第2の流れは資

源ベース理論と呼ばれている。

この授業では、この第2の流れである「経営資源に基づく戦略論」(Resource Based View、以下RBV)の中心的人物J.B.バーニーの『企業戦略論』上・中・下を読んで、戦略の本質は何か、競争優位とは何か、企業の成功をいかに持続させるかを考え理解する。

当ゼミナールでは、自主的積極的な学修・研究を基礎に進めていきます。学生諸君が自主的に研究したものを発表し、学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、経営学を理解を深め、専門的力を高めることができます。修士課程2年前期に「修士論文」作成に入れるように1年後期で研究テーマの設定・分析枠組み等について学修する。

〔授業時間外・準備学習(予習復習)〕

- ①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
- ②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
- ③授業中に推薦する書籍や論文はよく読んでおく。

〔授業計画〕

- 第1回 授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
- 第2回 戦略とは何か①
事前にJ.B.バーニー『企業戦略論』上を読んで、授業当日に今回のテーマのレポートを授業開始時に求める。その後、テーマについてのディスカッションをしながら理解を促進する。
- 第3回 戦略とは何か②
テーマについてのディスカッションをしながら深い理解を得る。
- 第4回 パフォーマンス(成果)とは何か①
事前にJ.B.バーニー『企業戦略論』上を読んで、授業当日に今回のテーマのレポートを授業開始時に求める。その後、テーマについてのディスカッションをしながら理解を促進する。
- 第5回 パフォーマンス(成果)とは何か②
テーマについてのディスカッションをしながら深い理解を得る。
- 第6回 脅威および機会の分析①
事前にJ.B.バーニー『企業戦略論』上を読んで、授業当日に今回のテーマのレポートを授業開始時に求める。その後、テーマについてのディスカッションをしながら理解を促進する。
- 第7回 脅威および機会の分析②
テーマについてのディスカッションをしながら深い理解を得る。
- 第8回 企業の強みと弱み①
事前にJ.B.バーニー『企業戦略論』上を読んで、授業当日に今回のテーマのレポートを授業開始時に求める。その後、テーマについてのディスカッションをしながら理解を促進する。
- 第9回 企業の強みと弱み②
テーマについてのディスカッションをしながら深い理解を得る。
- 第10回 VRIOフレームワークの理論

教科書上巻の第5章で論じられている「企業の強みと弱み」は伝統的な議論で頻繁にとりあげられてきた。しかし、この章では明確にRBVの観点から、価値(V)、稀少性(R)、模倣可能性(I)、組織(O)の4要素でそれを分析するVRIOフレームワークが提唱されている。このフレームワークについてのレポートを、授業開始前に提出を求める。その後、本テーマについてのディスカッションをしながら理解を促進する。

第11回 VRIOフレームワークでの分析事例①

VRIO分析の例として、本書の中にデル(パソコン)の事例が掲載されている。これをもとに、RBVの観点から、価値(V)、稀少性(R)、模倣可能性(I)、組織(O)の4要素についてディスカッションし、このフレームワークの理解を深める。デル(パソコン)の事例についての授業前のレポート提出を求める。

第12回 VRIOフレームワークでの分析事例②

VRIO分析の例として、本書の中にソフトドリンク業界の事例が掲載されている。これをもとに、RBVの観点から、価値(V)、稀少性(R)、模倣可能性(I)、組織(O)の4要素についてディスカッションし、このフレームワークの理解を深める。ソフトドリンク業界の事例についての授業前のレポート提出を求める。

第13回 論文の輪読①

資源ベース理論に関する論文①を事前に指定します。それを事前に読んで、その内容についてのレポートを授業前に提出する。そのうえで、授業ではその論文に批判を加えること等のディスカッションをし、分析枠組等についての理解を深める。

第14回 論文の輪読②

資源ベース理論に関する論文②を事前に指定します。それを事前に読んで、その内容についてのレポートを授業前に提出する。そのうえで、授業ではその論文に批判を加えること等のディスカッションをし、分析枠組等についての理解を深める。

第15回 論文の輪読③

資源ベース理論に関する論文③を事前に指定します。それを事前に読んで、その内容についてのレポートを授業前に提出する。そのうえで、授業ではその論文に批判を加えること等のディスカッションをし、分析枠組等についての理解を深める。

〔成績評価〕

授業中の発表・質問・ディスカッション・レポートを通じて総合的に評価する。

〔教科書〕

J.B.バーニー『企業戦略論』上・中・下、ダイヤモンド社(2003/12/5)

〔参考文献〕

授業の中で随時示す。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

質問や相談のある人は、電話またはメールで連絡ください。
携帯電話：09083751660
パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.j

特別研究Ⅱ【事業開発】

7263
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
4単位 後期
今岡 重男

【到達目標】

学生が特別研究Ⅱ前期で書き進めた論文を、他の学生や教員との議論、教員の指導で段階的に修士論文を完成させる。

【授業の概要】

学生が特別研究Ⅱ前期で書き進めた論文に関して、他の学生との意見交換、担当教員から指導を行う。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

- ①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
- ②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
- ③授業中に推薦する書籍や論文はよく読んでおく。

【授業計画】

- 第 1 回 授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
- 第 2 回 論文の完成へ向けての質疑応答①
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 3 回 論文の完成へ向けての質疑応答②
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 4 回 論文の完成へ向けての質疑応答③
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 5 回 論文の完成へ向けての質疑応答④
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 6 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑤
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 7 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑥
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 8 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑦
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。

- 第 9 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑧
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 10 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑨
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 11 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑩
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 12 回 論文の完成へ向けての質疑応答⑪
論文完成に向けて、学生から教員への自主的な質問をし、教員は回答と指導をする。さらに学生は論文を書き進める。
- 第 13 回 作成した論文の最終検討
書き進んだ論文について学生と教員が最後の意見交換をし、教員は最後の指導をする。
- 第 14 回 修士論文の完成
前回の授業の後、学生は修正があれば修正を加えて論文を完成する。教員は提出直前の論文について最後の点検をする。
- 第 15 回 修士論文作成の反省
修士論文作成を振り返って、論文内容などが今後の職業人生の中で生かせるかどうかディスカッションする。

【成績評価】

授業中の発表・質問・ディスカッション・発表などを通じて総合的に評価する。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

授業の中で随時示す。

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

質問や相談のある人は、電話またはメールで連絡ください。
携帯電話：09083751660
パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.j

事業開発研究Ⅰ

1000
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
今岡 重男

【到達目標】

事業開発の目的や方法を学び、マーケティング戦略や競争戦略から、効率的な成長を促す成長戦略までを理論・実践の両面から学修することを目標にする。

【授業の概要】

本講では、ベンチャー企業の起業から、マーケティング戦略や効率的な成長を促す成長戦略までを、理論・実践の両面からの、講義と学生の毎回レポートとディスカッションを通じて学修する。(毎回、学生からレポートの提出を求める)最終的には「ビジネスプラン(事業計画書)」を作成することとする。

本講は、ベンチャー企業の起業に関心がある場合はもちろんであるが、一般企業や教育界・公務員としての就業希望者などにも役立つものである。

【授業時間外・準備学習(予習復習)】

新聞やテレビ、経済誌などの視聴を通して、事業開発に関する問題意識を高めて、授業の中で、教員や外部講師などに質疑ができるようにしておいて下さい。

【授業計画】

- 第 1 回 授業の進め方説明
この授業の概要と進め方の説明を行ったあとと自己紹介を行う。
事業開発とは何か、なぜ事業開発が求められているのかを確認する。
- 第 2 回 事業開発の目的と方法
事業開発を手がけることの目的や方法について考える。
- 第 3 回 ビジネスモデルと戦略
事業開発で重要となる「差別化」について、ビジネスモデルとの関連性から説明する。
- 第 4 回 成功事例にみる事業開発のポイント
実際のビジネスのもうけの仕組みなどを学ぶ。
- 第 5 回 経営戦略の実際
マーケティング戦略、競争戦略、成長戦略の実際について学ぶ。
- 第 6 回 イノベーション(革新)の実際
イノベーションとは何かを学び、ベンチャー企業の成功要因を考える。
- 第 7 回 事業開発の具体的事例①
実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。
- 第 8 回 事業開発の具体的事例②
実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。
- 第 9 回 事業開発の具体的事例③
実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。
- 第 10 回 事業開発の具体的事例④
実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。
- 第 11 回 事業開発の具体的事例⑤
実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。

第 12 回 事業開発の具体的事例⑥

実際の事業化開発事例について考察し、そのビジネスモデルや事業システムなどについて他の受講者や教員とディスカッションする。

第 13 回 ビジネスプランの作成①

事業計画はどのように立てるかを学修する。

第 14 回 ビジネスプランの作成②

自分が起業をすると仮定して、ビジネスプランを書いてみる。

第 15 回 ビジネスプランの発表

各自作成したビジネスプランを発表してもらう。
最後に、講義の振り返りと質疑応答を行う。

【成績評価】

授業中の質問・意見や毎回提出してもらうレポート、受講者学生が作成したビジネスプランなどを総合的に判定して評価する。

【教科書】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018年
グロービス経営学院『グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010年

柳孝一『ベンチャー経営論：創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、2004年

金井一頼・角田隆太郎『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

質問や相談のある人は、いつでも電話またはメールで連絡ください。

携帯電話：09083751660

パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

職業選択研究Ⅱ

1002
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
湯尾 慎一

【到達目標】

教育現場における進路指導を職業選択の立場から考える必要性を明らかにする。適切な進路指導を実施できる指導者・研究者になることを目標とする。

【授業の概要】

近年、青少年の職業意識や就業行動において大きな変化が見られ、問題として早期の離職・転職者の増加、進路未決定者の増加、無求職者の増加などがある。これらを背景として青少年の職業選択の問題が指摘され、学校教育における進路指導の重要性が高まっている。本講義においては、学校教育における進路指導の立場から教育的アプローチで、職業選択の問題と進路指導を中心に講義する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

配付資料を熟読すること

〔授業計画〕

- 第 1 回 職業選択と学校進路指導
職業選択と学校の進路指導を職業選択から考察する。
- 第 2 回 社会の変化と進路指導の問題点
社会の変化と職業指導・進路指導・キャリア教育の問題点の考察する。
- 第 3 回 教育課程と進路指導の関連
教育課程の変遷と進路指導を取り巻く状況の関連を考察する。
- 第 4 回 進路指導の諸活動とその問題点（1）
進路指導の諸活動としての自己理解・生徒理解について考察する
- 第 5 回 進路指導の諸活動とその問題点（2）
進路指導の諸活動としての進路情報について考察する
- 第 6 回 進路指導の諸活動とその問題点（3）
進路指導の諸活動としての啓発的経験について考察する
- 第 7 回 進路指導の諸活動とその問題点（4）
進路指導の諸活動としての進路相談について考察する。
- 第 8 回 進路発達の意義
学校教育における進路発達の意義を考察する。
- 第 9 回 進路指導の理論
進路指導の理論について考察する。
- 第 10 回 進路発達と職業選択
進路発達と職業選択の関係について考察する
- 第 11 回 中学生の進路発達
中学生の進路発達と学校進路指導のあり方を考察する
- 第 12 回 高校生の進路指導
高校生の進路指導と学校進路指導のあり方を考察する
- 第 13 回 進路選択におけるジェンダー問題
進路選択におけるジェンダーの問題を理解する
- 第 14 回 職業選択と進路発達の関係
職業選択と進路発達の関係を考察する
- 第 15 回 青少年の職業選択行動
青少年の職業選択行動について考察する

〔成績評価〕

講義中の発表 50%

レポート 50%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

月曜日 講義開始前（2限目講師控室）と 講義終了後

技術科教育課程論Ⅱ

1011

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

2単位 後期

藤本 光司

〔到達目標〕

「技術科教育課程論Ⅰ」の内容を継承し、中学校・高等学校における技術科教育の教育課程について深く探る。実際の教育課程編成に対して、学校教育全般を見据えた編成の能力を高める。

〔授業の概要〕

- ・教育課程を編成する際、前期の学びである基礎・基本的理解から実践的な学びに深める。
- ・授業の特性から、講義および課題演習を行う。
- ・グループ討議を行い、プレゼンテーション資料を作成し発表を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に課題図書の前読（120分）、授業後のレポート作成（120分）、学外調査などを整理する（120分）、学会発表の準備を行う（120分）。以上の点で関連する内容を自主的に学ぶ。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス
前期の学びを整理するとともに、後期の授業内容の概要を知る。
これまで学んだことを、自分なりの考えを報告する。
- 第 2 回 学校としての教育課程編成
中学校の教育課程編成について、ゲストティーチャーを招聘し最新の話題を拝聴し意見交換を行う。
- 第 3 回 教育課程編成の実際（1）
関連する学校を想定して、教育課程を実際に編成してみる。
どんな目的や目標を立てて編成したのか報告する。
- 第 4 回 教育課程編成の実際（2）
前回の課題に対して、バランスの取れた教育課程を編成する際の留意点を知る。
各自が編成した内容を修正し報告する。
- 第 5 回 教育課程編成の実際（3）
教育課程を編成する際の学校側のマネジメント（諸条件、教員配置など）について知る。
- 第 6 回 カリキュラムマネジメントの基礎理論
昨今、注目されているカリキュラムマネジメントについてその背景や概要を知る。
- 第 7 回 カリキュラムマネジメントの実際（1）
教科横断型のカリキュラムマネジメントについて知る。
事例に基づき意見交換を行い、自分の考えを整理する。
- 第 8 回 カリキュラムマネジメントの実際（2）

- 幼・中の異校種連携とカリキュラムマネジメントについて知る。
事例に基づき意見交換を行い、自分の考えを整理する。
- 第 9 回 カリキュラムマネジメントの実際 (3)
小・中の異校種連携とカリキュラムマネジメントについて知る。
事例に基づき意見交換を行い、自分の考えを整理する。
- 第 10 回 カリキュラムマネジメントの実際 (4)
中学・大学の異校種連携とカリキュラムマネジメントについて知る。
事例に基づき意見交換を行い、自分の考えを整理する。
- 第 11 回 カリキュラムマネジメントの実際 (5)
産学連携とカリキュラムマネジメントについて知る。
事例に基づき意見交換を行い、自分の考えを整理する。
- 第 12 回 教科外活動との連携 (1)
総合的学習の時間との関連を捉え、学習展開を意義ある活動にどのようにつなげていくのか考え議論する。
- 第 13 回 教科外活動との連携 (2)
特別活動 (学校行事など) との関連を捉え、学習展開を意義ある活動にどのようにつなげていくのか考え議論する。
- 第 14 回 教科外活動との連携 (3)
道徳教育との関連を捉え、学習展開を意義ある活動にどのようにつなげていくのか考え議論する。
- 第 15 回 今後の教育課程はどうなるか
次期学習指導要領を参考に教育課程の全体的特徴を捉える。
今後の教育課程の編成に関する課題について考え議論する。

【成績評価】

グループ演習への取り組み (30%)、主体的に学ぶ態度 (20%)、調査・集計への取り組み (20%)、課題レポートへの取組 (30%) を中心に総合的に評価する。

【教科書】

『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』(藤本光司、他、ぎょうせい、2020)

「中学校技術・家庭科文科省検定教科書」(開隆堂、東京書籍)

「中学校技術・家庭科 学習指導要領解説」(平成29年版、文部科学省)

『技術科教育概論』(九州大学出版会、2018)

【参考文献】

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』(安東茂樹・藤本光司他、開隆堂、2016)

授業中に適宜資料を配布する

【履修条件】

前期・後期も履修することが望ましい

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

水曜日 1, 2 限

金曜日 4 限

マルチメディア研究

1016

六麓荘キャンパス

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻

2単位 後期

中村 宏敏

【到達目標】

情報化時代においてマルチメディアは必要不可欠であり、そのものになる数値、文字、音、静止画像、動画画像のデジタル表現、加工方法や通信を解説し、デジタル技術の理解を深めると共にその応用力向上をめざす。

【授業の概要】

授業は講義だけでなく各種ソフトウェアを活用してデモンストレーションや実習も併用する。

【授業時間外・準備学習 (予習復習)】

授業で使用する素材は各自で授業時間外に準備をする必要があります。各自でデータが整った状態で講義に臨む (事前90分+復習90分)

【授業計画】

- 第 1 回 マルチメディアとは
マルチメディアを使った効率的な授業とは
- 第 2 回 数値のデジタル表現(2進数16進数)
デジタルにおける2進数と16進数表現
- 第 3 回 数値演算
数値処理について
- 第 4 回 文字のデジタル表現(アスキーコード)
ASCIIコードとは
- 第 5 回 漢字コード
漢字コードについて
- 第 6 回 静止画像のデジタル表現
デジタル写真の画素数と印刷での表現・画面での表現
- 第 7 回 画像処理(加工)
デジタル画像処理画像修正
- 第 8 回 画像圧縮とは
データの大きさについてと静止画像、動画について圧縮を体験する
- 第 9 回 音のデジタル表現
音をデジタル化するとはどういうことなのか劣化を含み体験する
- 第 10 回 音の加工
音声データの加工作業
- 第 11 回 動画アニメーション
アニメーションとはアニメーションを作りながら最終的には動画アニメーションを体験する
- 第 12 回 動画アニメーション編集
前回作った静止画アニメーションを動画に加工処理をする。

- 第 13 回 デジタル通信技術
アナログ通信とデジタル通信について考える
- 第 14 回 マルチメディア技術の展望
今後のマルチメディアを考えるバーチャルリアリティを含め広く体系的に学ぶ
- 第 15 回 学習のまとめ
ここで得た知識が、自分の生活の中でどう活用できるか、自分の研究にどう活用できるかをグループディスカッションする。

〔成績評価〕

講義理解度を、1単元毎に確認をし、理解度を測る、また、学期末には試験をおこなう。

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配付する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

講義終了後

情報教育研究

1003
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
若杉 祥太

〔到達目標〕

情報学教育から情報教育における深い学びを通して本質的な理解をする。

〔授業の概要〕

情報学教育から情報教育において、意義や役割、機能まで本質的理解を促す深い学びを展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適宜授業中に指示する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. ガイダンス
情報教育、情報学教育
- 第 2 回 2. 情報教育
情報科教育、情報化教育、情報安全教育
- 第 3 回 3. データと情報の本質と相違性
定性的考察と定量的考察、エータと情報、2つの情報量、情報概念
- 第 4 回 4. アナログとデジタルの双対性
アナログとデジタルの概念と双対性
- 第 5 回 5. リアルとバーチャルの同義性
リアルとバーチャルの概念、仮想的現実性、現実的仮想性
- 第 6 回 6. メディアの多義性と多様性
メディアの多義性と多様性、メディアの社会決定論
- 第 7 回 7. 情報セキュリティと知的財産

- 情報セキュリティとその対策、知的財産権
- 第 8 回 8. e-LearningとWBL
e-LearningとWBLの構築、教育クラウド
- 第 9 回 9. デジタル環境論
クラウドコンピューティング、デジタル環境が及ぼす影響
- 第 10 回 10. 問題解決の科学
問題解決の本質と応用、正しい情報の存在
- 第 11 回 11. 情報教育の在り方と目標
情報教育の在り方と目標・体系
- 第 12 回 12. 情報教育の歴史的経緯—教科「情報」の新設と改定—
普通教科「情報」、共通教科情報科
- 第 13 回 13. 小中学校における情報教育と教育の情報化
小中学校における情報教育、ICT活用による新しい学び
- 第 14 回 14. 情報教育の学習評価と授業改善
学習評価、基準と規準、授業改善
- 第 15 回 15. 学習の振り返りとまとめ
学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕

レポート100%

〔教科書〕

情報学教育の新しいステージ—情報とメディアの教育論、松原伸一、開隆堂（2300円＋税）

〔参考文献〕

なし

〔履修条件〕

〔備考〕

学部開講の中等教科教育法(情報)Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

〔オフィスアワー〕

適宜授業中に指示する。

国際開発教育研究

9017
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
林 徳治

〔到達目標〕

1. 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた我が国でのODAについて説明できる（知識）
2. SDGsにおいて、自己の専門に照らし合わせた開発教育に関心をもつことができる（情意）
3. 教育分野における開発途上国でのJICA事業を学び、現状と課題を討議、発表できる（技能）
4. 異文化・多文化の学習への活用が構想できる（情意）

〔授業の概要〕

様々な地域の開発途上国に対するODAとして、JICA（国際協力機構）による開発教育について考察する。開発途上国の開発目標としての「ミレニアム開発目標（MDGs）」を継承した世界合意の「持続可能な開発目標（SDGs）」の今後の

取り組みについて学び討議する。国際協力支援についてはパートナー、研修・訓練は、Knowledge Co-creation Programの考えを基調に進めていく。また本授業では、国際的な観点から情報化に対応したICT活用による開発教育に主眼をおき、国際理解教育や帰国子女教育、留学生受入れについて討議し事故の考えを提案する。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

本授業の学習は、グループワークによる協働学習、個別指導に加え、内外の研究者の参加によるテレビ会議やVODやeラーニング、SNSにより進める。

授業資料や参考文献は、eラーニングで提供する。

留学生など日本語が十分でない場合は、英語で講義を行う。また配布資料についても、英語版を使用するので電子辞書などを携帯のこと。

【授業計画】

- 第 1 回 我が国のODAの変遷
ODAの現状を把握し、課題について討議する
- 第 2 回 国際協力の意義
世界における国際協力を通し、我が国での国際協力の現状を学び、課題について討議する
- 第 3 回 国際理解教育の意義
我が国での国際理解教育の現状を学び、課題について討議する
- 第 4 回 開発協力とゴール
開発教育について学び、課題について討議する
- 第 5 回 SDGsの意義
SDGsを学び、課題について討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 6 回 我が国のODAにおける地域別取り組み
地域密接型のODAについて討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 7 回 我が国のODAにおける課題別取り組み
課題別のODAについて討議し、自己の考えを提案（プレゼン）する
- 第 8 回 我が国のODAにおける様々な事業の取り組み
ODAの各種プロジェクトについて学び、討議し、課題を討議する
- 第 9 回 JICAにおける教育協力
JICAの取り組みの現状を学び、将来的展望のゴールについて提案する
- 第 10 回 タイの大学でのFDプロジェクト（事例研究）
タイラチャパット大学における教員研修について学び、課題を討議する
- 第 11 回 PNGにおける学校教材開発と評価プロジェクト（事例研究）
PNGの教育事情について学び、課題を討議する
- 第 12 回 パキスタン・Allama Iqbal Open Univ.におけるマルチメディア教材開発と評価プロジェクト（事例研究）
パキスタンの教育事情について学び、課題を討議する
- 第 13 回 フィリピンにおけるCPSCプロジェクトの支援（事例研究）

CPSCプロジェクトとその成果を学び、課題を討議する

- 第 14 回 ホンジュラスにおける看護教員研修の支援（事例研究）
ホンジュラスにおける看護教員研修について学び、課題を討議する
- 第 15 回 今後の開発教育の課題
我が国における国際協力の進め方について提案（プレゼン）する

【成績評価】

フィールドワークへの参画、プレゼンテーション50%、提出課題50%

【教科書】

特になし

【参考文献】

授業中に適宜資料を配布する

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

メールによる質問などは、常時受け付ける。

ZOOMなどテレビ会議ツールによる質問などは、予約により受け付ける。

西洋教育思想思想史 I

1005
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
廣岡 義之

【到達目標】

『教育の制度と歴史』を教科書として使用し、西洋教育思想を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目標にする。

【授業の概要】

西洋教育思想の歴史を古代ギリシャから現代まで、鳥瞰して、歴史の必然性を理解する。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。（90分）

特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。（90分）

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
講義の進め方、試験方法等について理解する。
- 第 2 回 古代ギリシア・ローマの教育思想
古代ギリシア・ローマの教育思想を理解する。
- 第 3 回 中世の教育思想
中世の教育思想を理解する。
- 第 4 回 ルネサンス期の教育思想
ルネサンス期の教育思想を理解する。
- 第 5 回 17世紀の教育思想（コメニウス）

- 17世紀の教育思想（コメニウス）を理解する。
- 第 6 回 18世紀の教育思想（ロック、ルソー）
18世紀の教育思想（ロック、ルソー）を理解する。
- 第 7 回 ペスタロッチ等の教育思想
ペスタロッチ等の教育思想を理解する。
- 第 8 回 革命期の教育制度と教育の歴史
革命期の教育制度と教育の歴史を理解する。
- 第 9 回 19世紀の教育制度と教育の歴史（フレーベル、ヘルバルト）
19世紀の教育制度と教育の歴史（フレーベル、ヘルバルト）を理解する。
- 第 10 回 20世紀の新教育運動（田園教育舎系の教育者、シュタイナー）
20世紀の新教育運動（田園教育舎系の教育者、シュタイナー）を理解する。
- 第 11 回 アメリカの教育思想家たち
アメリカの教育思想家たちを理解する。
- 第 12 回 世界の教育制度の改革と動向
世界の教育制度の改革と動向を理解する。
- 第 13 回 現代教育の課題と展望
現代教育の課題と展望を理解する。
- 第 14 回 現代の学校教育制度①
現代の学校教育制度①を理解する。
- 第 15 回 現代の学校教育制度②
現代の学校教育制度②を理解する。

〔成績評価〕

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

〔教科書〕

広岡義之他著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

情報システム論 I

1016

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
中村 宏敏

〔到達目標〕

従来様々な場所にあるシステムを考える
既存システムにとらわれず、自由な発想で様々なシステムを考える。

〔授業の概要〕

パソコンや携帯などのネットワークシステムの現状把握と共に、現代社会における情報システムの方向性を理解し、

活用出来る人を育成することを本授業の目的とする各自が考えたシステムをグループで発表し討議をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業中に出てくる専門用語については、次回授業までに必ず各自で調べる必要がある。またシステムの構築の場合次回授業までに素案を作成する必要がある（概算180分程度）

〔授業計画〕

- 第 1 回 現代社会とネットワーク
一昔前のWindows95やXPのころと現在を比べながらネットワークの理解を深める
- 第 2 回 情報とシステム
ビッグデータなど最近の情報のあり方やそれらを駆使したシステムについて考える
- 第 3 回 仮想システムの構築
入試システムを考える。効率の良いデータ収集、データ活用を考える
- 第 4 回 仮想システムの構築
入試システムを考える続き。考えたシステムが実用可能かどうかを話し合いながら進める
- 第 5 回 仮想システムの構築
顧客管理システムを考える。仮想の会社を設定し、顧客管理はどうあるべきかを考える
- 第 6 回 仮想システムの構築
エントリーシステムを考える。競技会や大会などのエントリーシステムを考える。
- 第 7 回 現代社会における情報の氾濫について
様々な情報があるが、自分が必要とする情報にどうやって検索をするのか
- 第 8 回 ネットワークとは
コンピュータネットワークの基本を学習する
- 第 9 回 小規模ネットワークの構築
会社などでの情報規模なネットワークを設計し、構築をする。
- 第 10 回 小規模ネットワークの構築とセキュリティ
ウイルス・ワームの危険性を認識し、ネットワークセキュリティの必要性和運営を考える
- 第 11 回 携帯電話テザリングによるインターネット接続
ネットワーク外からのインターネットへの接続について考える。フリーWi-Fiの危険性についても学習する
- 第 12 回 音声認識システムについて
顔認証や、指紋認証、静脈認証、音声認識について広く学習しセキュリティについても考える
- 第 13 回 タッチパネルについてその技術と活用
タッチパネルの原理について考える
- 第 14 回 Webカメラとその活用
犯罪捜査などでもよく見かけるWebカメラについて、その設置方法とセキュリティーについて考える
- 第 15 回 学習の総まとめ
この学期の総集編、わからなかったことやこれからのシステムについて討議

〔成績評価〕

各単元に授業理解度を確し、学期末には試験をとりおこないません。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する
最新の状況を踏まえながら資料を提示する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する
コンピュータ各社の最新製品情報（セキュリティシステムを含む）

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

講義終了後

教育社会学 I

3001
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

教育社会学の対象と方法を理解することを目標にする。

教育社会学における基本的概念を理解することを目標とする。

〔授業の概要〕

教育は、人間の発達に関係し、その社会生活を規定する。

本講義においては、教育の営みの基本的枠組み・制度・機能・構造について、さらに教育社会学の基本的概念について説明する。

また近年の教育問題について焦点をあてて、教育社会学の視点から講義をする。

質問を随時受け付けて、それらの質問を踏まえて議論等をおこなう。

また積極的に維持分の意見を発表してもらいます。

学者者同士の議論 院生と教員との議論もおこないます。

レポートも課します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学校教育に関する諸問題について新聞・雑誌・ネットから情報を得ておくこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育社会学とは何か
教育社会学の視座・学問内容について学ぶ。
- 第 2 回 教育社会学の対象と方法
教育社会学の対象と方法および教育社会学の基本概念を理解する。
- 第 3 回 教育社会学の研究
教育社会学の変遷 教育社会学上の理論的・方法的枠組みについて学ぶ。
- 第 4 回 自我の形成と社会化
自我とは何か 社会化とは何か 社会化へのアプローチ 社会的自我の形成と
役割取得などを理解する。
- 第 5 回 現代社会における自我形成
役割葛藤と役割距離化 ミードの社会的自我理論
- 第 6 回 役割取得と自我形成の概念について理解する。
家族文化と社会化
現代社会における家族関係の変化と多様化について学ぶ。
- 第 7 回 家族とアイデンティティ
社会における家族関係の形成とアイデンティティについて理解する。
- 第 8 回 近代社会と幼児の教育
幼児期と基礎的社会化 子供の社会化と重要な他者 ルソーおよびフレーベルの教
- 第 9 回 育観と就学前教育について学ぶ。
学校教育への参加
学校体験の意味 理想的な学校教育への参加
ライフコースと学校参加について理解する。
- 第 10 回 教師・生徒・カリキュラム
教授＝学習過程の成立を理解する。
- 第 11 回 一斉授業 等級 学級について学ぶ。
学級の空間
学級の成立と学級空間 学校の空間的配置
教室空間の創出 学校建築と学習スタイルを理解する。
- 第 12 回 隠れたカリキュラム
隠れたカリキュラムとは何か 学習形態と隠れたカリキュラムについて学ぶ。
- 第 13 回 現代社会における中等教育（1）
社会における中等教育 分岐点としての中等教育 中等教育の起源について学ぶ。
- 第 14 回 現代社会における中等教育（2）

統合から分化へ 教育活動としての進路指導を学ぶ。

第 15 回 選別としての中等教育

分化・選別としての中等教育 日本における中等教育の選別システム・機能について理解する。

〔成績評価〕

レポート 100%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

生徒指導・進路指導特論 I

4003

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

生徒指導・進路指導特論 I においては以下のことを到達目標とします。

生徒指導に関する意義・原理と課題・基礎的な概念を理解する。

生徒理解の方法を理解し、修得することを目標とする。

さらに具体的な指導場面に即した適切な生徒指導の方法と事例を理解し、

修得することによって指導を实践できるような資質能力を身につけることを目標とする。

〔テーマ〕

生徒指導の意義、原理と課題、目標、領域、組織、方法、および生徒指導上の諸問題について

の具体的な事例について学ぶ。

〔授業の概要〕

● 授業の概要 (目的)

生徒指導・進路指導特論 I においては、生徒指導について講義をします。

〔テーマ〕

生徒指導の意義、原理と課題、目標、領域、組織、方法、および生徒指導上の諸問題についての具体的な事例について学ぶ。

〔授業の概要〕

生徒指導の本質と原理、および領域に言及する。また、生徒指導の進め方および方法について概説する。

生徒指導の方法については、集団指導と個別指導の双方からの視点から説明する。

生徒指導上の諸問題については、生徒の問題行動や教育病理現象をとりあげ、新聞記事などを教材にして、生徒指導の原理と理論を踏まえた実際の指導のあり方を論究する。

生徒指導のための体制については、学校、地域、家庭との連携を重点的に論述する。

キーワード

①生きる力 ②自己指導力 ③生徒理解と自己理解 ④集団指導と個別指導

講義時には質問や討論をおこなって学習者同士の話し合い、院生と教員の議論によってアクティブラーニングをおこなう、修得した知識と技能の確認と活用をおこなうようにする。

〔授業時間外・準備学習 (予習復習)〕

教育の現場での諸問題に関心を払い、それらの知識を新聞・雑誌・ネットで得ておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回 生徒指導の教育的意義

－生徒指導の教育上の意義・本質を理解する－

生徒指導とは何か

生徒指導の目標について

生徒指導の意義と本質について

第 2 回 生徒指導と領域

－教科指導および教科外の指導領域との関連を理解する－

生徒指導と教科指導の関係について

生徒指導と道徳教育の関係について

生徒指導と進路指導の関係について
 生徒指導と教育相談の関係について
 生徒指導と特別活動について

第 3 回 生徒指導の課題
 ー生徒指導上の課題（個人生活・学校適応・学習・人間関係等）について理解をするー

生徒指導上の形態
 治療的生徒指導
 積極的生徒指導
 開発的生徒指導

第 4 回 生徒指導上の原理
 ー生徒指導上の実践原理（人間尊重の原理・個性の原理・発達支援の原理）について理解をするー

生徒指導の実践原理

第 5 回 生徒指導の理論（1）
 ー基礎的な発達理論と教育相談の理論を理解するー

生徒指導の理論の重要性について

発達理論と教育相談
 生徒指導と教育相談

第 6 回 生徒指導の理論（2）
 ー発達段階と発達課題について理解を深めるー

生徒指導における発達段階の理解の意義

エリクソンの発達段階

第 7 回 生徒理解の意義と目的
 ー生徒理解の意義と目的について学ぶー

生徒理解の意義と目的

生徒と教師のコミュニケーション

第 8 回 生徒理解の進め方
 ー生徒理解の進め方（個別指導と集団指導）について学ぶー

生徒理解の方法
 蓋然的理解と個別理解
 共感的理解と客観的理解
 観察法 面接法 テスト法 作品法

第 9 回 生徒理解の方法
 ー生徒理解の方法（検査・カウンセリング）について学ぶー

治療的支援をさせる教育相談
 教育相談で利用されるの心理検査と心理療法
 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング

第 10 回 学級経営の進め方
 ー学級集団と学級経営について理解を深めるー

生徒指導の視点からの学級経営の意味
 学級経営の意義
 学級集団の役割と機能
 学級集団の特質
 学級経営の方法

第 11 回 法的問題・危機管理
 ー法的問題（懲戒・校則・体罰）・危機管理について理解するー

生徒指導の危機管理
 安全の保障と学習権

問題行動や事故への予知・予測
 問題行動や事故への未然防止
 問題行動や事故への対応
 問題行動や事故への再発防止

第 12 回 生徒指導と教科指導
 ー生徒指導と教科指導の関係の実践例について学ぶー

生徒指導と教科指導の統合について

第 13 回 生徒指導と病理現象
 ー学校現場における病理現象（不登校・いじめ・暴力行為・ネット問題・虐待・引きこもり等）への指導及び外部との連携を理解するー

不登校・いじめ・暴力行為・中途退学等の実態
 中1プロブレム
 高1プロブレム

第 14 回 生徒指導と教師の資質と研修
 ー生徒指導に必要とされる教師の資質と研修を理解するー

生徒指導に必要とされる教師の資質

生徒指導の実践力を育成するための研修

第 15 回 生徒指導の体制と家庭・地域との連携
 ー家庭・地域との連携について理解するー

生徒指導の運営組織
 教師間の共通理解の重要性

生徒指導の全体計画と年間計画
異校種間の連携体制
専門機関との連携

〔成績評価〕

成績評価

定期試験（筆記試験）は実施しない。（レポートを実施する。）
レポートで課題を出します。

評価の割合 100%

レポートの採点の観点、正確性 客観性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。

出席状況・出席重視・出席回数を成績に加味しない。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

生徒指導提要 (2010年 文部科学省 教育図書)

中学校学習要領 (平成20年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領 (平成21年3月告示 文部科学省)

その他 文部科学省答申

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

機械工学特論

4012
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
福田 芳行

〔到達目標〕

機械の設計・製作から運用までの全ての内容を対象とする機械工学の概要を知ることを通して、産業の発展やものづくりを支える機械工学の役割に目を向ける。

〔授業の概要〕

対象となる学問範囲が広い機械工学の全体像の理解を目的として、機械や機械の構成要素の設計・製作に必要な基礎的な学問的知識を解説する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

身の回りにある「動く製品や仕組み」について、どのような構造や原理に基づいて作動しているのかということについて、日頃から気にかけておく。構造や原理が不明な場合は、その製品の仕組みや外観を写真に保存しておくことが望ましい。

〔授業計画〕

- 第1回 機械とは何か、機械工学とは何か
機械の定義、機械工学の学問体系について講義する。
- 第2回 いろいろな機械材料①
様々な機械に使われる材料の中の「鉄鋼材料」について、種類、成分、機械的性質、用途の概要を解説する。
- 第3回 いろいろな機械材料②
様々な機械に使われる材料の中の「非鉄金属材料」について、種類、成分、機械的性質、用途の概要を解説する。
- 第4回 材料力学①
機械材料に求められる「機械的性質」の概要を解説する。
- 第5回 材料力学②
機械材料に求められる機械的性質の中の「引っ張り強度」、「圧縮強度」の概要を解説する。
- 第6回 材料力学③
機械材料に求められる機械的性質の中の「曲げ強度」の概要を解説する。
- 第7回 材料力学④
機械材料に求められる機械的性質の中の「ねじり強度」の概要を解説する。
- 第8回 機構学①
機械に用いられる様々な動作機構の中の「リンク機構」の概要を解説する。
- 第9回 機構学②
機械に用いられる様々な動作機構の中の「巻きかけ伝動機構」の概要を解説する。
- 第10回 機構学③
機械に用いられる様々な動作機構の中の歯車伝動機構に使われる「歯車」の概要を解説する。
- 第11回 機構学④
機械に用いられる様々な動作機構の中の「歯車伝動機構」の概要を解説する。
- 第12回 機械力学①
機械に用いられる回転機構における重要な物理量である「回転体の慣性モーメント」の概要を解説する。
- 第13回 機械力学②
機械に用いられる回転機構における重要な物理原理である「回転体の運動方程式」の概要を解説する。
- 第14回 エネルギー①
機械が動くために必要な「エネルギー」について、定義、種類、単位等の基本的事項を解説する。

第 15 回 エネルギー②

機械が動くために必要な「エネルギー」について、基本的な数量計算の方法を解説する。

〔成績評価〕

授業中に提示する課題の完成度、及び期末試験にて評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

・JSMEテキストシリーズ 機械工学総論、日本機械学会編、日本機械学会発行

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

民間企業において、設計部門（FF自動車用変速機的设计、開発業務）に従事した経験から、必要に応じて実物教材を使った演示実験を交えながら、回転機械の力学的及びエネルギー的解説を進める。

【オフィスアワー】

毎週1回、曜日と時間を決めて設定し、相談・質問に対応する。

教育社会学Ⅱ

3001
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

学校教育における諸問題を理解することを目標とする。

学校教育の社会的機能を理解することを目標とする。

中等教育・高等教育について教育社会学の視点から理解することを目標とする。

現代社会における教育問題を理解することを目標とする。。

〔授業の概要〕

教育における諸問題、とくに教育病理現象、教育におけるジェンダーの問題、学校の社会的機能

能、高等教育、教育と社会階層、情報社会における教育問題、とくに教育病理現象について重

点的に教育社会学の視点から講義をする。

学習者同士の討論をおこなう。

また学習者と教員との討論をおこなう。

学習者からの質問を受けてそれを題材にして議論をおこなう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

教育現場の諸問題についての予備知識を新聞・雑誌・ネットから得ておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回 教育の病理現象

教育病理とは何か こどもの発達と教育病理について学ぶ。

教育病理学について理解する。

第 2 回 教育の病理とは何か

いじめの実態 引きこもり 不登校 暴力行為などの若者の問題行動を学ぶ。

学級崩壊の背景について理解する。

第 3 回 教育におけるジェンダーの問題

ジェンダーの意味について理解する。

現代社会とジェンダー 男女共同参画社会などについて学ぶ。

伝統的性別役割 教育における隠れた性差について理解する。

第 4 回 パーソナリティの形成とジェンダー

文化とパーソナリティ形成 制度とパーソナリティ形成について理解する。

ジェンダー化の過程とステレオ・タイプについて学ぶ。

第 5 回 学校の社会的機能

社会的機能としての学校について学ぶ。

学歴社会の形成 高等教育の量的拡大と社会の変化について理解する。

第 6 回 学校の選別機能

選別機能としての学校を学ぶ。

高等教育への入学者の推移について理解する。

近代化と競争試験の制度化 日本における試験制度について理解する。

第 7 回 学校と学歴社会

学歴の問題 日本の近代化と学歴社会について理解する。

高等教育への進学率の上昇とそれに伴う課題について学ぶ。

第 8 回 高等教育の制度・機能・組織

高等教育における制度・機能・組織の多様化の問題について理解する。

ユニバーサル段階としての高等教育と大衆化について学ぶ。

第 9 回 教育と社会階層
学校から社会への移行 現代社会における社会階層の問題について理解する。

身分と階層 学歴と階層の関係を学ぶ。

第 10 回 教育と社会構造
学歴と労働市場 学校教育と職業階層について理解する。

第 11 回 学歴と社会移動
学歴と社会移動 社会移動の状況 学歴と階層をめぐる課題について学ぶ。

第 12 回 情報社会における教育問題
情報社会における教育の諸問題 情報社会の概念 メディア社会論的による教育へのアプローチについて学ぶ。

第 13 回 生涯学習社会の展望
生涯学習社会とは何か 生涯学習の定義 リカレント教育としての生涯学習について理解する。

第 14 回 生涯学習社会における教育問題
生涯学習社会の現状 生涯学習の概念 生涯学習と成人教育

日本型の生涯学習について理解する。

第 15 回 現代における教育的課題
講義の全体的な要点とまとめ

教育現象の教育社会学的把握について学ぶ。

学校教育と教育病理現象 高等教育の多様化 生涯学習の状況 メディアに関する問題について学ぶ。

〔成績評価〕

レポート 100%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日 11時から16時

生徒指導・進路指導特論Ⅱ

4003

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
吉田 隆夫

〔到達目標〕

生徒指導・進路指導特論Ⅱ においては以下のことを到達目標とします。

進路指導に関する基礎的な理論と方法を理解することを目標とする。

とくに教育現場の状況を踏まえた実践的な課題や指導場面に即した適切な進路指導の在り方を

学ぶことを目標とする。

〔授業の概要〕

生徒指導・進路指導特論Ⅱ においては、進路指導について講義を行います。

現在の進路指導を取り巻く課題としては、早期離転職、フリーター、ニートなどの増加の問題を抱えています。

これらの課題の解決に進路指導が果たす役割は大きいといえます。

進路指導のあり方が問われています。

従来は生徒指導の一領域とみなされていましたが、新教育課程の趣旨を踏まえて、進路指導は重視されています。

本講義では、とくに、高等学校における勤労体験および啓発的経験などの体験活動に注目し、その教育的意義について教育学的視点からアプローチして考えます。

講義中に質問を受けて、それらの質問に基づいて学習者と教員が討論します。

また自分の経験をもとに意見を述べてもらいます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

進路・就職・進学の問題に関心を払い新聞・雑誌・ネットなどで

これらの記事を読んで知識や情報を前もって得ておくこと。

また自分の経験から進路に関する指導に関して関心を深めておくこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の目的・意義
講義の概略 進め方などを説明する。
- 第 2 回 進路指導の意義
進路指導の教育的意義と目標について学ぶ。
- 進路指導の理念 進路指導の変遷 進路指導からキャリア教育へ
- 第 3 回 進路指導の課題
進路指導の教育的課題について学ぶ。
- 進路指導と社会的職業的自立について理解する。
- 第 4 回 進路指導の原理
進路指導の教育上の原理を学ぶ。
- 自己理解 職業理解 進路（職業）情報
- 就職指導と進学指導などについて理解する。
- 第 5 回 進路指導と職業
職業の本質と意義を理解する。
- 職業の意味 職業の本質 職業の三要素について学ぶ。
- 第 6 回 進路指導の理論 I
進路指導における理論の意義と重要性について理解する。
- 適性の概念及び特性因子理論を理解する。
- 適性の概念（古典的適性概念 適応的適性概念 価値的適性概念）
- フランク・パーソンズ及びウイリアムソンの理論お学ぶ。
- 第 7 回 進路指導の理論 II
職業的発達理論と進路指導の理論について学ぶ。
- 進路指導の指導法について学び修得する。
- 職業的発達を理解する・
特性因子理論から職業的発達理論への変遷を理解する。
職業的発達理論の進路指導上の意義を理解する。
キャリアとは何かを理解する。
- 第 8 回 自己理解および生徒理解の方法 I
自己理解の重要性を理解する。
- 自己の発見と発達について理解する。
- 自己（自我）と職業的発達の関係について理解する。
- 進路指導に際しての自己理解および生徒理解の方法について学ぶ。

- 第 9 回 自己理解および生徒理解の方法 II
エリクソンの発達段階と自我同一性確立を学ぶ。
- 自我同一性確立と職業的発達について理解する。
- 第 10 回 職業の理解
進路指導における職業理解の意義について学ぶ。
- 職業の世界の変化について学ぶ。
- とくに新しい職業と衰退していく職業について理解する。
- 第 11 回 進路指導と経験
進路指導における経験の重要性を理解する。
- 経験（体験）の意義 啓発的経験 勤労体験などについて学ぶ。
- 第 12 回 職業観の形成 I
現代の青少年の職業観の変化について学ぶ。
- 職業観・就労観について学ぶ。
- 青少年の就労意識 フリータの特徴 転職 早期離職について理解する。
- 第 13 回 職業観の形成 II
進路指導における職業観形成の指導方法を修得する。
- 職業観の発達の变化 就労観職業観の国際比較について理解する。
- 第 14 回 進路指導の実践
進路指導実践の学校体制を学ぶ。
- 学校教育における進路指導の位置づけ
進路指導活動の効果を高める学校体制づくり
進路指導に関する教職員の共通理解
進路指導の実践的展開
学校教育活動全体を通じての進路指導教育
進路指導におけるガイダンス機能の充実
- 第 15 回 まとめ
講義全体の要点とまとめ

〔成績評価〕

定期試験 定期試験（筆記試験）は実施しない。（レポートを実施する。）

レポートによる評価

レポートの採点の観点は 正確性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。

出席回数や出席状況は成績に加味しない。

【教科書】

授業中に適宜資料を配布する。

今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方(答申)
(平成23年1月)

その他 文部科学省答申

【参考文献】

授業中に適宜資料を配布する。

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

月曜日 11時から16時

企業診断研究

1015

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
政岡 勝治

【到達目標】

企業の財務諸表の理解と分析手法をマスターし、定量的な分析力を身に着ける。

企業での聞き取り手法、観察手法をマスターし、定性的な分析力も身に着けるようにする。

【授業の概要】

授日本経済の根幹を担うさまざまな企業について、経営状況を分析する診断力を有することは、将来の企業経営や起業の際にも大いに役立つ。

授業ではこういった診断力を身につけるために、実務的な視点から必要な知識を講義し、演習を加えて進めていく。

【授業時間外・準備学習(予習復習)】

授業で次回に関連する教科書の部分を紹介するので30分程度予習をすること。授業後30程度復習をして、質問があれば次回授業で行うこと。

【授業計画】

- 第1回 講義の全体説明と経営学について
企業分析する必要性、定量分析と定性分析の必要性を講義する。また、経営学の歴史的背景、体系を説明する。
- 第2回 会社の形態 その1
現在の代表的な会社形態である合同会社、合資会社、合名会社について講義する。また、新設では認められないが多く実存する有限会社についても説明する。
- 第3回 会社の形態 その2(株式会社)
前回に引き続き、現在の代表的かつ大企業の大半が採用している株式会社について講義する。

- 第4回 企業診断の業界
国家資格である中小企業診断士の活動と企業診断業界について講義する。
- 第5回 定量的診断
定量的診断の必要性とその対象となる財務諸表についての全体像を講義する。
- 第6回 財務諸表分析 その1
貸借対照表についての基礎的説明と具体的な分析の仕方を講義する。
- 第7回 財務諸表分析 その2
損益計算書の分析について基礎的な説明と具体的な分析の仕方を講義する。
- 第8回 財務諸表分析 その3
資本移動表と資金繰り表についての基礎的説明と具体的な分析の仕方を講義する。
- 第9回 財務諸表分析 その4
これまで説明をしてきた財務諸表を使い、具体的な経営指標の演習を行う。
- 第10回 財務諸表分析 その5
前週行った経営指標をもとにして作るレイダーチャートの作成と活用について講義する。
- 第11回 企業の定性的診断の重要性と診断項目
企業の定性的診断の重要性と定性的診断のための企業の構成組織ごとの診断項目について講義する。
- 第12回 定性的診断 その1
27年間勤務した総合商社での勤務経験をもとに、実践的な面接による聞き取りについて講義する。
- 第13回 定性的診断 その2(企業のさまざまな現場の観察)
前週に引き続き、企業のさまざまな現場の観察について実践経験をもとに講義する。
- 第14回 定性的診断 その3定性的診断 その3(定量的診断との組み合わせ)
定性的診断は調査者の主観左右されることが多い。客観的な分析を加えるために定量的診断との組み合わせについて講義する。
- 第15回 講義のまとめと最近の診断技法
これまでの講義のまとめと、最近の代表的な診断技法について講義する。

【成績評価】

期末試験 80%
授業の取り組み姿勢 20%

【教科書】

テキスト 内山力『コンサルティングセオリー』同友館
・参考文献・資料については適宜紹介、配布する

【参考文献】

参考文献・資料については適宜紹介、配布する

【履修条件】

【備考】

教務側入力。何も書かないこと。

【オフィスアワー】

毎回授業後に実施する

人的資源管理研究

1000

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
今岡 重男

【到達目標】

企業が活動するためには、人モノカネ情報といった経営資源が必要である。これらの資源を上手く使って経営に役立てることができれば、企業を発展させることができる。経営資源の中でも、人が最も重要な資源だと言われることがある。

そこで企業経営と人事労務管理について深く学ぶことにより、経営者を目指す学生だけではなく、普通に企業に就職することを目指す学生にとっても、将来、組織の管理者となった場合に、役立つような実践的な人事管理労務の知識習得を目標とする。

【授業の概要】

*受講者には、毎回予習レポートの提出とその発表をしてもらい、教員・受講者間でディスカッションする。

従業員の管理は企業経営の重要課題の一つである。人の管理がうまくいかないと、事業もうまくいかない。

そこで、この授業では、人事労務管理の理論的な側面と共に、実際に企業の中で行われている人事労務管理の実践的な内容を具体的な事例や産業界における話題などもできる限り取り入れて分かりやすい授業を行う。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

学生は企業内で本格的に働いたことがないと考えられる。それでも、企業の商品やサービスなら、生活の中でも触れることが多いが、企業内の人事労務管理に直接触れることは通常はない。

従って、テキストの予習や新聞などからの情報収集などで人事労務に関する関心を持つよう努めてください。

【授業計画】

第 1 回 授業ガイダンス

授業の進め方の説明と大学において人事労務管理論を学ぶことの意義を解説する。

第 2 回 企業経営と人事労務管理

企業経営者の主要な課題としては、環境変化を読む、戦略を立てる、組織をつくる、人を動かすなどが考えられる。企業は目的に沿ってこの中の人を動かす という課題に沿ってこの授業を行う。人事労務管理の目的や人事労務管理は誰が行うのかなど、事例のなかで学ぶ。

第 3 回 人事労務管理の領域

人事労務管理の領域は次の5つの領域をいうが、その概要を学ぶ。
人材の確保

人材の配置
人材の育成
給与に関する管理
職場環境の最適化

第 4 回 雇用管理

採用から配置・異動など、人的資源としての人の確保から活用に至るプロセスと雇用に関わる法的な側面についても学ぶ。

第 5 回 人材育成①

人材育成の基本について学ぶ。

第 6 回 人材育成②

人材育成の具体例について学ぶ。

第 7 回 賃金制度と評価制度

賃金の本質は何かを考え、企業内の賃金制度などの事例研究を踏まえ、評価制度あり方について学ぶ。

第 8 回 マネジメント理論の発展

テイラーの科学的管理法は経営学の始まりと言われているが、その後どのようにしてマネジメント理論が発展していったかについて学ぶ。

第 9 回 科学的管理法からトヨタ生産システムへ

科学的管理法を活用してフォードやトヨタ自動車などが生産システムを開発していったといわれています。科学的管理法をどのようにして活用したのかを考える。

第 10 回 トヨタ生産システム 1

トヨタのものづくり哲学、高い技能を育む風土やカンバン方式等のトヨタ生産システムの概要を学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。

第 11 回 トヨタ生産システム 2

トヨタ生産システムを構成するカンバン方式、一個ながし、にんべんのついた自動化、生産管理板、あんどん、THE KAIZENについて学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。

第 12 回 G.E.メイヨーの人間関係論

G.E.メイヨーは、1924年から1932年の約8年をかけて労働の生産性を上げる要因を追求する実験を行った。その結果、生産性を高めるためには従業員の士気（モラル）を高めることが必要なこととその士気を高めるためには職場の人間関係の改善が必要であることを主旨とする理論である 人間関係論 を提唱した。1950年代のアメリカ産業界や戦後日本の産業界に大きな影響を与えたこの理論を考察する。

第 13 回 マズローの欲求5段階説

この説は、心理学者A.マズローが 人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである と仮定し、人間の欲求を5段階に理論化した。この5つの欲求はピラミッド状の序列があり、低次の欲求が満たされるごとに、もう一つ上の欲求を持つようになるとした。人事管理の世界でも活用されることがあるので学んでおく。

第 14 回 P.F.ドラッカーの目標管理
チームをマネジメントする立場になった時、どのような能力や資質が求められるのか把握しておくことは大切である。ここでは、マネジメントの意味や役割、ドラッカーが提唱したマネージャーに必要な5つの基本能力、マネージャーに求められる資質について学ぶ。

第 15 回 まとめ
全授業を振り返り質疑応答を通じてまとめをする。

【成績評価】
毎回の授業後のレポートと期末レポートの総合評価で採点する。

【教科書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 第5版』有斐閣アルマ、2015/10/19

【参考文献】
奥林康司・上林憲雄・平野光俊 入門人的資源管理 中央経済社、2010年3月1日

【履修条件】
【備考】
【実務経験の活用】

企業勤務経験も交え、理論と実践の両面から講義を行う。
【オフィスアワー】
質問などがあれば、まず imaoka@ashiya-u.ac.jp 今岡重男にメールを下さい。メールを頂ければ、電話などでお話しします。

特別研究 I 【経営学】

7205

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
通年
政岡 勝治

【到達目標】
企業を中心に、学校、病院、NPO・NGOなどの非営利組織を含め、経営学の知識を活用して修士論文作成のための指導を行う。

【授業の概要】
修士論文研究に向けて、文献リサーチだけでなく、具体的な企業、業界、非営利組織などについての実態研究を含むように指導する。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】
適宜テーマに沿った、調査を継続的に行うこと。

【授業計画】
1年次
(前期)
・学部で経営学関係の科目を履修していない場合、経営学についての基礎知識の講義
・修士論文作成のための社会科学的研究の方法論（定量的、定性的）の講義

・修士論文作成のための研究対象、方法論、研究計画遂行の指導
(後期)

・修士論文題目届けの完成
・研究計画に沿い、特に、文献リサーチおよび実態研究の指導

【成績評価】
演習での発表、質疑応答などの参加姿勢および半期ごとの課題レポートをもとに総合的に判定する

【教科書】
基礎テキスト ・伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣 2001年

・伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版、2008年

【参考文献】
上記以外に履修生の研究に即し、参考文献・資料を適宜紹介する。

【履修条件】
【備考】

【オフィスアワー】
別途申し出によりスケジュールを調整する

学校カウンセリング I

1013
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
林 知代

【到達目標】
・カウンセリングに関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、教師に必要なカウンセリングの理論と実践における認識・理解を深める。

・生徒指導や教育相談におけるカウンセリングの実践のあり方を理解し、効果的なカウンセリングの方法を身につける。

・児童生徒は一日の多くの時間を学校で過ごしている。家庭で穏やかに過ごしている子ども

が、学校では不適応を起こすことも多々ある。個々の子どもと家庭、学校の環境の中で生じている親・同胞・教師との相互性を背景に、どう捉え関わっていくかを把握する。

・実際の学校におけるカウンセリング実践という視点に立って教育活動を見つめ直す。

【授業の概要】
本授業では、個の持つ特性と学校という集団の力動に焦点を当てながら、事例を通して心理臨床的視点から実践的に問題を抱えている子どもたちへの関わりを考える。自己発達を基軸にした視点から学校における支援の在り方を探究する。①教師に必要なカウンセリングの理論と実際、②カウンセリング機能と教師役割の実際、③コーディネーショ

ンとコンサルテーション, ④チーム援助の実際, ⑤生徒指導や教育相談におけるカウセリングの実際, などを柱に学校におけるカウンセリングの実際を学習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習として、次回の授業項目について学校の役割や教師の役割について考えディスカッションに備える。

復習としては、授業で学んだことをレポート形式で提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講に当たって
発表・討論授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
- 第 2 回 カウンセリング機能と教師役割
学校における心理的視点からの子ども理解と援助学校におけるの実際を討議する。
- 第 3 回 教師に必要なカウンセリングの理論 1
精神分析的心理療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 4 回 教師に必要なカウンセリングの理論 2
来談者中心療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 5 回 教師に必要なカウンセリングの理論 3
行動療法・認知行動療法について支援場面での事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 6 回 教師に必要なカウンセリングの理論 4
校内でのグループアプローチの事例を提示しロールプレイ演習によって論点を展開しながら検討論議する。
- 第 7 回 子どもの捉え方
乳幼児研究に基づく最新の発達研究に基づいて、子どものニーズを相互的関わり合いの視点から見る。
- 第 8 回 カウンセリング機能と教師役割の実際
チーム援助におけるコーディネーションの実際について発表・討論する。
- 第 9 回 カウンセリング機能と教師役割の実際 2
チーム援助におけるコンサルテーションの理論と理解について発表・討論する。
- 第 10 回 教員と保護者の連携
チーム援助におけるの教員と保護者の連携について発表・討論する。
- 第 11 回 教員とカウンセラーの連携
チーム援助における教師とカウンセラーの連携の実際について発表・討論する。
- 第 12 回 事例検討①
生徒指導におけるカウンセリング的視点の重要性について発表・討論する。
- 第 13 回 事例検討②
学習指導におけるカウンセリング的視点の重要性を発表・討論する。
- 第 14 回 事例検討③

進路指導におけるカウンセリング視点の重要性についての発表・討論する。

第 15 回 まとめ

全体を振り返り、疑問点や深めたい点について発表・討論する。

〔成績評価〕

ポートフォリオ・授業への積極的な参加（40%） 最終レポート（60%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

臨床心理学特論

1995
六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
林 知代

〔到達目標〕

臨床心理学における、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助、臨床心理学研究法の4つの領域について、それらの意義や課題等について考えていきます。主体的に自らの学びのテーマを深めることを目標としています。

〔授業の概要〕

臨床心理学に関する文献を用いて、講義、発表、ディスカッションを行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

発表のための準備を予習とします。授業で配布する資料は次の回の授業までに熟読し疑問点を各自調べておくことを求めます。

復習はレポートで提出してもらいます。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって
自己紹介、授業の目的と進め方、成績の評価法を示します。
- 第 2 回 臨床心理学の歴史と現状①②
臨床心理学の歴史と現状を概説し、ディスカッションします。
- 第 3 回 臨床心理学の歴史と意義
臨床心理学の歴史と現状を概説し、ディスカッションします。
- 第 4 回 臨床心理学の変遷と現状
臨床心理学の理論と時代的変遷について概説し、ディスカッションします。
- 第 5 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション①
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、

講義、グループ発表、ディスカッションを行います。

- 第 6 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション②
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 7 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション③
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 8 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション④
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 9 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション⑤
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 10 回 臨床心理学の諸領域の検討とディスカッション⑥
臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理援助等の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。
- 第 11 回 臨床心理学における研究の意義
臨床心理学における研究の目的や意義について概説します。
- 第 12 回 臨床心理学における研究テーマ①
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます
- 第 13 回 臨床心理学における研究テーマ②
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。
- 第 14 回 臨床心理学における研究テーマ③
各自の研究テーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます
- 第 15 回 まとめ
授業の振り返りをします。

〔成績評価〕

ディスカッションの姿勢と内容(30%)
ポートフォリオと期末レポート(70%)

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

環境生物学研究

4014

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
渡 康彦

〔到達目標〕

体内時計の性質を説明できる。

生物の環境への時間的適応と人のより良い生活に関係づける。

〔授業の概要〕

生物は時間環境にも適応しなければならない。環境は時々刻々と変化するからだ。昼行性、夜行性、薄明薄暮活動性など種によって活動時間帯は異なる。その活動をコントロールしているのが体内時計である。体内時計は活動以外にも様々な体の調節機構に関与している。この体内時計の性質について考えていく。またヒトにとっての体内時計に関しても扱う。最近増えている睡眠障害や不登校などは体内時計が環境へ同調できないことが原因であることが多いと考えられているからだ。

学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前の英文資料を訳す（120分）授業後のレポート作成（120分）

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめに
授業内容についての説明。
- 第 2 回 体内時計の性質①
周期は約24時間であることについて。
- 第 3 回 体内時計の性質②
温度補償性について。
- 第 4 回 体内時計の性質③
体内時計の環境への同調について。
- 第 5 回 体内時計の光受容器①
昆虫の光受容器について。
- 第 6 回 体内時計の光受容器②
昆虫以外の光受容器について。
- 第 7 回 体内時計のありか①
昆虫の体内時計のありかについて。
- 第 8 回 体内時計のありか②
昆虫以外の体内時計のありかについて。
- 第 9 回 体内時計遺伝子①
昆虫の時計遺伝子の24時間を刻む仕組みについて。
- 第 10 回 体内時計遺伝子②
昆虫以外の時計遺伝子の24時間を刻む仕組みについて。
- 第 11 回 ヒトの体内時計
体内時計によってコントロールされていることについて。
- 第 12 回 睡眠の重要性
睡眠への体内時計の関りと睡眠の質（レム睡眠、ノンレム睡眠）について。

- 第 13 回 睡眠障害
睡眠相後退症候群などの睡眠障害と体内時計について。
- 第 14 回 子どもの睡眠と体内時計
「早寝早起き朝ごはん」が子どもにとって重要なわけについて。
- 第 15 回 光周性と光周時計
季節を読む光周性とその根底にある光周時計について。

〔成績評価〕

随時レポートを提出してもらい、総合的に評価する。
授業への取り組み (50%)、レポート (50%)。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

Insect Clocks, 2nd ed. Saunders, D.S., 1982. Pergamon Press, Oxford.

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

英語圏文学と異文化理解

4006

六麓荘キャンパス
(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
中田 康行

〔到達目標〕

英語圏について認識を深化させ、異文化を多様な角度から理解できること。

〔授業の概要〕

グローバル化する世界事情の中で、とりわけ経済、政治など、あらゆる文化の側面で、英語が使われている。英語圏の国々の多様な文化の側面を考察し、様々な地域性の強い異文化を深く理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

平素から海外の事情、出来事などに目配りし、外国の文化現象に関心を抱くこと。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要の説明
90分の前半：授業の概要(内容、テーマ、評価機方法など)
国際評価基準：教養としてのJapanologyと英語の重要性(導入)
- 第 2 回 イギリスによる世界の植民地化開始
1600年、イギリスによる東インド会社(政府機関)の設立)。このことが意味するもの。
- 第 3 回 イギリスの文化的背景と現代英語

現現代グランドの直系祖先はアングロ=サクソン人であり、イギリス文化のルーツをそこに求めることができる。

- 第 4 回 アメリカの文化的背景と現代米語
17世紀から始まるアメリカの植民地化に伴い、ヨーロッパの列強が移民政策を始め、多くの言語がその痕跡を現在もとどめている。
- 第 5 回 英語と米語
イギリス英語とアメリカ英語は発音、語彙、表現の面でかなりの相違があることを確認する。
- 第 6 回 世界の多様な英語(インドの英語、一つの具体例)
世界には主に第二言語、公用語として多様な英語が存在するが、例としてインドの英語を取り上げる。
- 第 7 回 英語に入った日本語の語彙
主に米語だが、かなり多くの日本語の単語が入っている。
- 第 8 回 イングランドとケルト系文化
イギリスは4つの国の連合である。イングランドを除き、他は基本的にはケルト系である。
- 第 9 回 Rehispanicization とCaliforniaおよびアメリカ南部
アメリカ南部の移民問題は、合衆国建国以前からの民族の問題とも関わっており、21世紀特有の問題ではない。
- 第 10 回 Tourism と英語
豪華客船、航空機など移動交通手段の飛躍的進歩により、海外旅行が盛んな時代となった。非英語圏の国々で英語はどの程度通用するのかを考察する。
- 第 11 回 英語圏を含むヨーロッパの大学の起源
11世紀に始まる大学がヨーロッパでいかに増え、どのようなものであったかを理解し、現在の大学との相違点を考える。
- 第 12 回 ヨーロッパの大学の発展と日本の大学
ヨーロッパの大学には古いタイプのカレッジ制を有する大学が結構あるが、日本の大学とは教育内容・制度ともいかに違うかを考察する。
- 第 13 回 キリスト教の発展とヨーロッパの大学
ヨーロッパの大学を語る時にはキリスト教との関係や修道院との関係を考慮しなければならない。
- 第 14 回 古代、中世からの遺産と技術の進歩
ギリシア、ローマを除き、ゲルマン社会に10世紀以前には石造建築は数多く見られなかったが、以後の石造建築の技術の進歩を具体的に考える。
- 第 15 回 過去から現代人は何を学ぶか
人間社会は常に過去の遺産の上に成り立っている。それを意識するか否かは別問題であり、概ね個人個人の教育のレベルや教養と関わるところでもある。それゆえ、過去(歴史や文化史)を知ることの重要性を深く認識しなければならない。

〔成績評価〕

レポート2回(50%、50%)

〔教科書〕

ハンドアウト・資料配布

〔参考文献〕

D.M.Wilson, The Anglo-Saxons (second ed.), Penguin.
(中田』康行訳『アングロ＝サクソン人』(晃洋書房))

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。

アドレス nakata@ashiya-u.ac.jp

教育学研究方法

2023

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位
三羽 光彦

〔到達目標〕

本科目は博士前・後期課程・修士課程に必修である。各自の研究の実際に即して、研究の在り方、研究生活、研究方法および研究倫理（個人情報保護、著作権保護を含む）について、大学院担当教員よりオムニバス形式で授業を行う。修士論文作成へ向けて、受講生各自が研究の在り方を考える指針としてほしい。

〔授業の概要〕

受講生はそれぞれの研究領域、研究テーマに引きつけて具体的・实际的に理解し、受講生同士の議論交流も行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に資料を読み込む（90分）、授業後にレポート作成（90分）をする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 大学院における研究生活
学部までの勉強と大学院生としての研究の違い。研究のおもしろさと難しさについて考えます。
- 第 2 回 教育学研究と教育実践
教育学の研究は教育実践とどのような関係にあるか、研究と実践の在り方を考えます。
- 第 3 回 教育学と基礎科学
教育学とその基礎にある基礎科学・学問（哲学・心理学・法学など）との関係について考えます。
- 第 4 回 文献リサーチの方法
先行研究の論文や文献をさまざまなサイトでリサーチする方法を学び、あわせて著作権保護についても認識を深めてもらいます。
- 第 5 回 図書館の使い方
大学図書館や公共図書館、さまざまな資料館を最大限活用する方法について学びます。
- 第 6 回 研究の方法 (1)
理論・実験・調査・統計などの研究方法について考えます。
- 第 7 回 研究の方法 (2)

臨場的な研究方法について学び、あわせて個人情報保護についても認識を深めてもらいます。

- 第 8 回 研究の方法 (3)
教科教育方法を事例に研究の在り方について考えます。
- 第 9 回 研究の方法 (4)
教育学や心理学など人文社会科学と自然科学はどう違うのか、共通点と異質な点を考えます。
- 第 10 回 研究倫理について
盗用、剽窃、二重投稿などの問題について認識を深め、適切な引用の仕方などを学びます。
- 第 11 回 学説史を学ぶ (1)
内外の教育学の学説史について考察します。
- 第 12 回 学説史を学ぶ (2)
心理学を対象として内外の学説史を考察します。
- 第 13 回 教育学の古典を読む (1)
教育学関係の古典について、代表的なものを購読し論評し、古典の読み方について考えます。
- 第 14 回 教育学の古典を読む (2)
教育学関係の古典について、代表的なものを購読し論評し、古典の読み方について考えます。
- 第 15 回 まとめ
全体のまとめをします。

〔成績評価〕

レポートによって評価する。

〔教科書〕

特になし。授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時10分から13時30分まで。できればあらかじめアポしてください。

教育行政学 I

2021

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：教育行政の理論と制度

到達目標：この授業は、①学校教育を中心とする教育行政の基礎的理論と制度の在り方を理解すること、②教育政策や教育法の現在の動向を理解すること、③近年の教育行政学の研究成果や論点を整理すること、④教育と教育行政を動かす法的メカニズムを学校教育の現場に即して理解すること、以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場で教育行政的知見を活用できるように配慮して授業を行ないます。

〔授業の概要〕

教育、特に公教育である学校教育を考察する場合、法制度を無視することはできません。日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、地方教育行政法、学習指導要領など、法制度的な枠組みを軸に、重要な教育行政の基礎理論や制度の理解、論点の把握が必要となります。この授業では、あらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポートによって、学習者同士が討論し合う形で進めます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、理論や制度の概要と論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておくこと（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとする（100分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育行政の意義と機能
教育行政とは何か、その意義と役割について考察します。
- 第 2 回 教育行政と一般行政
教育行政と一般行政の違い、教育行政の一般行政からの独立について考察します。
- 第 3 回 教育基本法と教育目的
教育基本法における教育の目的「人格の完成」をどう見るかを考察します。
- 第 4 回 日本国憲法と教育条項
日本国憲法26条の教育を受ける権利義務の条項について考察します。
- 第 5 回 学習権保障と義務教育制度
今日の日本の学習権保障の現状と問題点、義務教育制度の課題について考察します。
- 第 6 回 教育の機会均等をめぐる
現代日本における教育の機会均等をめぐる諸問題について考察します。
- 第 7 回 特別支援教育と障がい者の権利
特別支援教育の諸相、在り方を理解しながら、障がい者の権利について考察します。
- 第 8 回 教育行政の原理、教育と教育行政の関係
教育行政の原理的あり方について、特に教育と教育行政の関係について考察します。
- 第 9 回 教育委員会制度の理論と歴史
戦後日本の教育委員会制度の理論と歴史について考察します。
- 第 10 回 教育課程行政と学習指導要領
教育課程行政の在り方と学習指導要領の変遷について考察します。
- 第 11 回 教科書と教科書行政
日本における教科書と教科書行政について歴史的の考察します。
- 第 12 回 教職員の身分と責務
教職員法制の概要と教職員の責務について考察します。
- 第 13 回 学校経営の在り方とチーム学校

学校経営、学校の安全と危機管理、チーム学校の在り方について考察します。

- 第 14 回 学校と地域の連携
学校と地域、学校教育と社会教育の連携について考察します。
- 第 15 回 本授業のまとめ
本授業を全体として復習しまとめます。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価する。

〔教科書〕

井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト 教育と教育行政』勁草書房、2015年。文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できればあらかじめアポを取ってください。

教育行政学Ⅱ

2021

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：現代の教育問題と教育行政の課題

到達目標：この授業は、①学校教育を中心とする教育行政の理論と制度の理解の上に、現代日本の公教育の状況や課題を整理すること、②教育政策や教育法の現在の動向を教育問題との関連で理解すること、③近年の教育行政学の研究成果や論点を、教育問題との関連で整理すること、④教育と教育行政を動かす社会的メカニズムを学校教育の現場に即して理解すること、以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場の諸問題を教育行政の知見から考察することができるよう配慮して授業を行います。う。

〔授業の概要〕

少子化の進展、教員の多忙化、貧困や格差をめぐる問題、障がい者の権利問題、ジェンダー平等の観点からの教育への要請、社会の急速なデジタル化への対応、震災や伝染病などへの対応などなど、今、教育をめぐる問題は山積し、教育行政にその対策が迫られている。本授業（教育行政学Ⅱ）は、教育諸課題を法的・制度的な枠組みから理論的に理解することを目指しており、教育行政学の発展的な授業です。したがって教育行政学Ⅰの修得を前提として履修することとしています。今日的な重要な教育行政の問題につ

いて、あらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポートによって、学習者同士が討論し合う形で進めます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、理論や制度の概要と論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておくこと（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとする（100分）。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校の危機管理の課題
災害、伝染病と学校の危機管理、教育行政の課題について考察します。
- 第 2 回 貧困、教育格差と教育行政
教育行政の課題として、貧困、教育格差との問題が浮上しています。行政が何をすべきか考察します。
- 第 3 回 学校のデジタル化の課題
学校のデジタル化と教育行政、デジタル教科書、電子黒板の課題について考察します。
- 第 4 回 Society5.0,とAI時代の教育改革
Society5.0,の構想とAI時代の教育改革のいくえについて考察します。
- 第 5 回 教員の多忙化問題
教員の職務の膨張と多忙化問題について考察します。
- 第 6 回 教員の働き方改革
教育界の働き方改革はどうあるべきか考察します。
- 第 7 回 部活指導の在り方をめぐって
学校における今後の部活指導の在り方について考察します。
- 第 8 回 地域社会と学校の関係
地域社会と学校の関係、コミュニティースクールの展望について考察します。
- 第 9 回 高等学校改革の今後
普通科高校の制度類型化など高校の今後の在り方について考察します。
- 第 10 回 さまざまな障害と特別支援教育の在り方
さまざまな障害と特別支援教育の在り方をノーマライゼーションの観点から考察します。
- 第 11 回 幼保一元化と保育所待機児童問題
幼保一元化や保育所待機児童問題の問題など、保育・乳幼児教育の課題を考察します。
- 第 12 回 公教育の無償制と教育財政の課題
貧困と格差が問題となる中、公教育の無償制と教育財政の課題について考察します。
- 第 13 回 過疎化・学校統廃合と教育行政
過疎化・学校統廃合の問題を多角的に考察します。
- 第 14 回 外国人労働者と多文化教育問題
外国人労働者の教育問題を多文化教育の問題として考察します。
- 第 15 回 本授業のまとめ

本授業を全体として復習しまとめます。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価する。

〔教科書〕

井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト 教育と教育行政』勁草書房、2015年。文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できればあらかじめアポを取ってください。

教育学基礎研究 I

2001

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
三羽 光彦

〔到達目標〕

テーマ：人類史のなかで教育の基礎概念を学ぶ
到達目標：この授業では、教育にかかわるさまざまな基礎的概念を、広く人類史のなかで再検討することを目的としています。現代の教育状況や教育問題と関連づけながら、人間や社会に関する基本的な考え方を人類の歴史という大きなスケールのなかで整理します。①教育にかかわる人や社会に関する基礎的概念を、人類史のさまざまな局面を背景として、多面的・歴史的に紹介する。②紹介した議論の内容を理解し、他の議論と比較しながらその論点を把握する。④それらの論点を自己の教育観と比べながら考察し、各自論評を行い、受講生が討論し自らの考えを深め合う。以上が本授業の到達目標です。

〔授業の概要〕

教育という社会現象を考察する場合、人間や社会に関する基礎的概念の理解は避けて通れません。しかし、そうした基礎的概念について、誰もがわかったつもりで、あるいは共通理解があるつもりで議論している場合が多々あります。それが教育についての議論のすれ違いを生んでいることがあります。教育をより根源的に深い地点から理解するため、人類史という広大なスケールのなかで、人と社会に関する基礎的な概念を再検討します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

あらかじめ提示した講義概要にそって、各概念に関する内容や論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておいてください（100分）。授業は討論形式で行い、

授業後は小レポートを作成して提出することとします（100分）。

【授業計画】

- 第 1 回 人類の誕生と人間の特質
人類の直立二足歩行という特質。ホモ・サピエンスという種の特徴について考察します。
- 第 2 回 生理的早産と発達の可塑性について
生理的早産のメカニズム、出産と育児の特質について考察します。
- 第 3 回 言語の成立と想像力の発達
言語の成立と想像力の発達に関連して、共同体の形成、言語と人間形成について考察します。
- 第 4 回 農耕革命と人間社会
人類史における農業の意義、定住社会と人間形成について考察します。
- 第 5 回 記号から文字へ、文字言語の形成
文字言語の形成、書記体系と官僚制、学校の誕生について考察します。
- 第 6 回 宗教と人間社会
世界宗教の誕生、宗教と教育の関連について考察します。
- 第 7 回 男女の区別と差別
生物的性差と社会的性差、ジェンダーと教育について本源的に考察します。
- 第 8 回 貨幣と帝国の発達
貨幣の本質、さまざまな世界帝国と教育の関係について考察します。
- 第 9 回 家族形態の変容
家族形態の類型、大家族制、家父長制の形成と人間形成、教育について考察します。
- 第 10 回 近代科学の成立と教育
近代科学の成立、科学と帝国の結合、近代大学の形成と発展について考察します。
- 第 11 回 資本主義経済と教育
資本主義の形成と発展、資本と労働のなかの人間形成、貧困と教育について考察します。
- 第 12 回 科学主義と技術の問題
科学信奉と科学主義、技術の発展と資本主義の支配について考察します。
- 第 13 回 近代人の疎外と孤独
家族とコミュニティーの崩壊、近代人の孤独、近代の教育問題について考察します。
- 第 14 回 人類史における文明と教育
人類史のなかで文明の発達をどう見るかについて考察します。
- 第 15 回 AI時代の教育
AIとバイオテクノロジーの時代の教育課題について考察します。

【成績評価】

試験はレポートにします。最終レポート50点、各小レポート50点、計100点によって成績を評価します。

【教科書】

特になし、授業中に適宜資料を配布します。

【参考文献】

ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳『サピエンス全史 下・下』など。適宜資料を紹介または提示します。

【履修条件】

【備考】

【オフィスアワー】

水曜日12時30分から14時まで、研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教育学基礎研究Ⅱ

2001

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
三羽 光彦

【到達目標】

テーマ：教育学説史を通して教育の基礎概念を学ぶ

到達目標：この授業では、教育にかかわるさまざまな基礎的概念を再検討することを目的としています。教育学説を学びながら、現代の教育状況や教育問題と関連づけて、教育と教育学に関する基本的な概念を整理していきます。①教育と教育学にかかわる基礎的概念を、さまざまな論者の考え方を多面的・歴史的に紹介する。②紹介した論者の考え方を理解し、他の論者と比較しながらその論点を把握する。④それらの論点を自己の教育観と比べながら考察し、各自論評を行い、受講生が討論し自らの考えを深め合う。以上が本授業の到達目標です。

【授業の概要】

教育という社会現象を考察する場合、教育や教育学に関する基礎的概念の理解は避けて通れません。しかし、そうした基礎的概念について、誰もがわかったつもりで、あるいは共通理解があるつもりで議論している場合が多々あります。それが教育についての議論のすれ違いを生んでいることがあります。教育をより根源的に深い地点から理解するため、教育論の土台にある基礎的な概念を再検討します。

【授業時間外・準備学習（予習復習）】

あらかじめ提示した講義概要にそって、各概念に関する各論者の内容や論点を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって調べて、疑問点や討論したい点をまとめておいてください（100分）。授業は討論形式で行い、授業後は小レポートを作成して提出することとします（100分）。

【授業計画】

- 第 1 回 発達と教育
成長・成熟と発達、発達と教育の関係について学説を整理します。
- 第 2 回 遺伝と環境
遺伝子科学の現在の水準から、学説史を整理します。
- 第 3 回 人間形成と教育

- 共同体の教育営為から学校の形成へ、史的プロセスを考察します。
- 第 4 回 学校の類型
宗教、官僚制と学校、民衆と学校の視点から学校の類型を整理します。
- 第 5 回 言語と教育
言語能力と読解力について考察します。
- 第 6 回 数と教育
数量認識、数理能力の重要性、文理分けの問題性について考察します。
- 第 7 回 リベラルアーツ教育について
自由七科とリベラルアーツ教育について考察します。
- 第 8 回 職業教育について
職業教育と普通教育の葛藤と融合について考察します。
- 第 9 回 「自由」とは何か
「自由」と道徳、個人の確立について考察します。
- 第 10 回 国家道徳と徳育
国家道徳と徳育の問題について考察します。
- 第 11 回 幼児教育と家庭教育
幼児の発達と家庭教育について考察します。
- 第 12 回 児童期と小学校
児童期の発達と小学校教育の諸問題について考察します。
- 第 13 回 義務教育の課題
義務教育の在り方、共通教育と教育の自由などについて考察します。
- 第 14 回 等教育の在り方
等教育の一元化と多様化について考察します。
- 第 15 回 大学教育の在り方
大学から高等教育へ、研究と教育の統一について考察します。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時00分まで。研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

環境教育特論

2024

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 前期
池田 聡

〔到達目標〕

環境教育の現状と問題点を把握
環境教育の在り方について自分の考えを構築
学部で習得した知識の発展
上記の内容を目標とする。

〔授業の概要〕

環境教育の理念と実践を学習し、持続可能な社会づくりをめざす環境教育について、参加型学習・問題解決型・体験型の方法とスキルを理解する。
ネイチャーゲームや多様なアクティブラーニングを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕

- 第 1 回 環境教育特論で何を学ぶかについて
環境問題とは何かについての導入
- 第 2 回 過去と現在の比較
地球の過去と現在について学習する
- 第 3 回 循環型社会とは何か学ぶ①
江戸時代の循環型社会について学習する
- 第 4 回 循環型社会とは何か学ぶ②
我々が目指す現在の循環型社会について学習する
- 第 5 回 循環型社会とは何か学ぶ③
江戸時代と現在の比較
- 第 6 回 体験型環境教育について学ぶ①
体験型環境教育について学習する
- 第 7 回 体験型環境教育について学ぶ②
ネイチャーゲーム等多様なアクティブラーニングについて学習する
- 第 8 回 体験型環境教育について学ぶ③
ネイチャーゲーム等多様なアクティブラーニングについて実践
- 第 9 回 体験型環境教育について学ぶ④
自らアクティブラーニングを考える
- 第 10 回 体験型環境教育について学ぶ⑤
自ら考えたアクティブラーニングの実践
- 第 11 回 地域における環境教育
地域における環境教育について学習する
- 第 12 回 家庭における環境教育
家庭における環境教育について学習する
- 第 13 回 学校における環境教育
学校における環境教育について学習する
- 第 14 回 旅行における環境教育
旅行における環境教育について学習する
- 第 15 回 全体のまとめ

全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕

レポート及び課題等の評価（50%）

試験の総合評価（50%）

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日4限目または水曜日3限目

人間環境研究

2024

(院)教育学研究科 > 技術教育専攻
2単位 後期
池田 聡

〔到達目標〕

人間と人間を取り巻く環境の言及

今日の複雑化する人間環境を自然的環境・社会的環境・文化的環境の側面

学部で得た基礎知識の発展

〔授業の概要〕

自然的環境と社会的環境の関係について学習し、現在の環境問題に関する認識と法体系を学び、諸問題の原因と今後の課題について発展的な学習をする。

毎時間、内容理解を深めるために課題を用意する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義内で指定した課題の復習（2時間）

講義内で指定した課題の予習（2時間）

毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕

第 1 回 導入

人間環境研究で何を学ぶのか。導入

第 2 回 人間社会と自然環境の結びつきについて学ぶ

人間社会と自然環境の結びつきについて学習する

第 3 回 地球について学ぶ①

原始地球について学習する

第 4 回 地球について学ぶ②

原始地球に含まれていた原料物質と微惑星との関係について学習する

第 5 回 地球について学ぶ③

原始地球から現在の地球になるまでの過程を時系列的にとらえ学習する

第 6 回 現在の環境問題

現在、問題となっている諸問題について学習する

第 7 回 我が国の法体系

環境問題に関する我が国の法体系を学習する

第 8 回 各国の対応

各国の環境問題を学習する

第 9 回 比較①

日本と他の国との環境問題の比較学習する

第 10 回 比較②

日本と他の国との環境問題に関する法体系を比較学習する

第 11 回 地球上に生息する生命体（動物）

地球上に生息する生命体（動物）について学習する

第 12 回 地球上に生息する生命体（植物）

地球上に生息する生命体（植物）について学習する

第 13 回 映像から考える環境問題 I

映像を用いて環境問題を学習する

第 14 回 映像から考える環境問題 II

映像を用いて環境問題を学習する

第 15 回 全体のまとめ

全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕

レポート及び課題等の評価（50%）

試験の総合評価（50%）

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日4限目または水曜日3限目